

青梅市在宅介護実態調査報告書

平成29年4月

青梅市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の実施の目的	1
2	調査の種類	1
3	調査方法と回収状況	1
4	調査項目	2
5	調査結果を見る上での注意事項	2
II	調査項目の集計結果（単純計算結果）	3
1	基本調査項目（A表）	3
(1)	世帯類型	3
(2)	家族等による介護の頻度	3
(3)	主な介護者の本人との関係	4
(4)	主な介護者の性別	4
(5)	主な介護者の年齢	5
(6)	主な介護者が行っている介護	6
(7)	介護のための離職の有無	7
(8)	保険外の支援・サービスの利用状況	8
(9)	在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	9
(10)	施設等検討の状況	10
(11)	本人が抱えている傷病	11
(12)	訪問診療の利用の有無	12
(13)	介護保険サービスの利用の有無	12
(14)	介護保険サービス未利用の理由	13
2	主な介護者様用の調査項目（B票）	14
(1)	主な介護者の勤務形態	14
(2)	主な介護者の方の働き方の調整の状況	15
(3)	就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	16
(4)	主な介護者の就労継続の可否に係る意識	17
(5)	今後の居宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	18
3	要介護認定データ	19

(1) 年齢	19
(2) 性別	19
(3) 二次判定結果（要介護度）	20
(4) サービス利用の組み合わせ	20
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	22
(6) 通所系サービスの合計利用回数	22
(7) 短期系サービスの合計利用回数	23
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	23
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	24
III 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）	25
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	25
1.1 集計・分析の狙い	25
1.2 集計結果と着目すべきポイント	25
(1) 基礎集計	25
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	27
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	30
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	34
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	38
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	41
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	44
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	51
2.1 集計・分析の狙い	51
2.2 集計結果と着目すべきポイント	51
(1) 基本集計	51
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	55
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係	58
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	62
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	63
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	66
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	71
3.1 集計・分析の狙い	71

3.2 集計結果と着目すべきポイント	71
(1) 基礎集計	71
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	73
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	76
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	81
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	85
4.1 集計・分析の狙い	85
4.2 集計結果と着目すべきポイント	85
(1) 基礎集計	85
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	86
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	88
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	91
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	95
5.1 集計・分析の狙い	95
5.2 集計結果の傾向	95
(1) 基礎集計	95
(2) 訪問診療の利用割合	99
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	100
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	101
6 サービス未利用の理由など	103
6.1 集計・分析の狙い	103
6.2 集計結果（参考）	104
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	104
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	108
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス	112
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	116
(5) 要介護度別の抱えている傷病	117
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	118

※参考資料 青梅市在宅介護実態調査 調査票

I 調査の概要

1 調査実施の目的

本調査は第7期介護保険事業計画の策定において、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしたいためにはどのようなサービスが必要か」といった観点も盛り込むため、「高齢者等の適切な住宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的としています。

2 調査の種類

調査名	調査対象
1. 青梅市在宅介護実態調査	要支援・要介護認定を受けている方で、更新申請・区分変更申請で認定調査を受けた在宅の方（施設入所者を除く）。

3 調査方法と回収状況

調査方法：聞き取りによるアンケート調査

調査期間：平成28年11月14日（月）～平成29年3月10日（金）

<回収状況>

調査名	対象件数	回収数	回収率
1. 青梅市在宅介護実態調査	719件	600件	83.4%

※国から人口10万人を上回る自治体の目標サンプル数は概ね600件とされている。

4 調査項目

調査項目
1. 住宅限界点の向上のための支援・サービス提供体制について
2. 仕事と介護と両立に向けた支援・サービスの提供体制について
3. 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備について
4. 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制について
5. 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制について
6. サービスの未利用の理由など

5 調査結果を見る上での注意事項

- ・「性別」「年齢」「介護度」「自立度」については、基本情報から項目を追加し、集計した。
- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

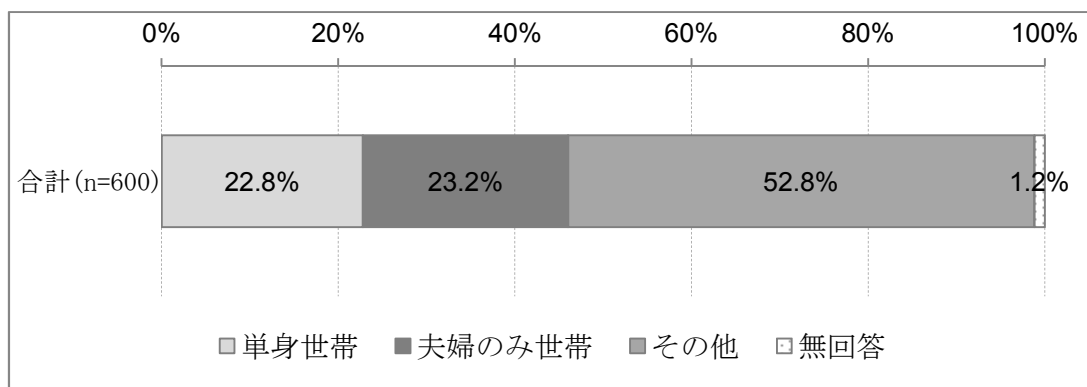
I 調査項目の集計結果（単純計算結果）

1 基本調査項目（A票）

(1) 世帯類型

問1 世帯類型について、ご回答ください（1つを選択）

図表 1-1 世帯類型（単数回答）

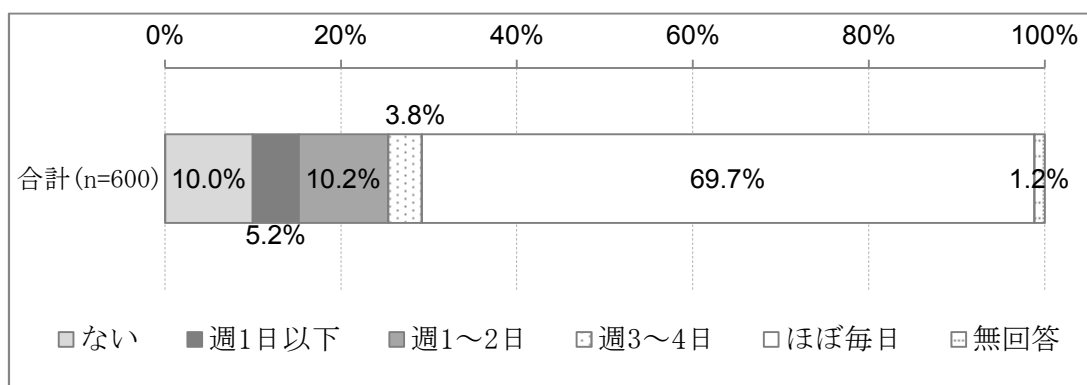


「その他」が52.8%、「夫婦のみ世帯」が23.2%、「単身世帯」が22.8%であった。

(2) 家族等による介護の頻度

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）（1つを選択）

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

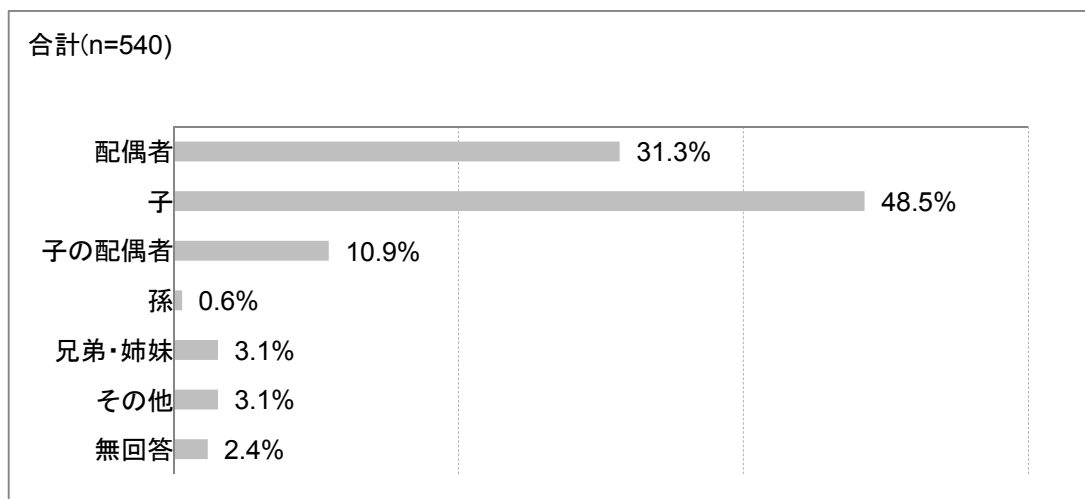


「ほぼ毎日」が69.7%で最も多く、次に「週1~2日」が10.2%となっている。

(3) 主な介護者の本人との関係

問3 主な介護者の方は、どなたですか（1つを選択）

図表 1-3 主な介護者の本人との関係（単数回答）

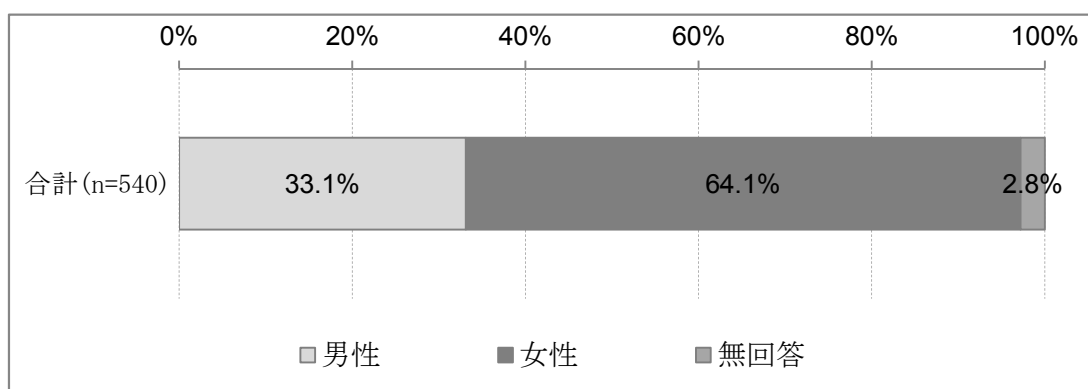


「子」が48.5%と最も多く、「配偶者」が31.3%、「子の配偶者」が10.9%となっている。

(4) 主な介護者の性別

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください（1つを選択）

図表 1-4 主な介護者の性別（単数回答）

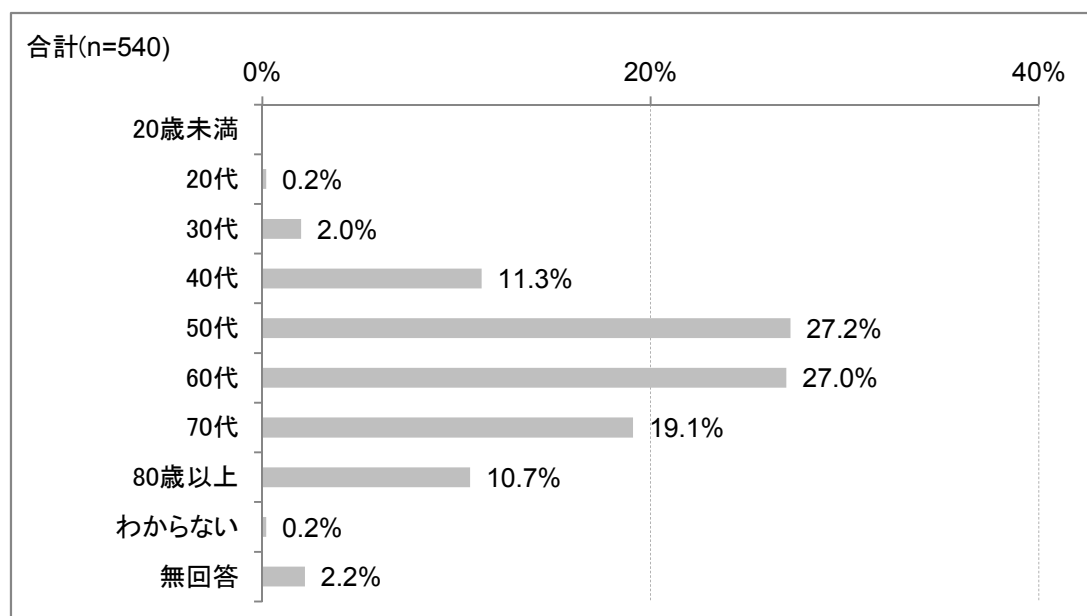


「女性」が64.1%、「男性」が33.1%となっている。

(5) 主な介護者の年齢

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください（1つを選択）

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）

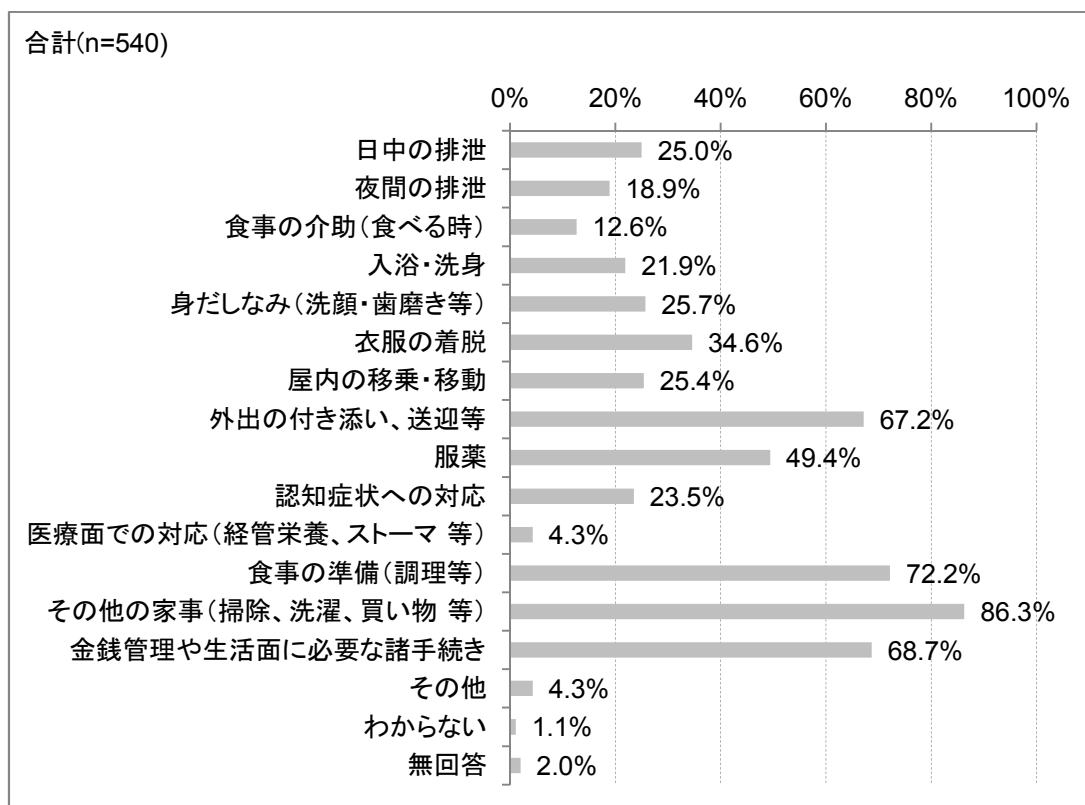


「50代」が27.2%と最も多く、「60代」27.0%、「70代」19.1%、「40代」11.3%、「80歳以上」が10.7%となっている。

(6) 主な介護者が行っている介護

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください（複数選択可）

図表 1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）

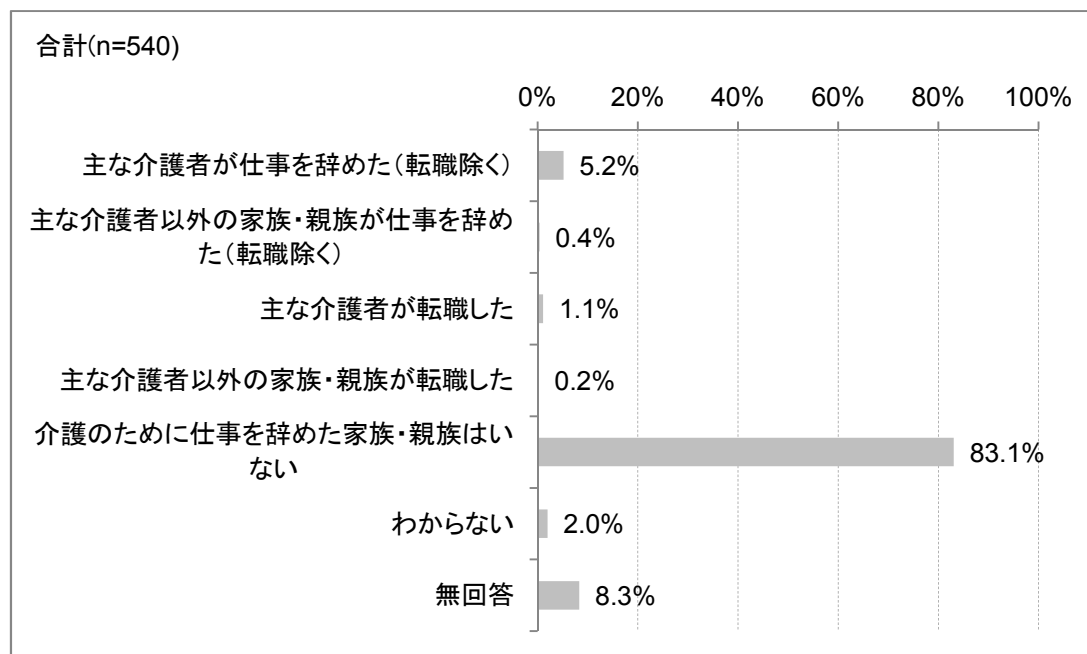


「その他の家事」が86.3%と最も多く、「食事の準備」72.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」68.7%、「外出の付き添い、送迎等」67.2%、「服薬」が49.4%となっている。

(7) 介護のための離職の有無

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）

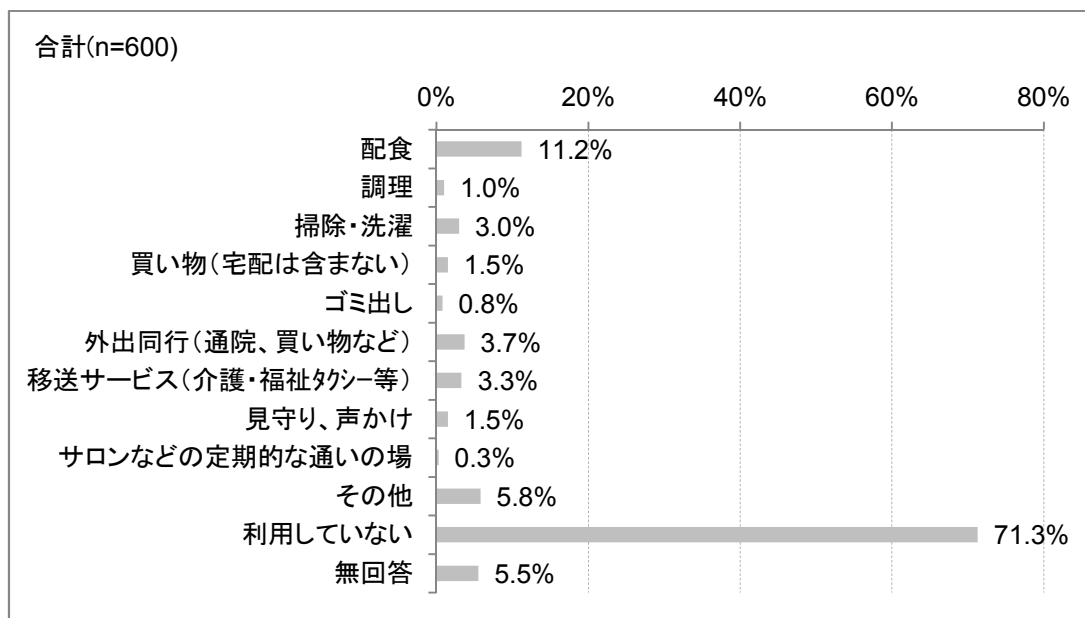


「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も多く 83.1%であった。

(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

問 8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）

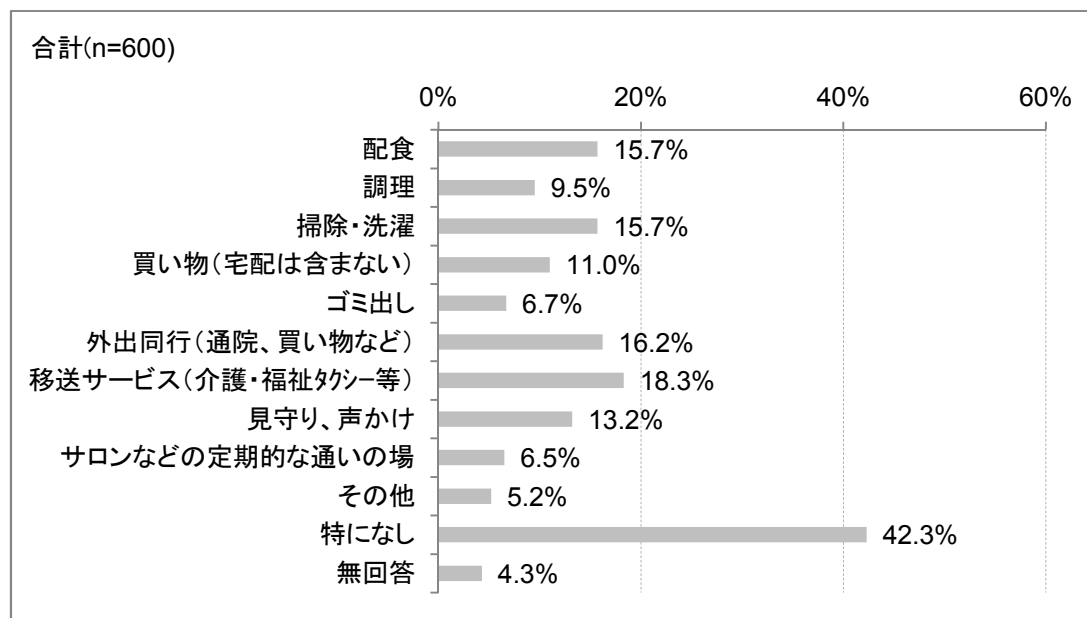


「利用していない」が71.3%で最も多く、次に「配食」が11.2%となっている。

(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

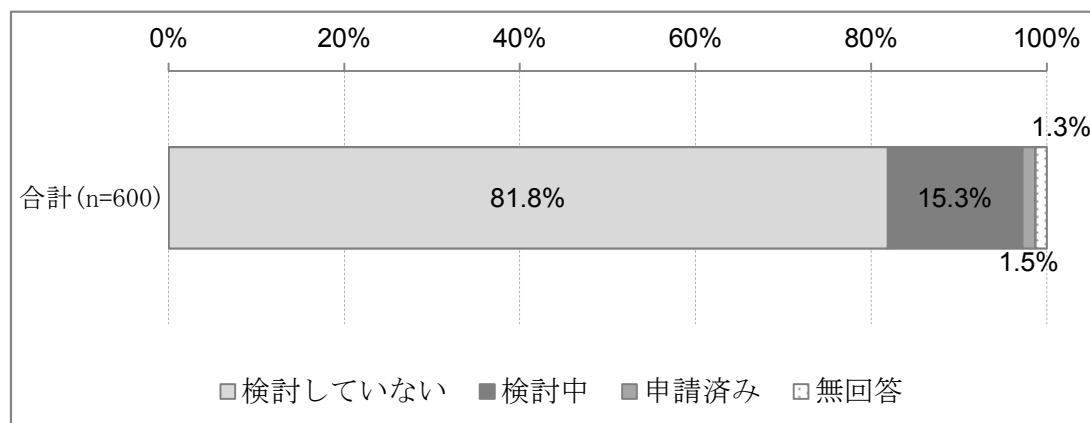


「特になし」が42.3%で最も多く、「移送サービス」18.3%、「外出同行」16.2%、「配食」15.7%、「掃除・洗濯」が15.7%となっている。

(10) 施設等検討の状況

問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）

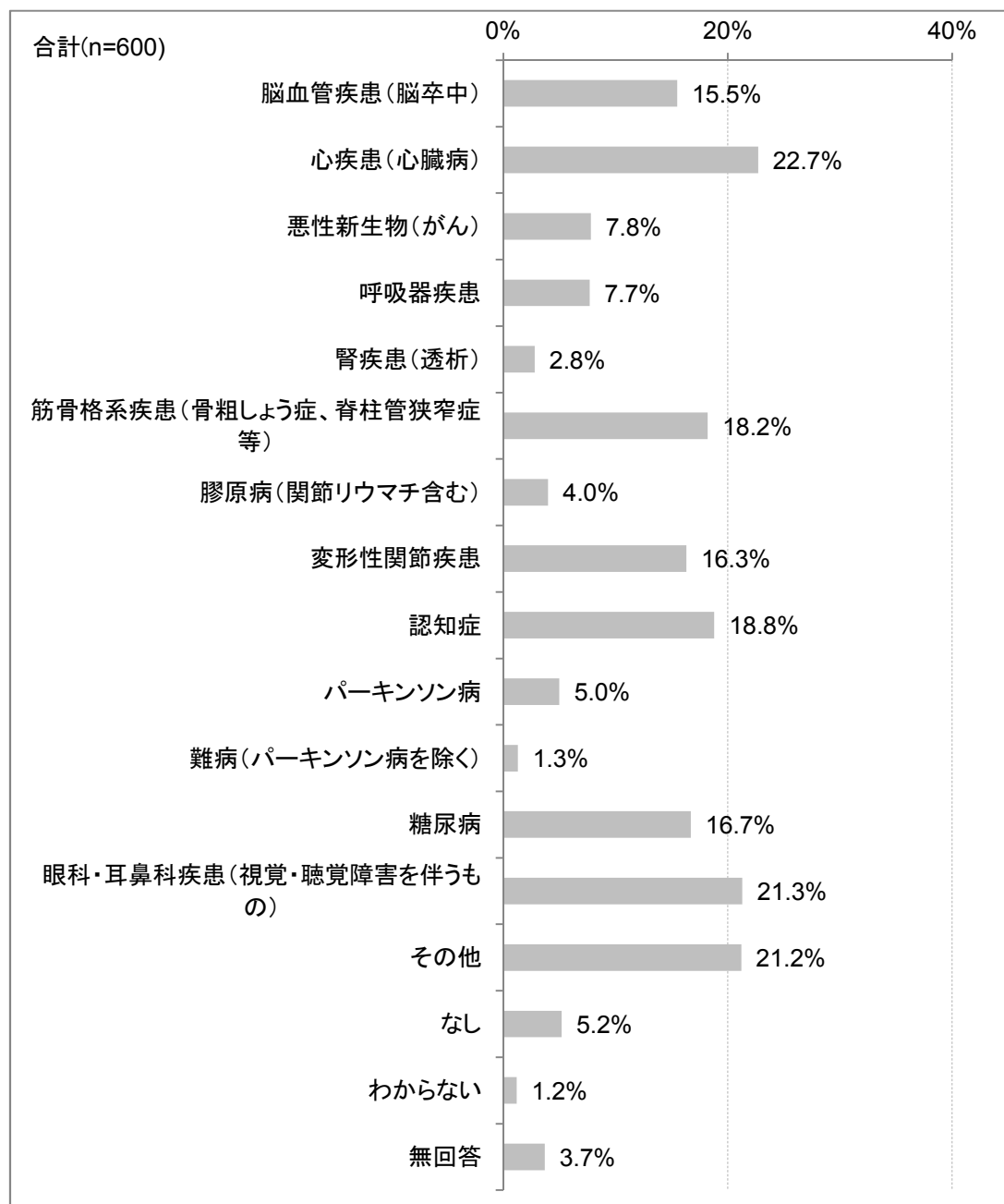


「検討していない」が81.8%と最も多く、「検討中」が15.3%となっている。

(11) 本人が抱えている傷病

問 11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください（複数選択可）

図表 1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）

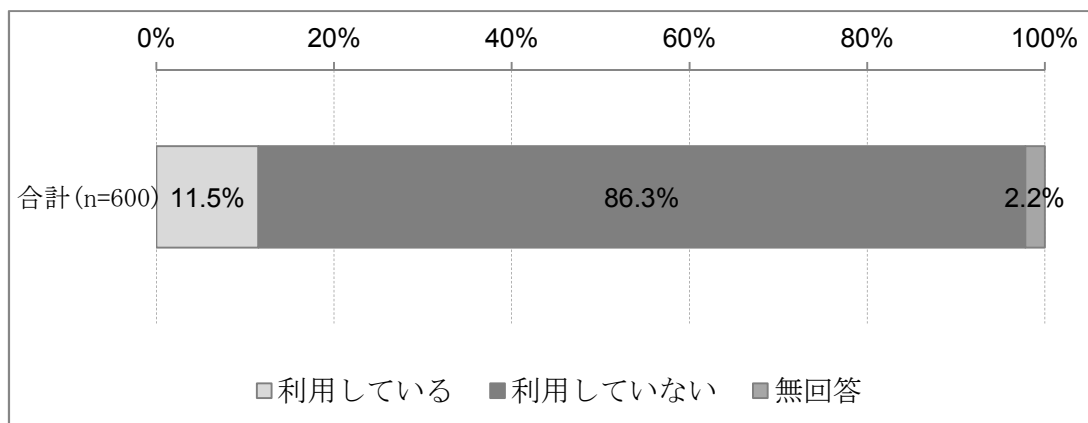


「心疾患」が 22.7%と最も多く、「眼科・耳鼻科疾患」21.3%、「その他」21.2%、「認知症」18.8%、「筋骨格系疾患」が 18.2%となっている。

(12) 訪問診療の利用の有無

問 12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）

図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）

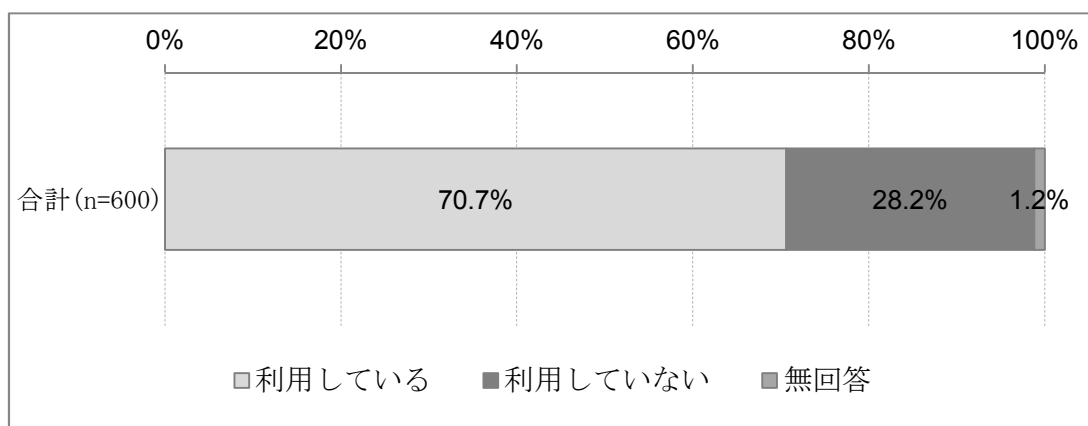


「利用していない」が86.3%、「利用している」が11.5%であった

(13) 介護保険サービスの利用の有無

問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与、購入以外の）介護サービスを利用していますか（1つを選択）

図表 1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

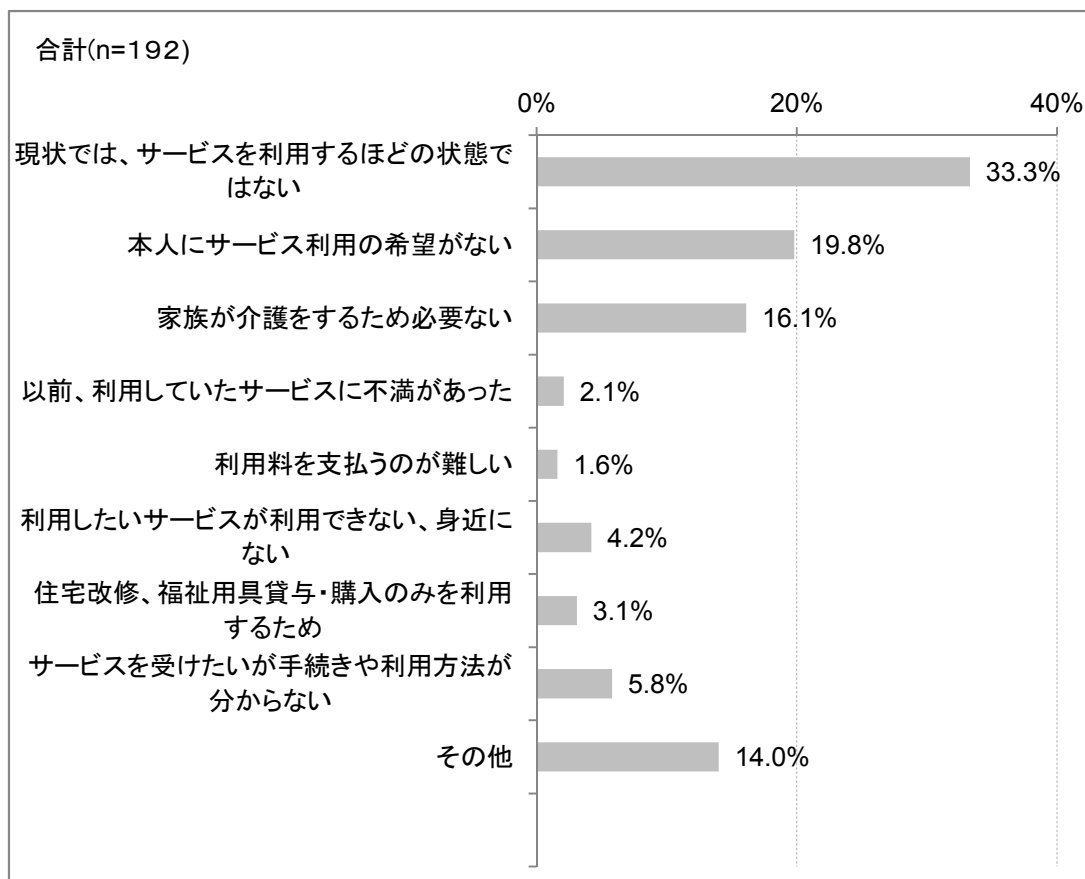


「利用している」が70.7%、「利用していない」が28.2%であった。

(14) 介護保険サービス未利用の理由

問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

図表 1-14 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



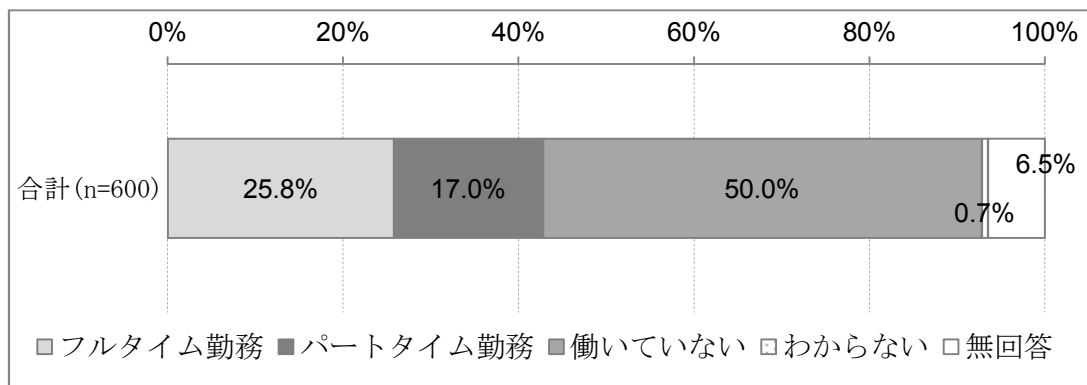
「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が33.3%で最も多く、「本人にサービス利用の希望がない」19.8%、「家族が介護をするため必要ない」が16.1%となっている。

2 主な介護者様用の調査項目（B票）

(1) 主な介護者の勤務形態

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

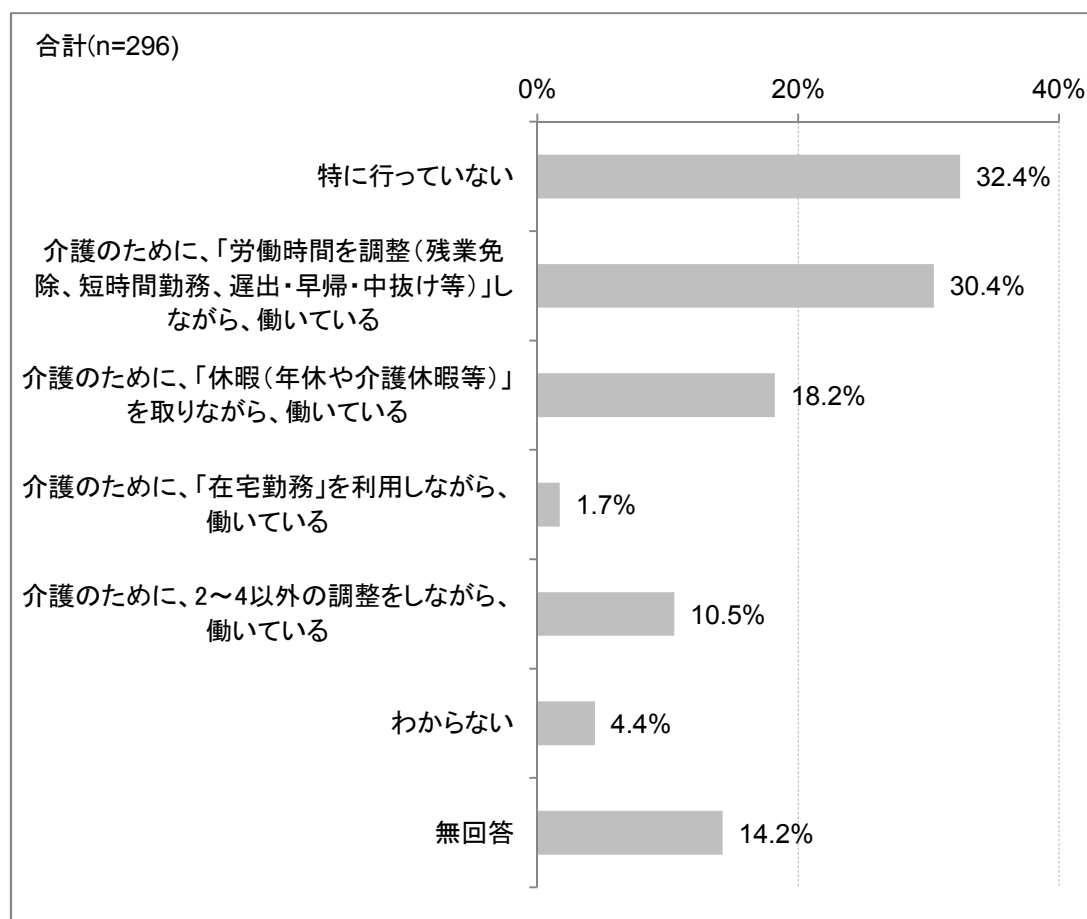


「働いていない」が50.0%と最も多く、「フルタイム勤務」25.8%、「パートタイム勤務」が17.0%となっている。

(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

問2 問1で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方について調整等をしていますか（複数選択可）

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

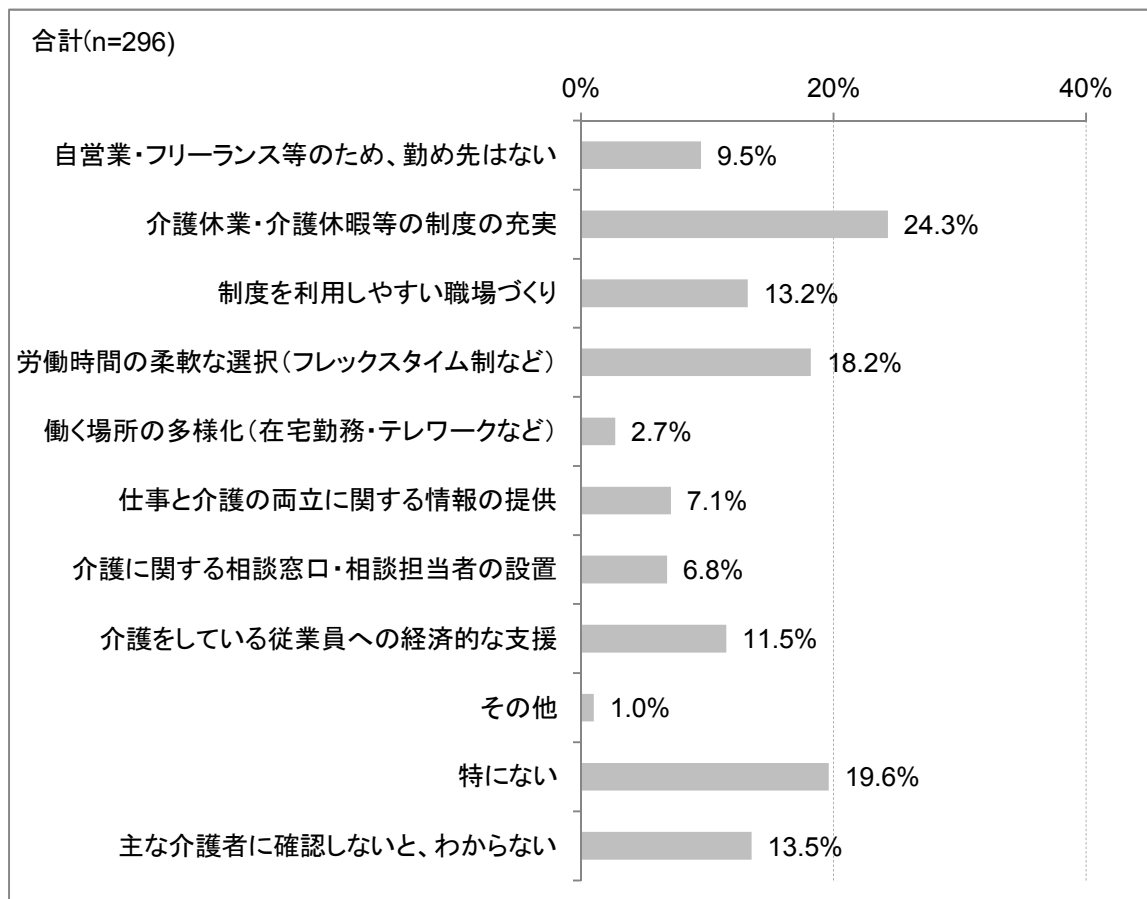


「特に行っていない」が32.4%で最も多く、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」30.4%、「介護のために「休暇（年休介護休暇等）」を取りながら、働いている」18.2%、「介護のために、2～4以外の調整をしながら働いている」が10.5%となっている。

(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

問3 問1で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）

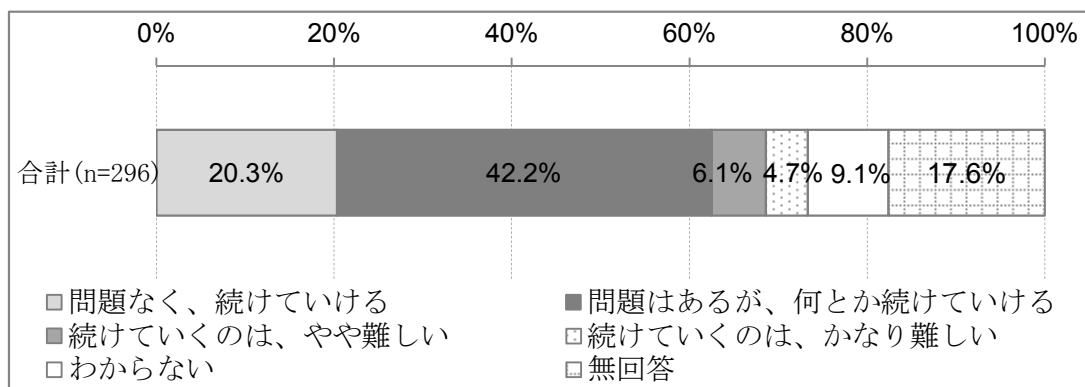


「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が24.3%で最も多く、「特になし」19.6%、「労働時間の柔軟な選択」18.2%となっている。

(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

問3 問1で「フルタイムで働いている」、「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択可）

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

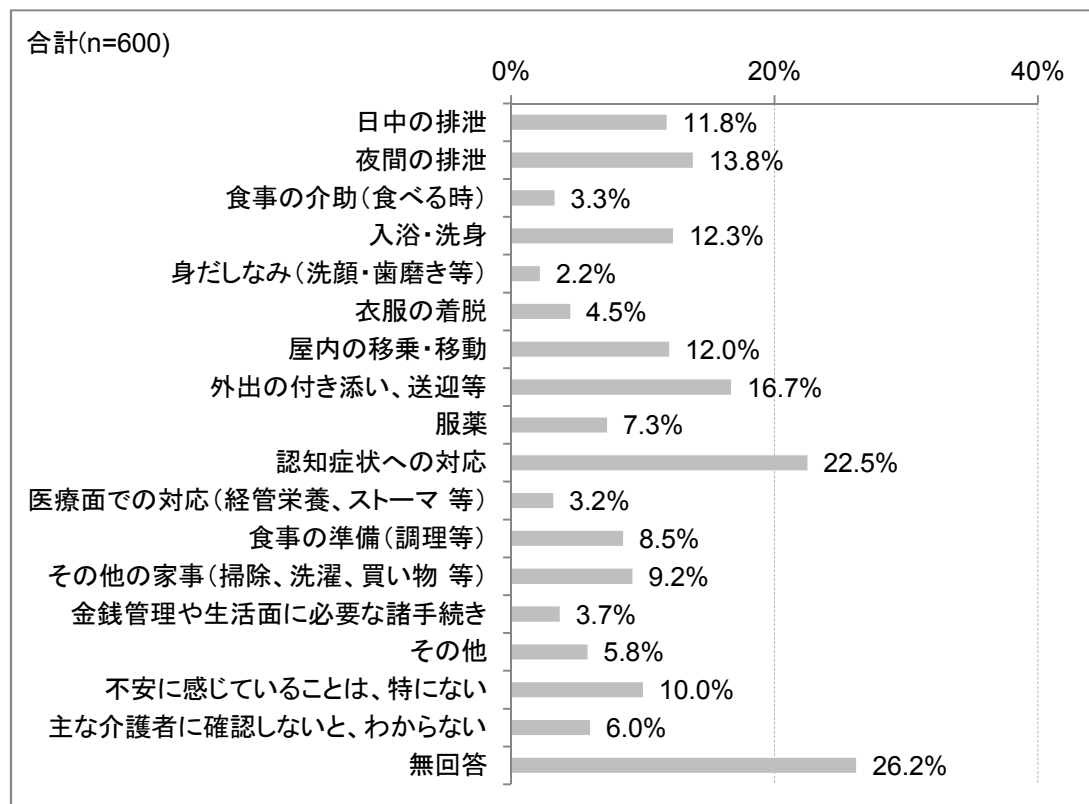


「問題はあるが、何とか続けていける」が42.2%と最も多く、「問題なく、続けていける」が20.3%となっている。

(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（3つまで選択可）

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



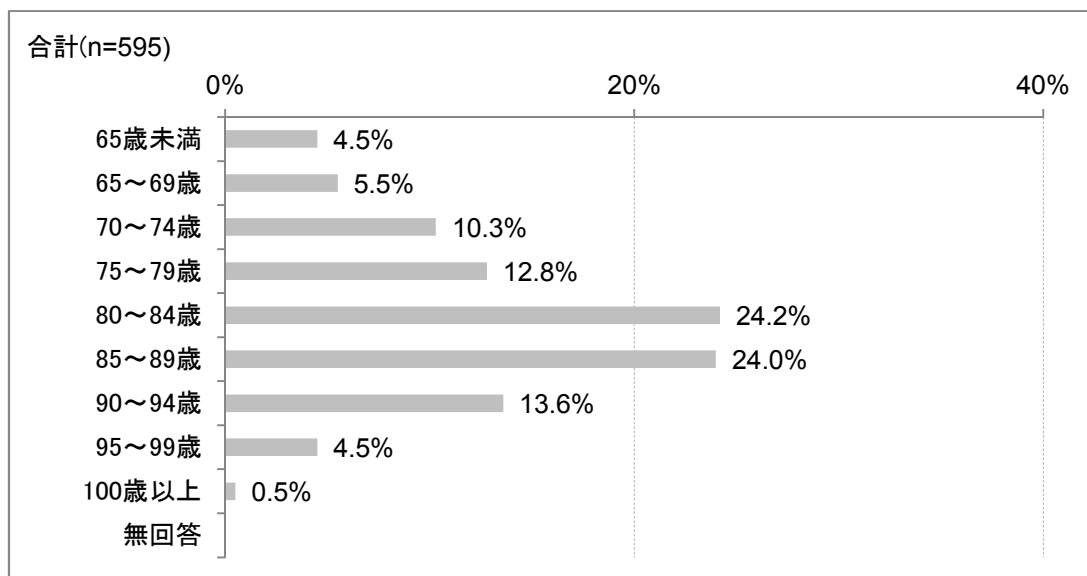
「無回答」を除いた中では、「認知症状への対応」が22.5%と最も多く、「外出の付き添い、送迎等」16.7%、「入浴・洗身」12.3%、「屋内の移乗・移動」が12.0%となっている。

3 要介護認定データ

※図表 3-1～3-3 はアンケート対象者の要介護認定データから抽出した数値である。

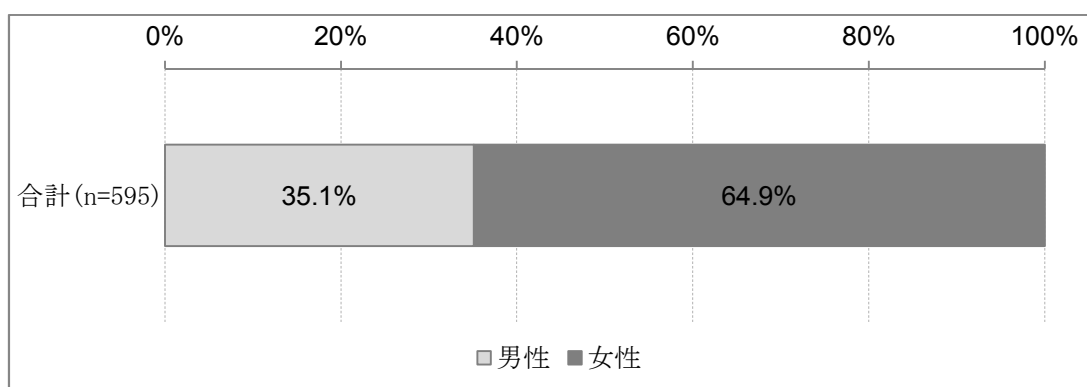
(1) 年齢

図表 3-1 年齢



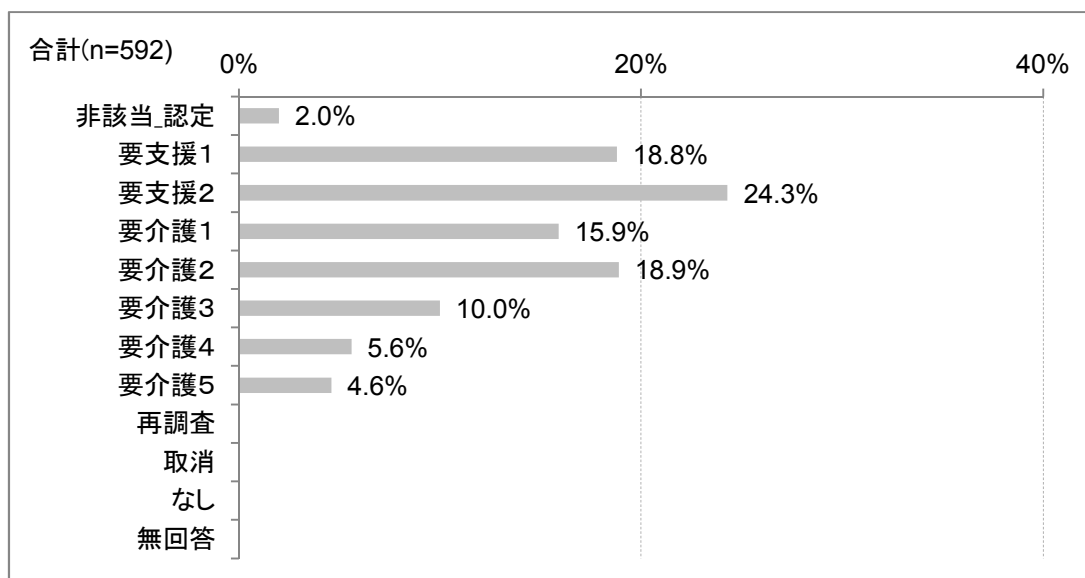
(2) 性別

図表 3-2 性別



(3) 二次判定結果（要介護度）

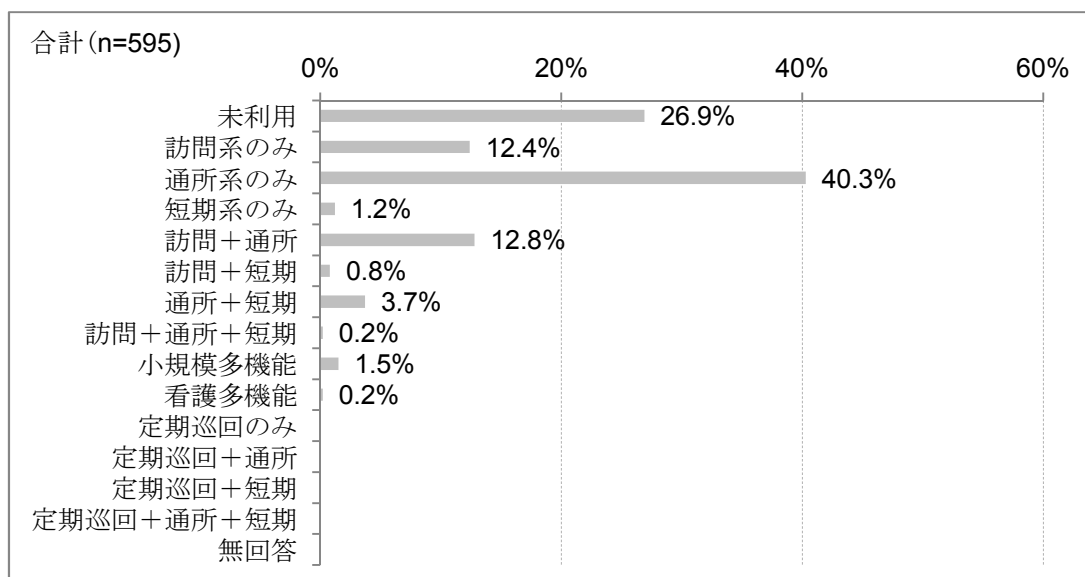
図表 3-3 二次判定結果



(4) サービス利用の組み合わせ

※調査対象者の認定調査項目のうち、クロス集計分析に使用したデータの内訳である。

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



※図表 3-4 のサービス利用の分析に用いた用語の定義は以下のとおりである。

・ サービス利用の分析に用いた用語の定義

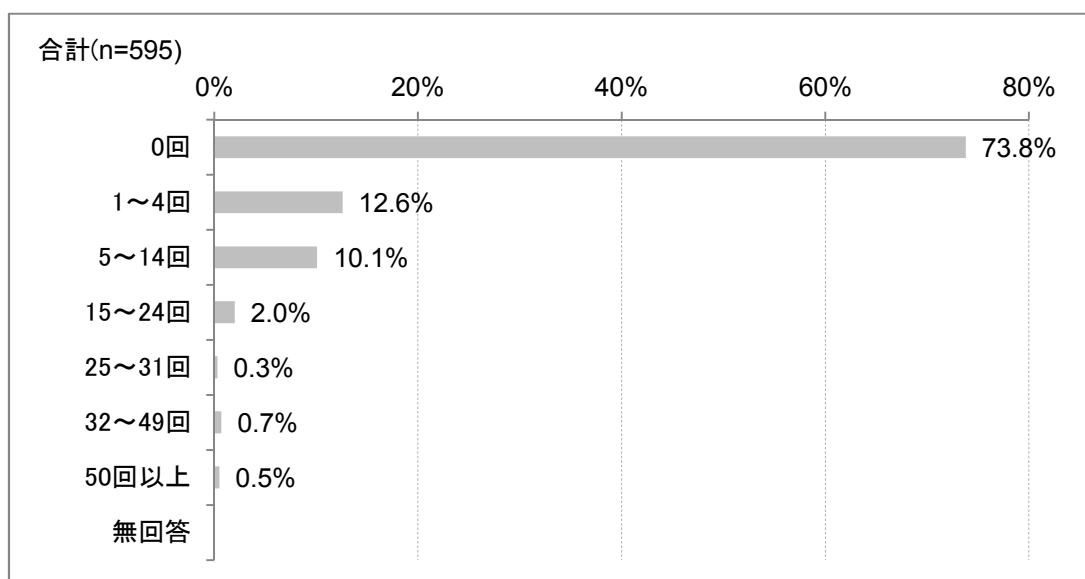
用語	定義	
未利用	「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計	
訪問系	(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計	
通所系	(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計	
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計	
その他の	小規模多機能	(介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計
	看護多機能	看護小規模多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計
	定期巡回	定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計

・ サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義

用語	定義
未利用	上表に同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」、「訪問系(もしくは定期巡回)」+「短期系」、「訪問系(もしくは定期巡回)」+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」+「短期系」の利用を集計しています。

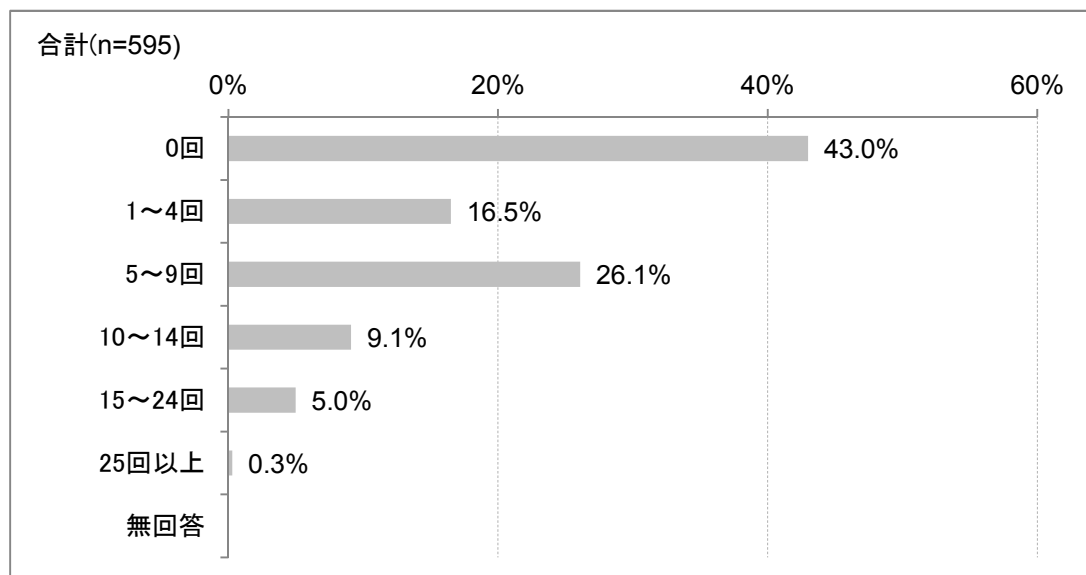
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



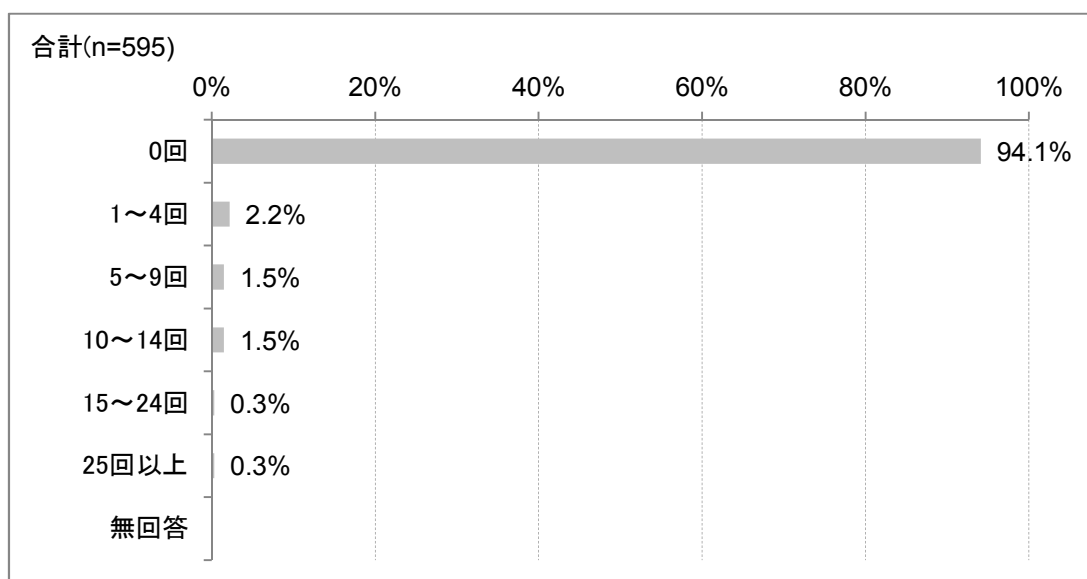
(6) 通所系サービスの合計利用回数

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



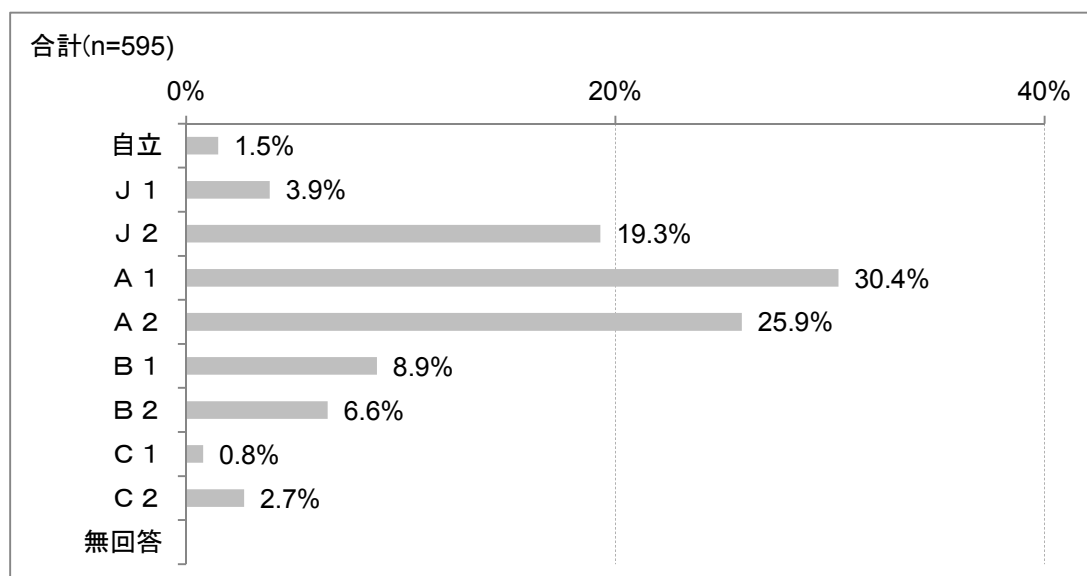
(7) 短期系サービスの合計利用回数

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



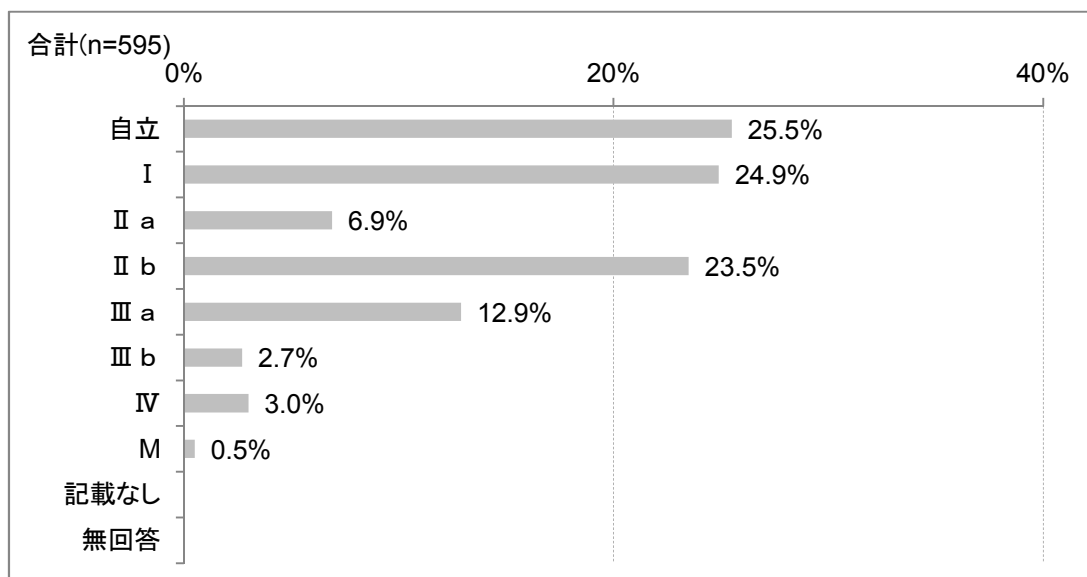
(8) 障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



Ⅲ 介護保険事業計画の策定に向けた検討（クロス集計結果）

調査項目について、要介護度別、認知症の自立度別など、調査対象者の属性をもとに、クロス集計を行った。なお、集計結果をわかりやすくするため、Ⅰの単純計算結果で記載した図表を再掲している場合がある。

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

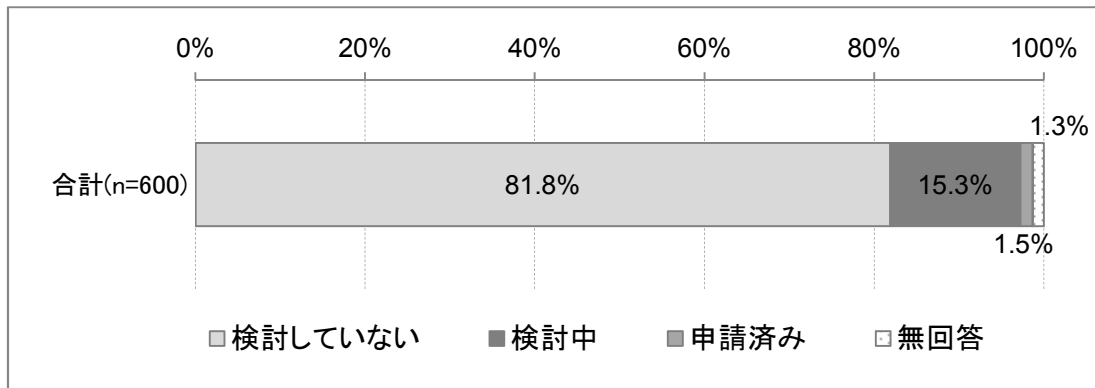
- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。
- 本調査における「着目すべきポイント」また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

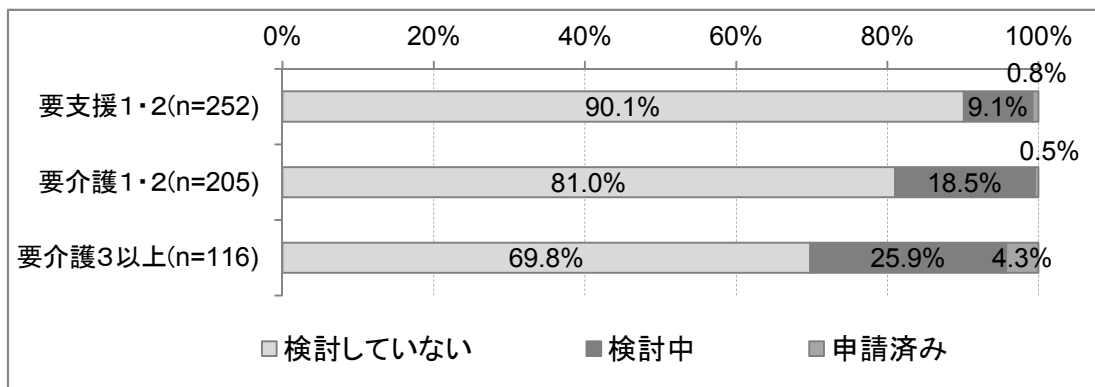
- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

図表 1-1 施設等検討の状況



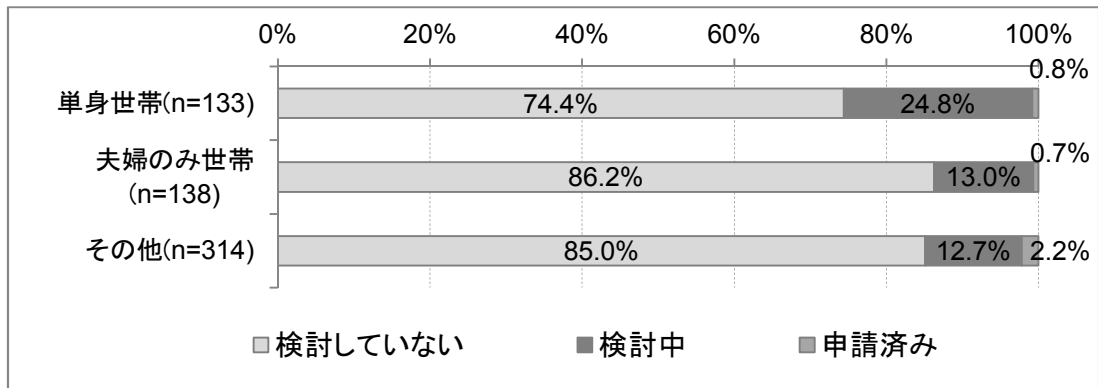
「検討していない」が81.8%となり、「検討中」が15.3%「申請済み」が1.5%であった。

図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



要介護度重度化に伴って「検討中」の割合が高まっており、要介護3以上では「申請済み」も含め30.2%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



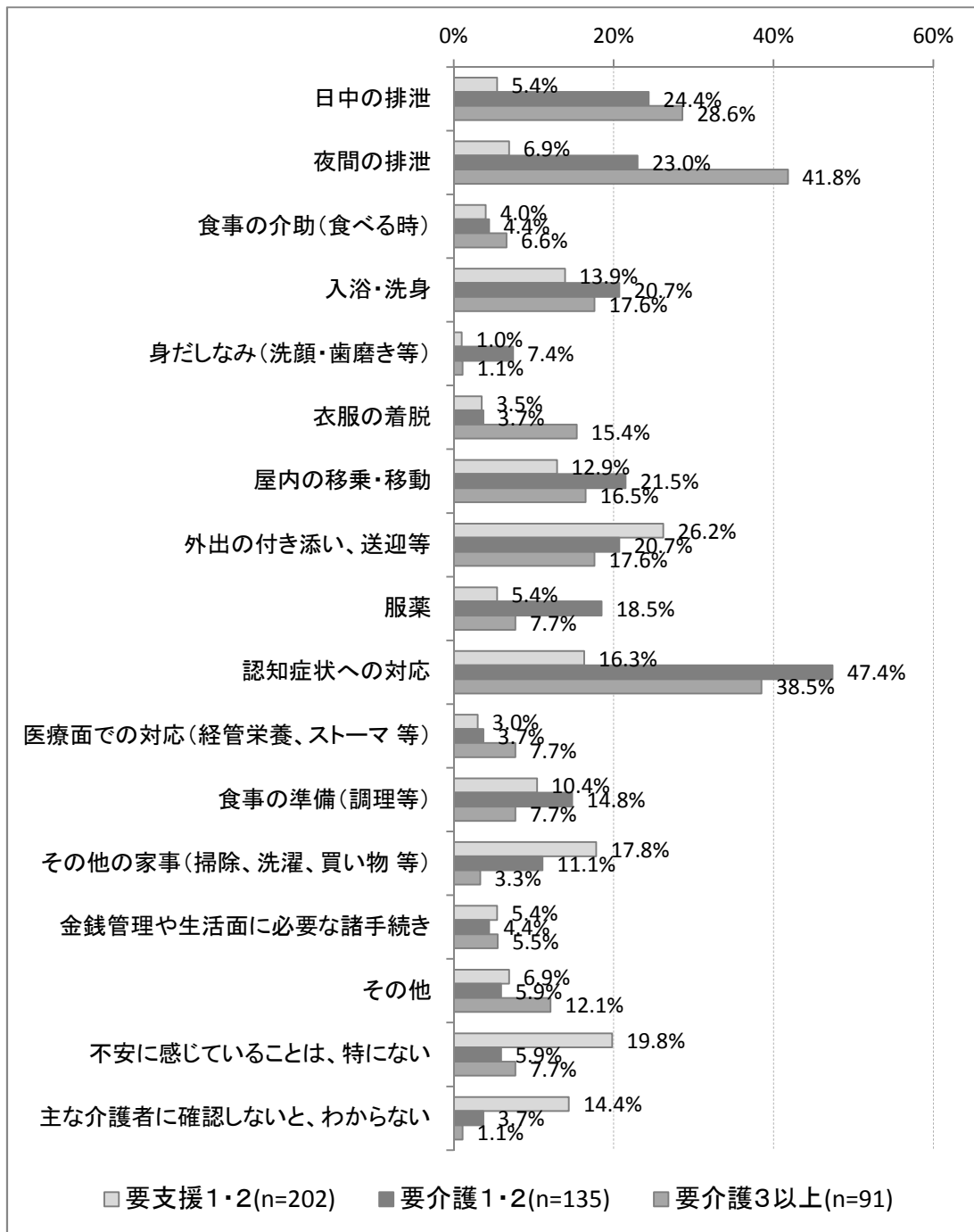
「単身世帯」において「検討中」が24.8%、「夫婦のみ世帯」では13.0%、「その他」では12.2%であった。

(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

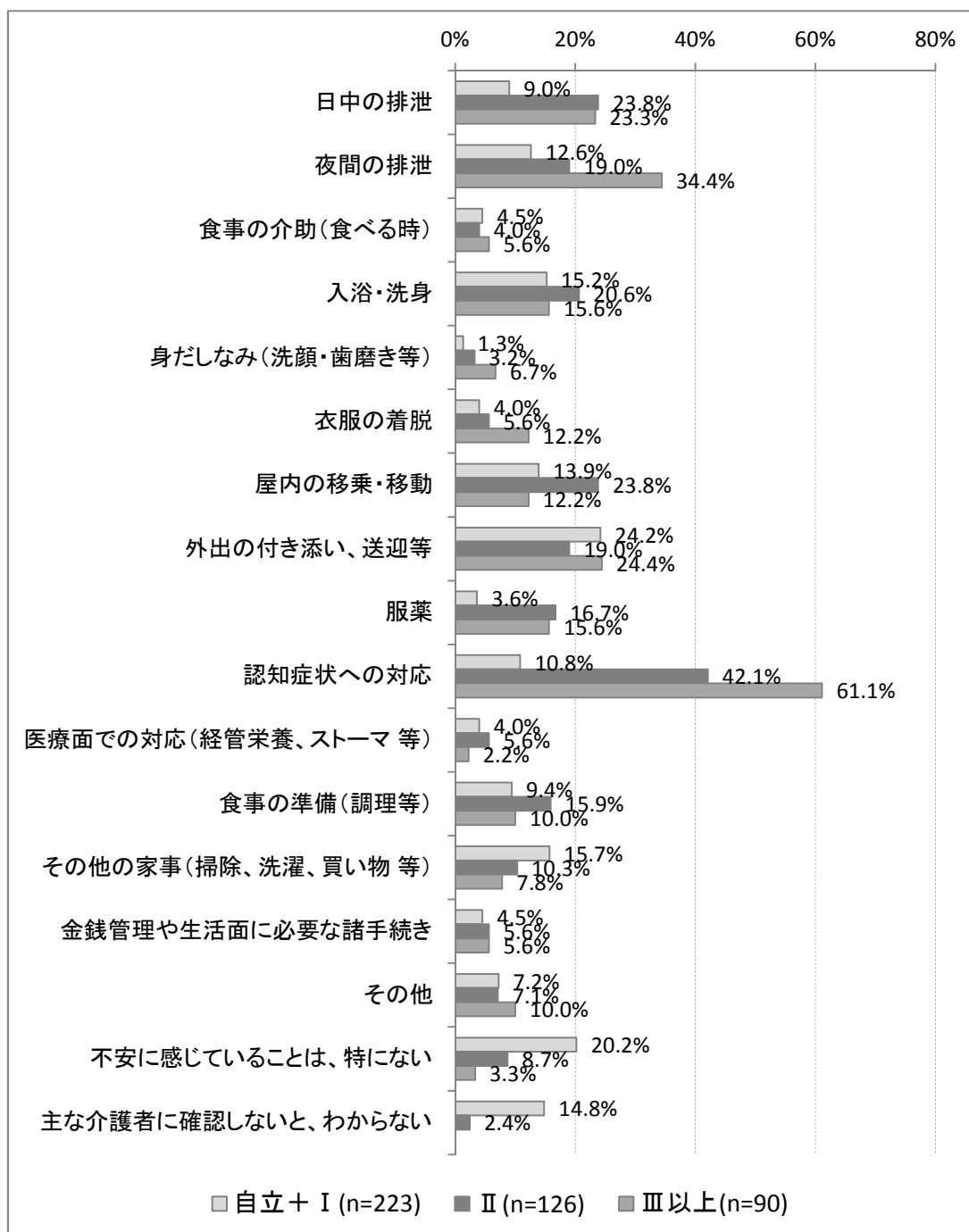
- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安を感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安を感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安を感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に注目することで、在宅限界点に大きな影響を与えられ「主な介護者が不安を感じる介護」を推測することも可能になります。

図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」が26.2%、「要介護1・2」では「認知症状への対応」が47.4%、「要介護3以上」では「認知症状への対応」が38.5%で最も多い。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



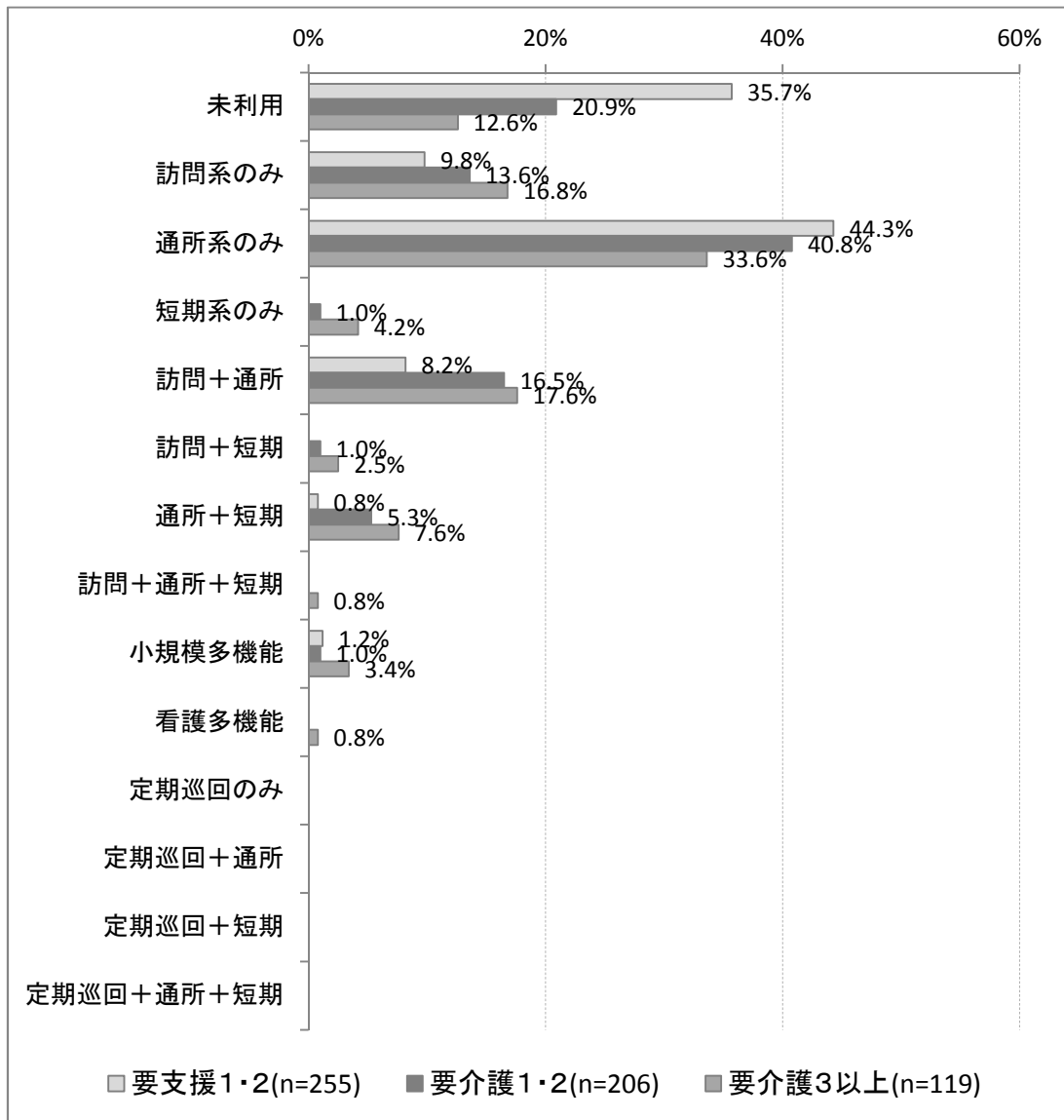
「自立+I」では「外出の付き添い、送迎等」が24.2%、「II」では「認知症状への対応」が42.1%、「III以上」では「認知症状への対応」が61.1%で最も多い。

(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

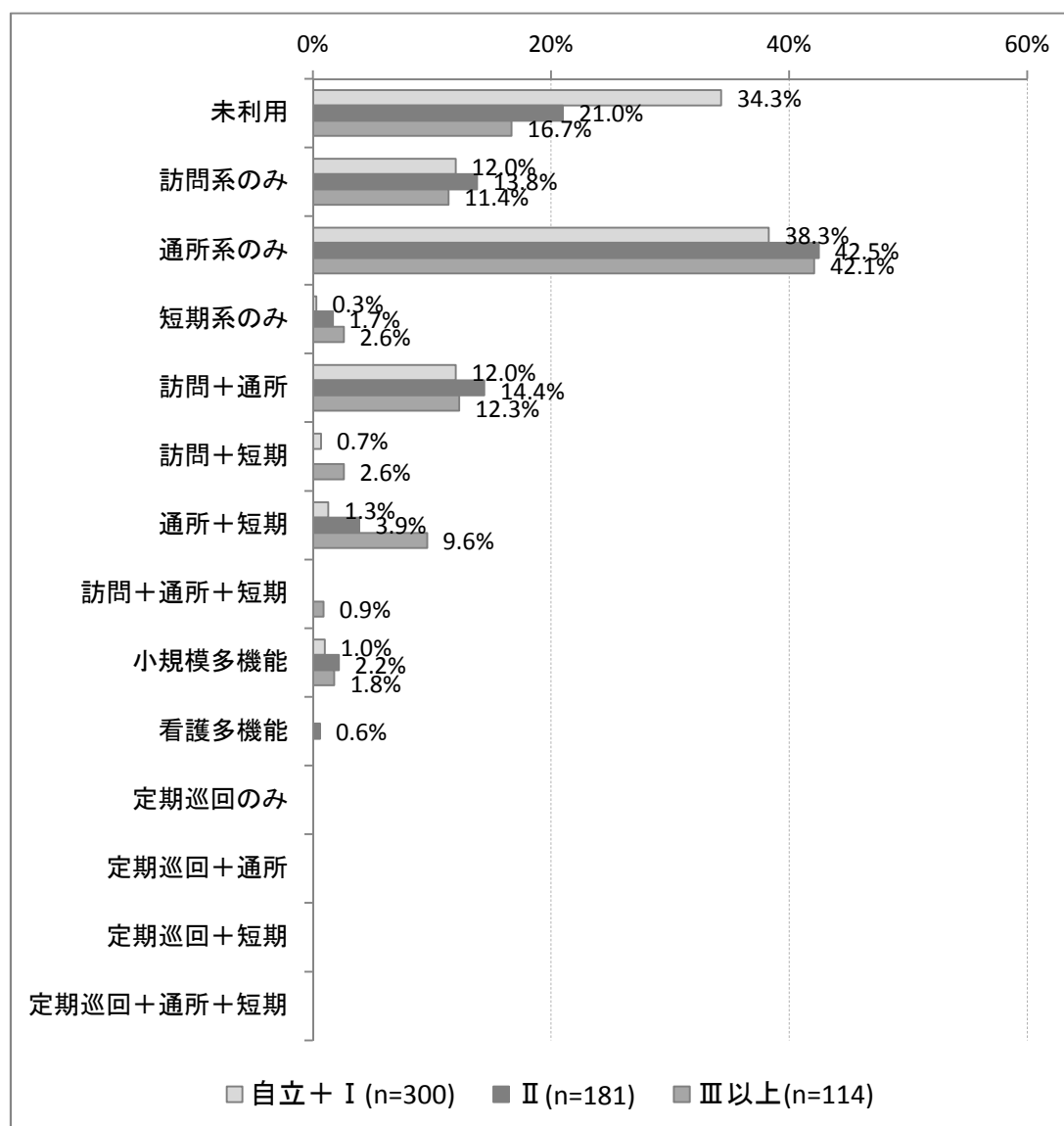
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



各介護度において「通所系のみ」が最も多く、「要支援1・2」では44.3%、「要介護1・2」では40.8%、「要介護3以上」では33.6%となっている。

なお、現時点において青梅市内には定期巡回のサービス提供事業所は存在しない。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ

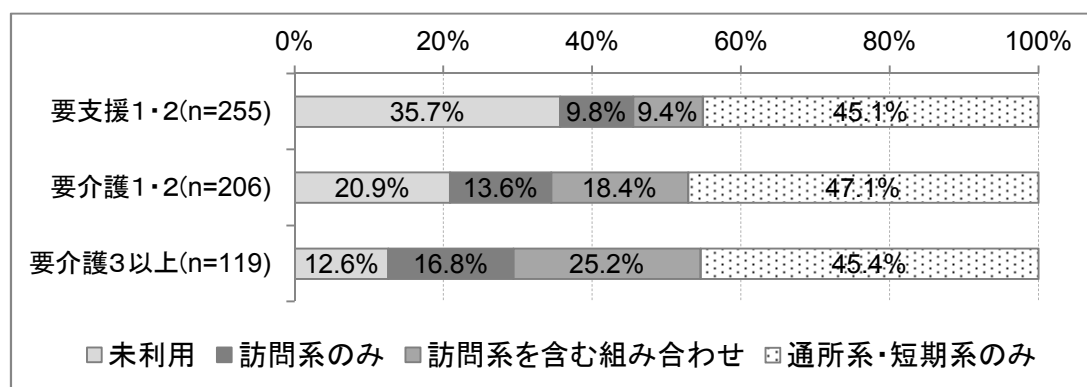


各自立度において「通所系のみ」が最も多く、「自立+I」では38.3%、「II」では42.5%、「III」では42.1%となっている。

【着目すべきポイント】

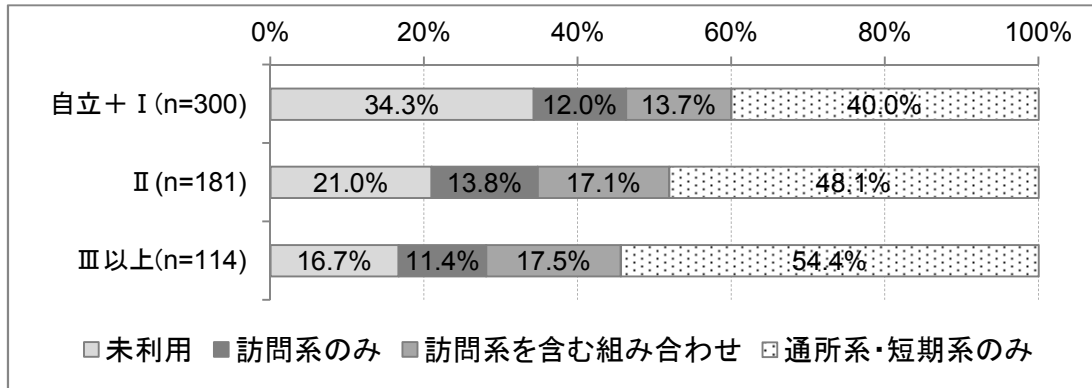
- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



介護度に共通して「通所系・短期系のみ」の割合が最も多い。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



自立度に共通して「通所系・短期系のみ」が最も多い。

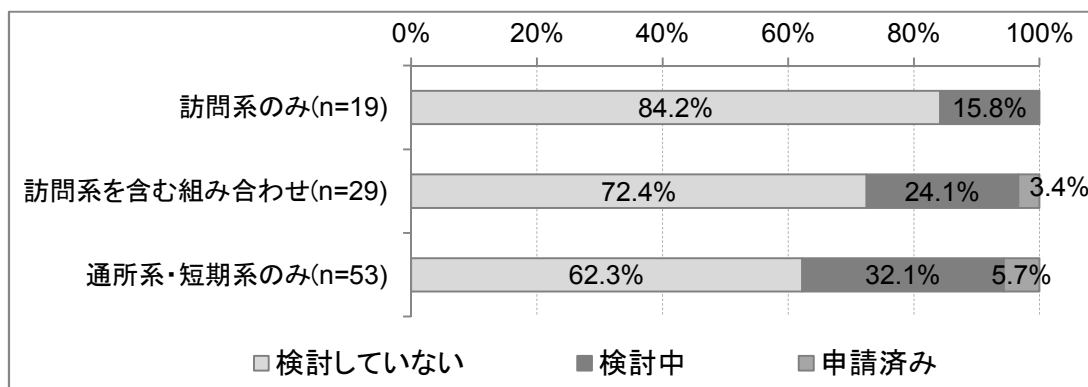
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-10～図表 1-12 は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表 1-13～図表 1-15 は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。

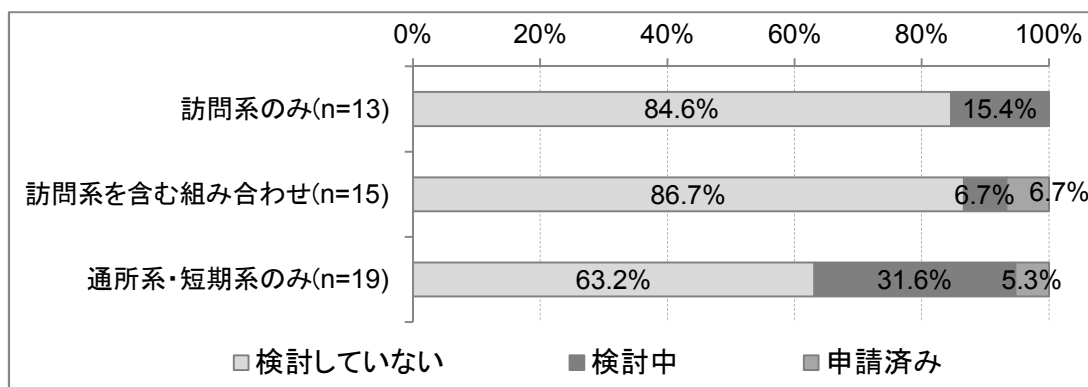
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



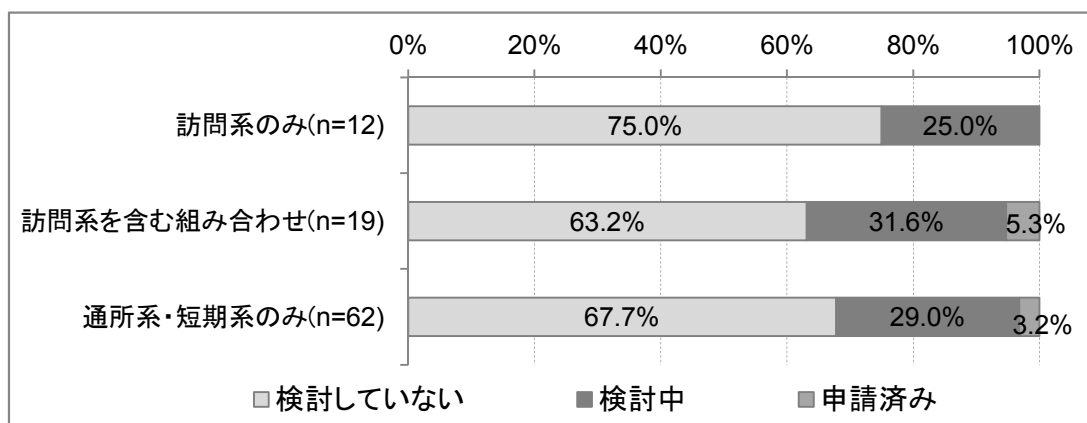
「通所系・短期系のみ」において検討中の割合が32.1%と最も多い。

図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



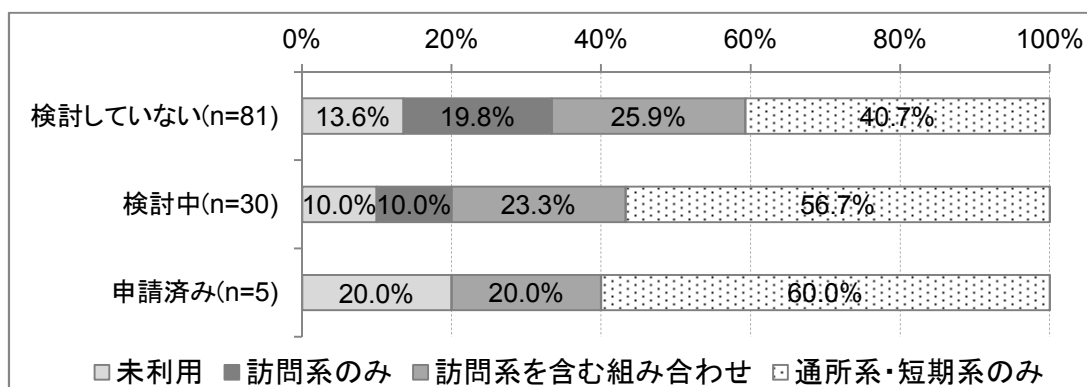
「通所系・短期系のみ」において検討中の割合が31.6%と最も多い。

図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



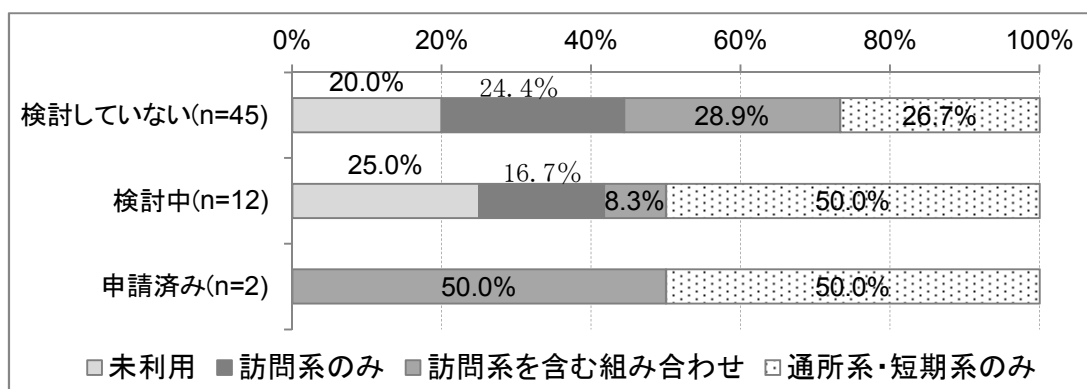
各項目において大きな差は見られないが「訪問系を含む組み合わせ」において検討中の割合が 31.6%と最も多い。

図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



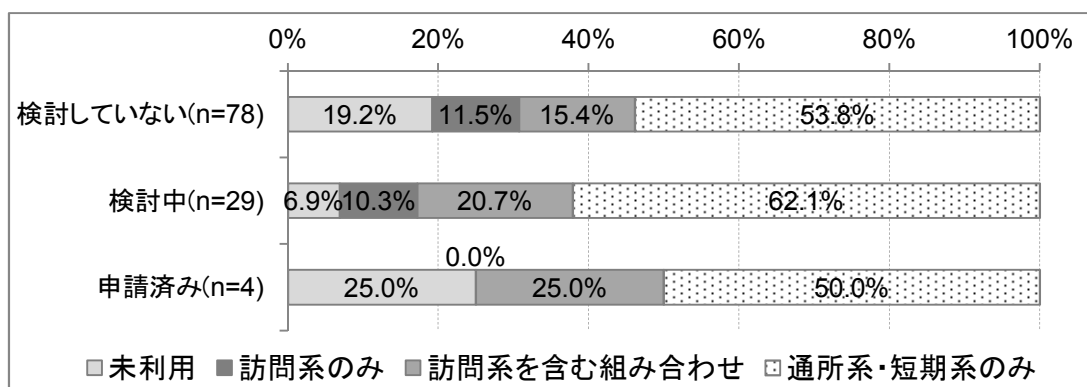
各項目において「通所系・短期系のみ」の割合が最も多い。

図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護 4 以上）



「検討していない」の項目では割合が均等化されているが、その他の項目では「通所系・短期系のみ」が多い。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



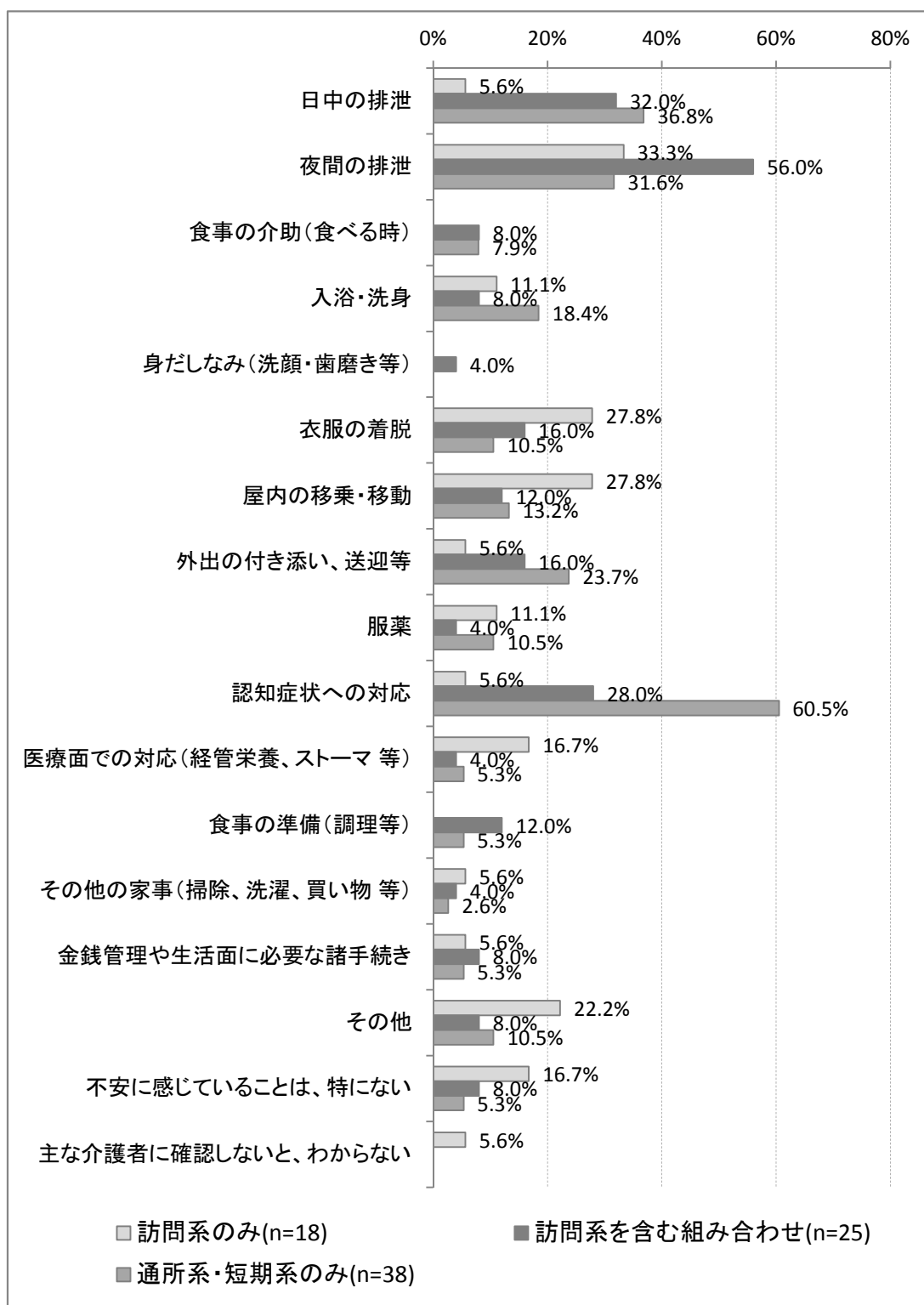
各項目においても「通所系・短期系のみ」が最も多い。

(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

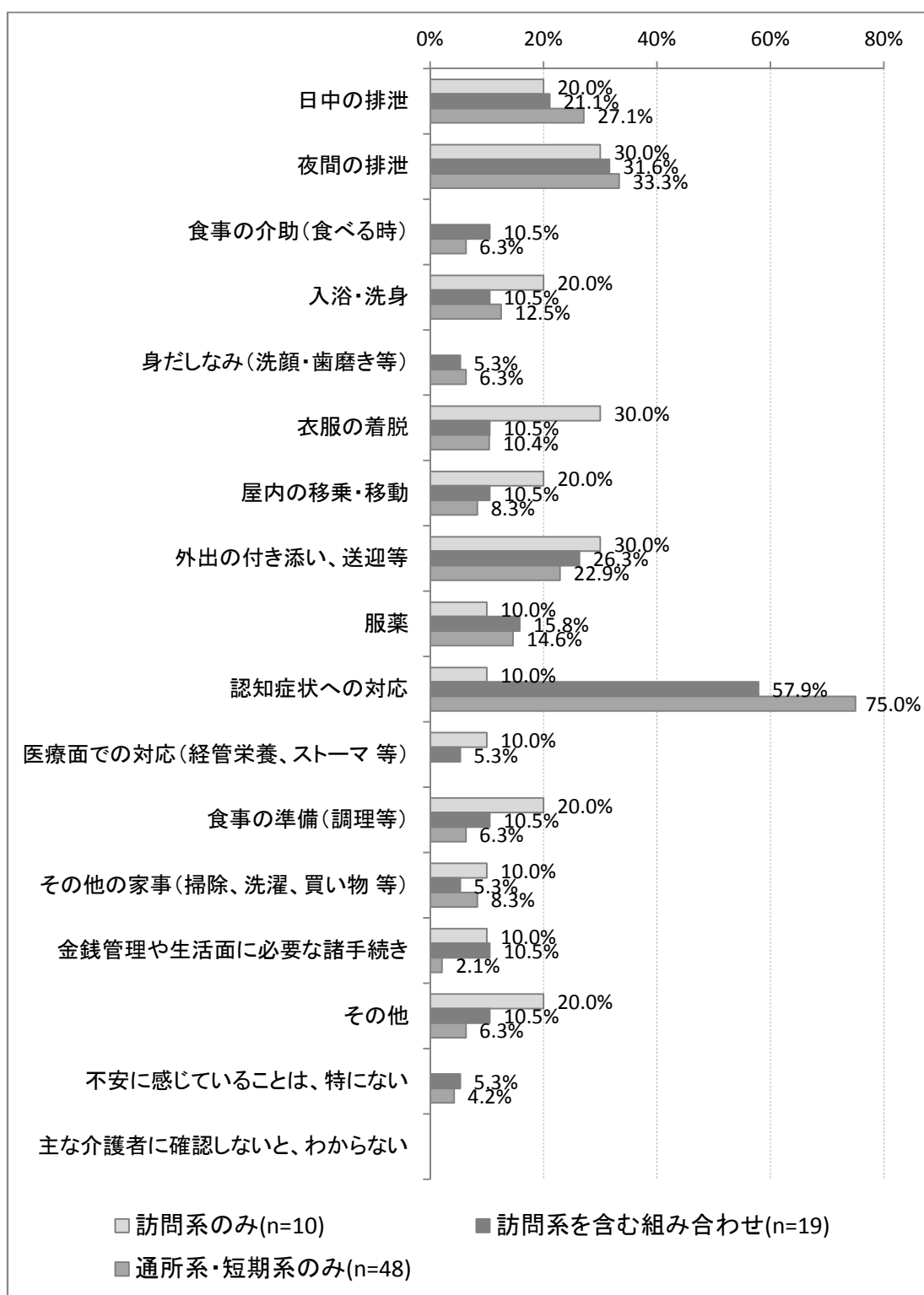
- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（要介護3以上）



「訪問系のみ」では「夜間の排泄」が33.3%、「訪問系を含む組み合わせ」では「夜間の排泄」が56.0%、「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が60.5%で最も多い。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



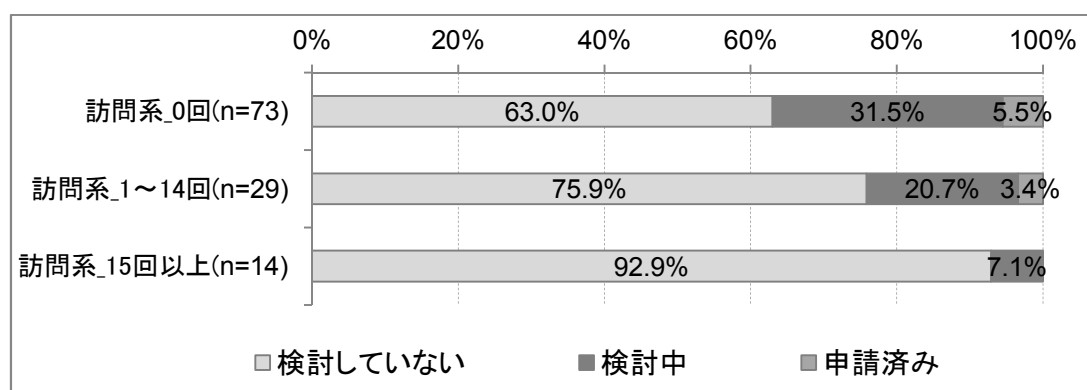
「訪問系のみ」では「夜間の排泄」、「衣服の着脱」、「外出の付き添い、送迎等」が30.0%、「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症状への対応」が57.9%、「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が75.0%で最も多い。

(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

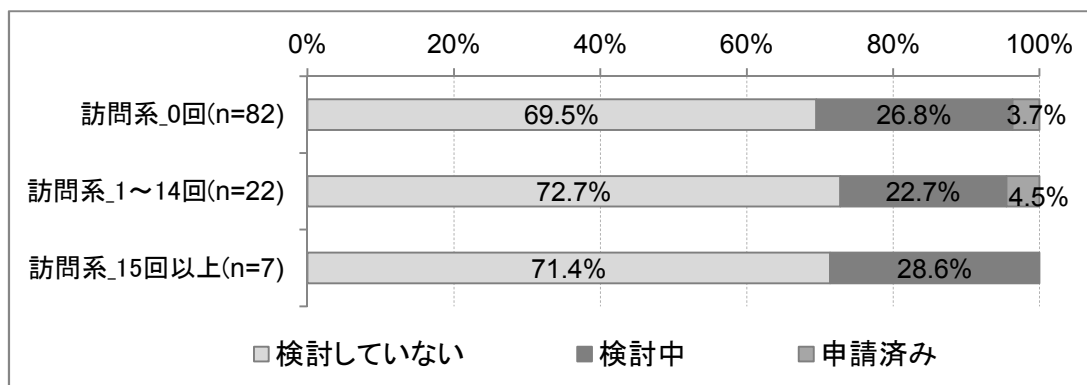
- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



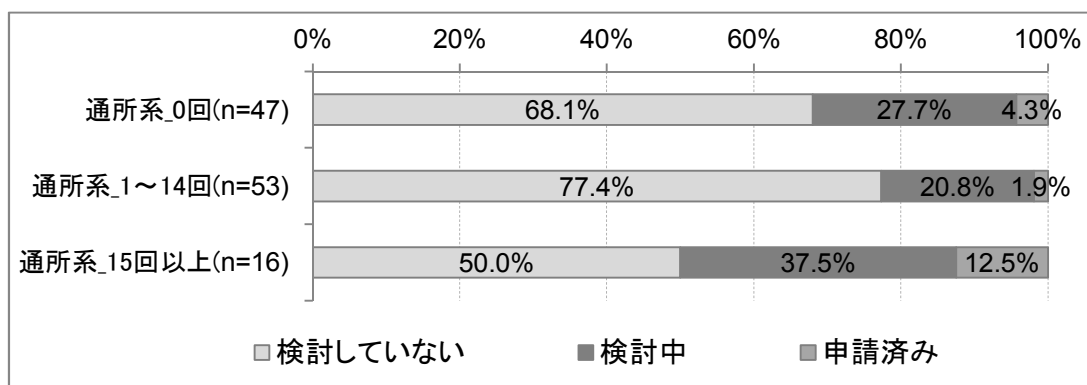
訪問系のサービス利用回数が多いほど施設等検討する割合が少なくなっている。

図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



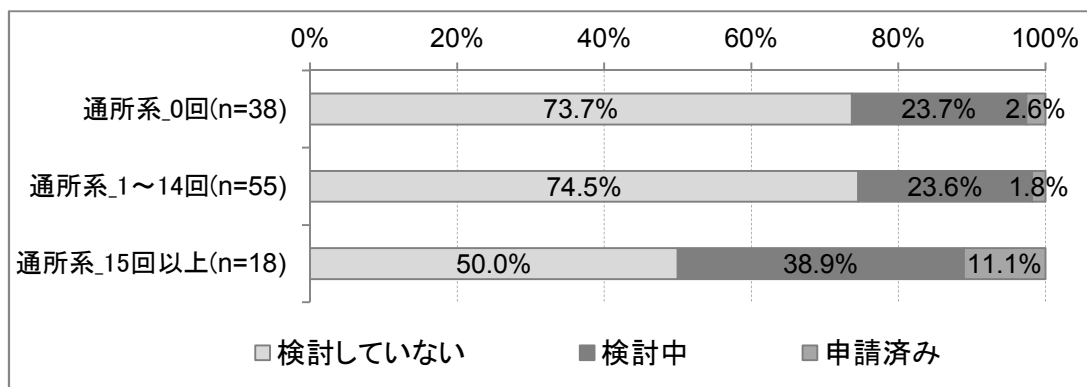
各項目において割合は類似しており、「検討していない」が約70%、「検討中」・「申請済」が約30%となっている。

図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



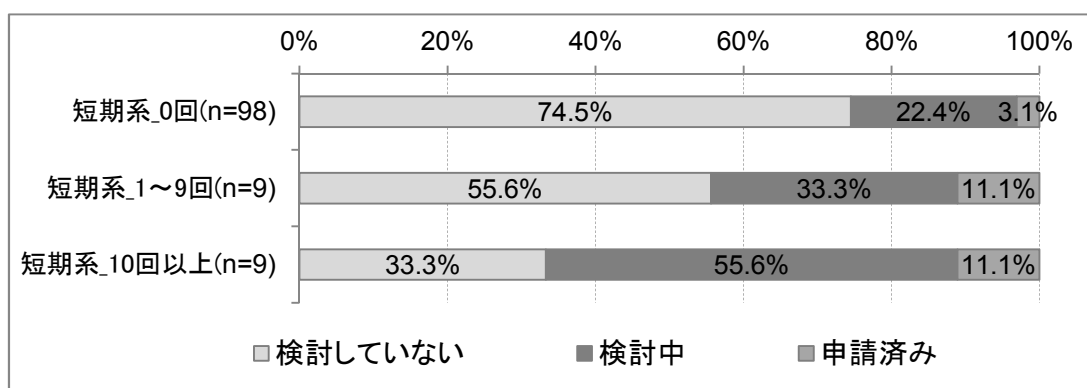
通所系のサービス利用回数が15回以上で「検討中」が37.5%と最も多い。

図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



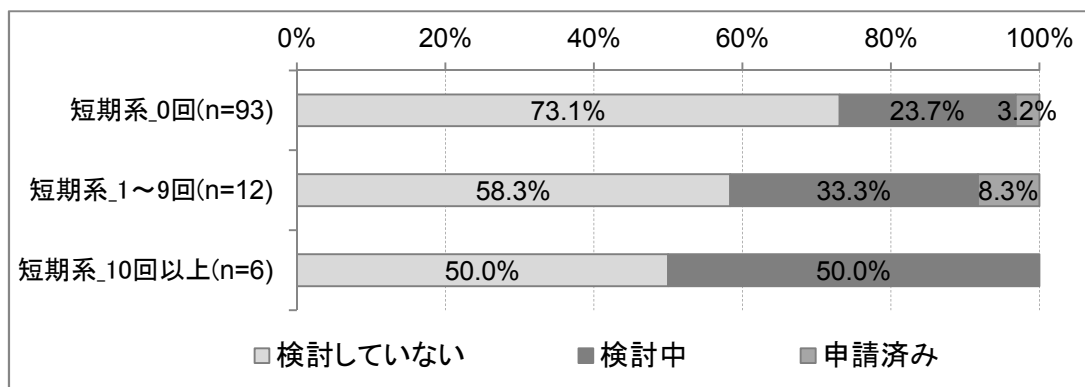
通所系のサービス利用回数 15 回以上で「検討中」が 38.9%と最も多い。

図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



短期系サービス利用回数が多いほど「検討中」が多い。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



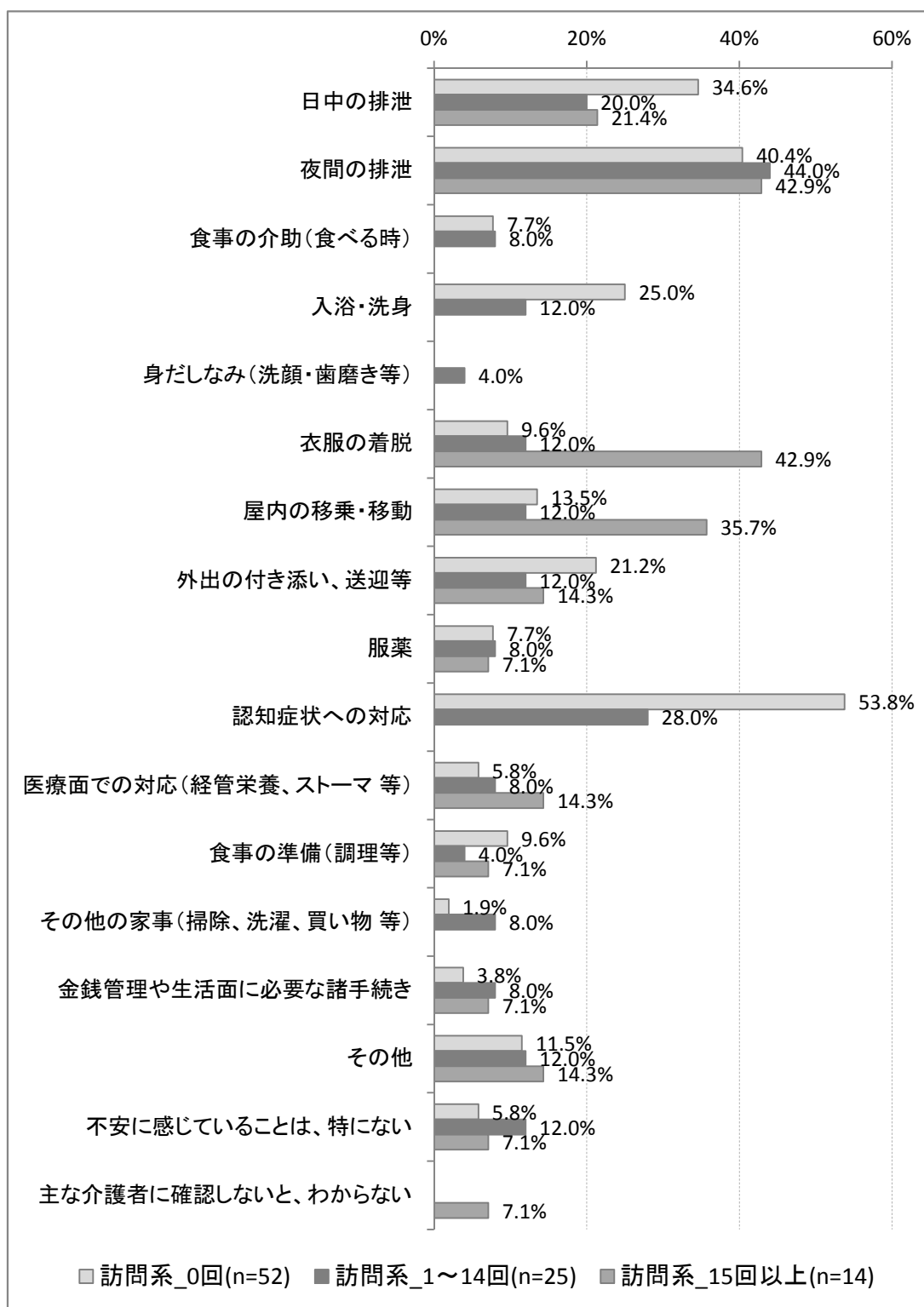
短期系サービス利用回数が多いほど「検討中」の割合が多い。

(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

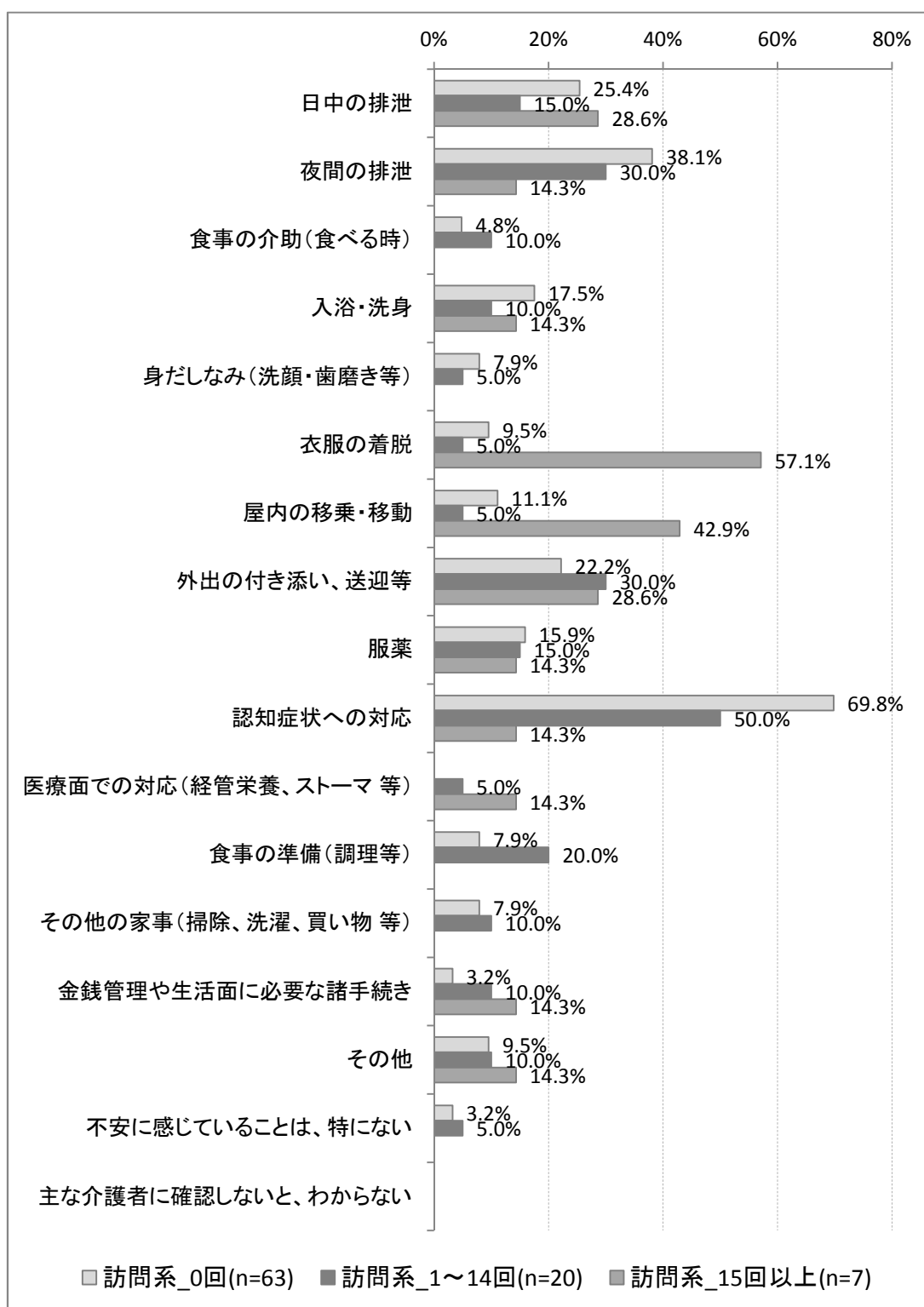
- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながることも期待されます。

図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



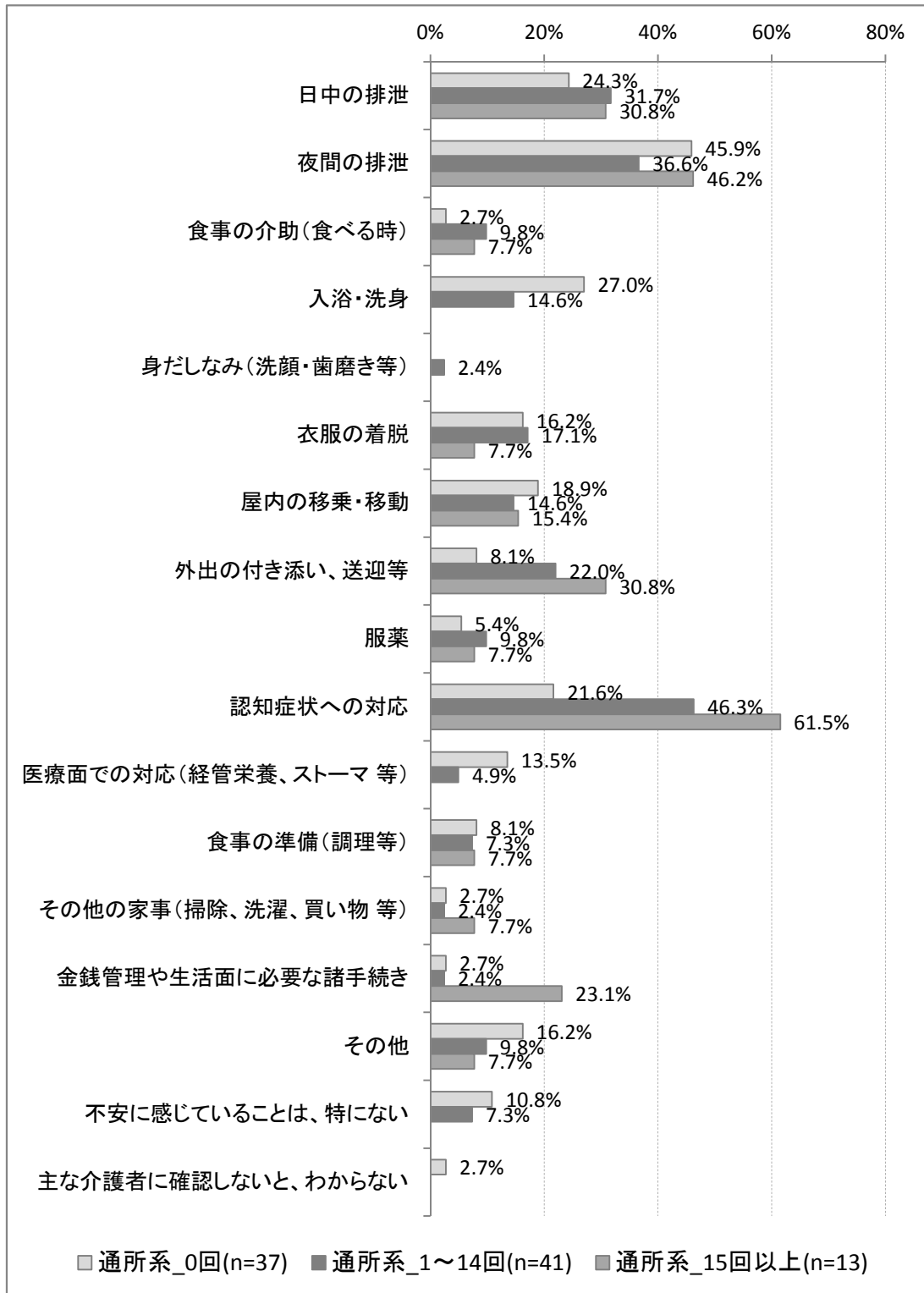
「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が53.8%、「訪問系_1~14回」では「夜間の排泄」が44.0%、「訪問系_15回以上」では「夜間の排泄」・「衣服の着脱」が42.9%で最も多い。

図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



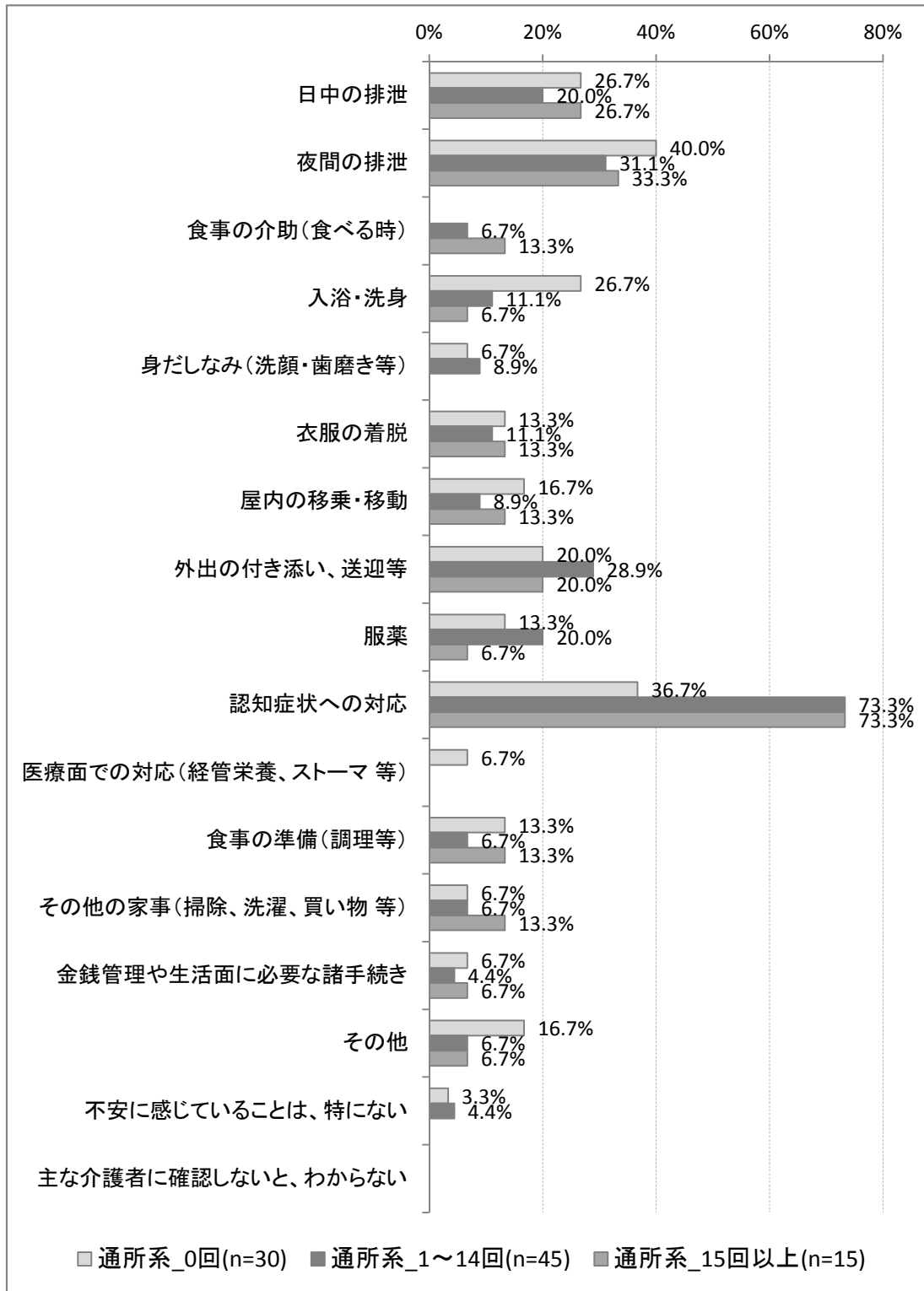
「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が69.8%、「訪問系_1~14回」では「認知症状への対応」が50.0%、「訪問系_15回以上」では「日中の排泄」・「外出の付き添い、送迎等」が28.6%で最も多い。

図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



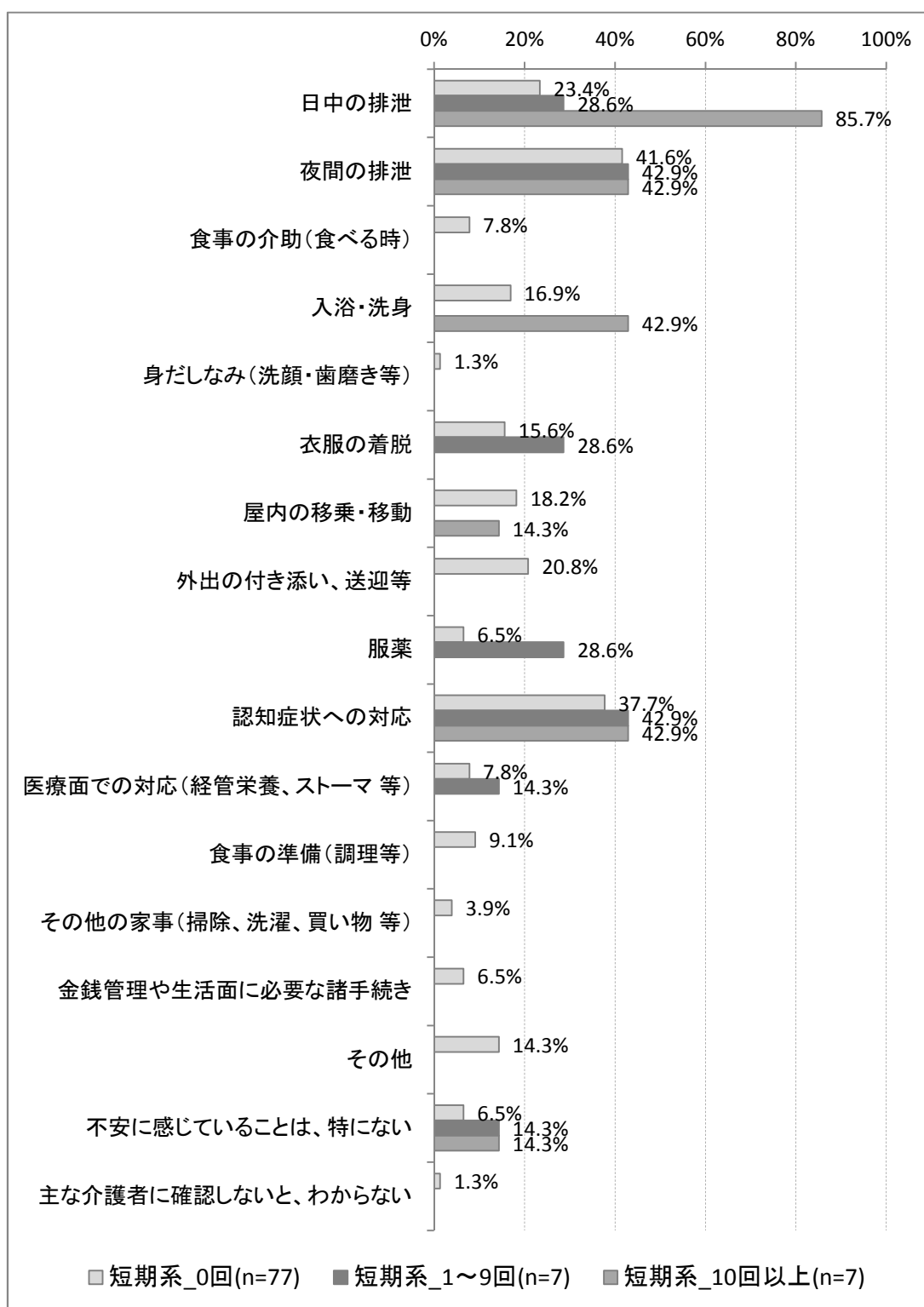
「通所系_0回」では「夜間の排泄」が45.9%、「通所系_1~14回」では「認知症状への対応」が46.3%、「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が61.5%で最も多い。

図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



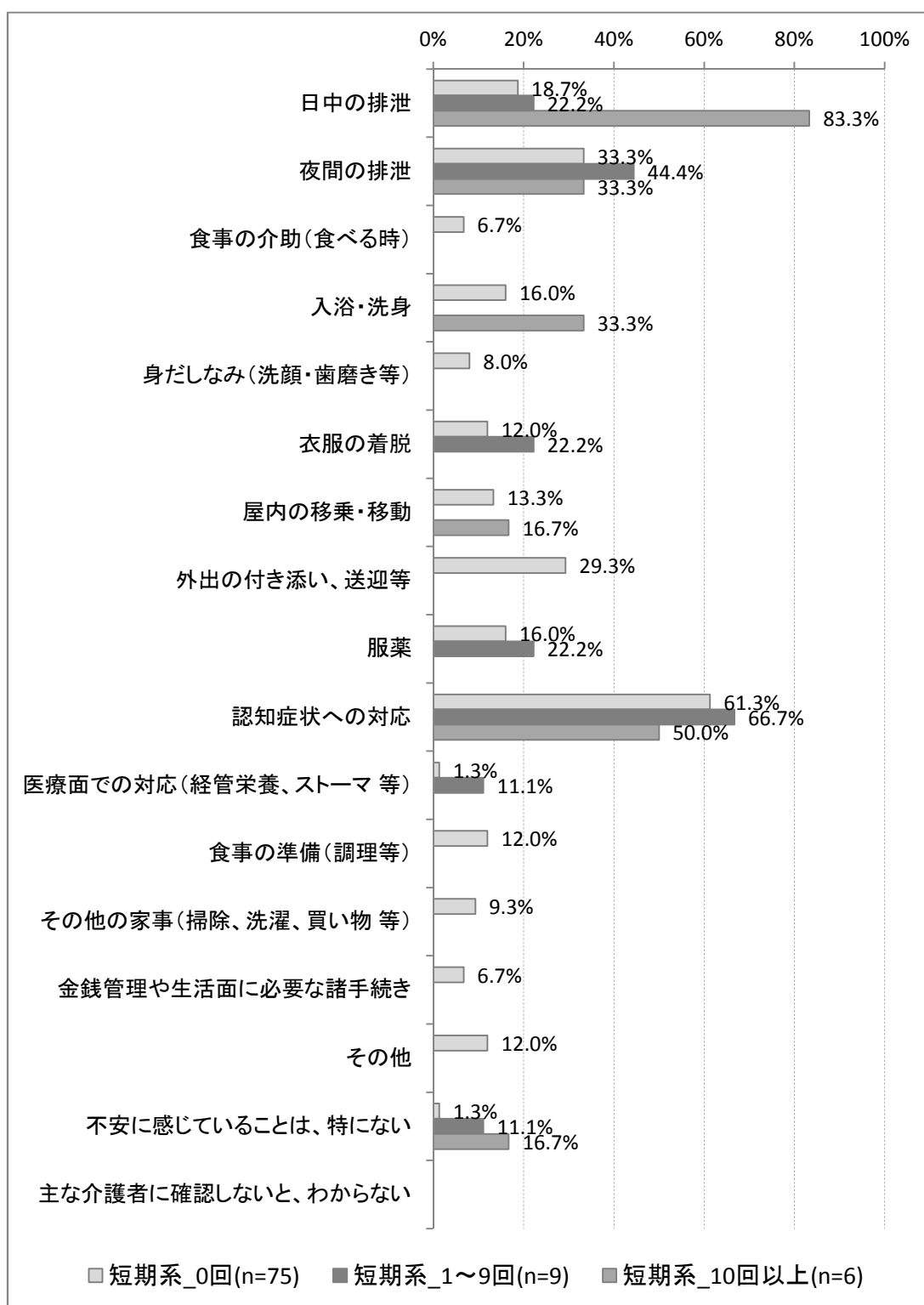
「通所系_0回」では「夜間の排泄」が40.0%、「通所系_1~14回」では「認知症状への対応」が73.3%、「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が73.3%で最も多い。

図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



「短期系_0回」では「夜間の排泄」が41.6%、「短期系_1~9回」では「夜間の排泄」、
「認知症状への対応」が42.9%、「短期系_10回以上」では「日中の排泄」が85.7%で最も多い。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



「短期系_0回」では「認知症状への対応」が61.3%、「短期系_1~9回」では「認知症状への対応」が66.7%、「短期系_10回以上」では「日中の排泄」が83.3%で最も多い。

2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

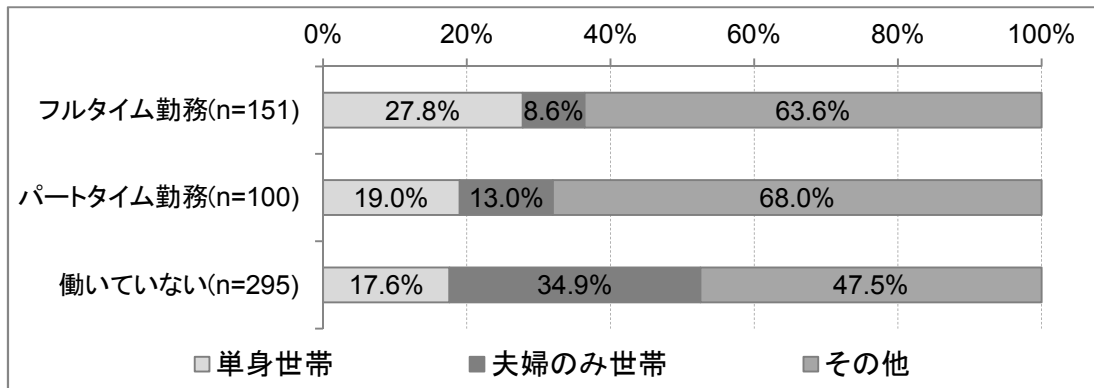
- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基本集計

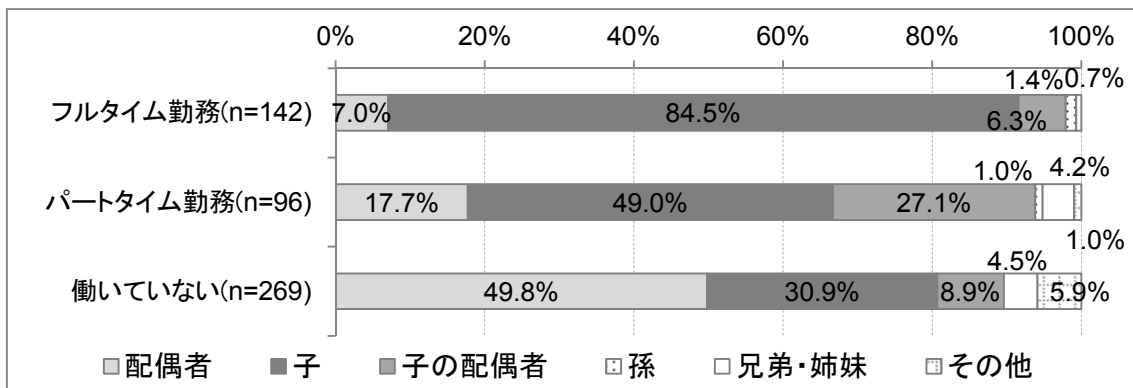
- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

図表 2-1 就労状況別・世帯類型



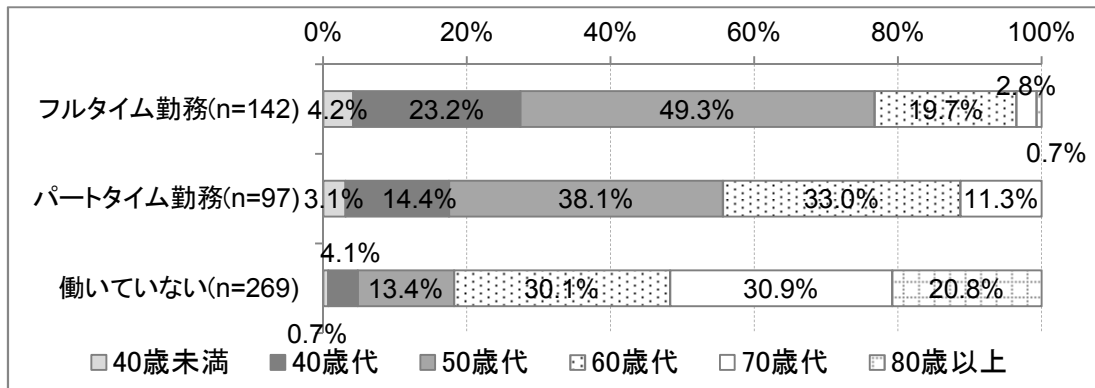
各項目において「その他」の世帯が最も多いが、「働いていない」では「夫婦のみ世帯」の割合が他項目よりも多い。

図表 2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係



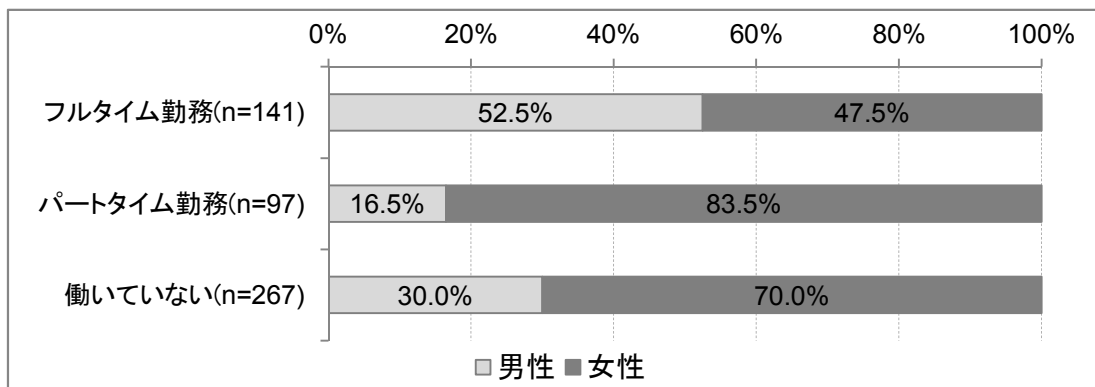
「フルタイム勤務」では「子」の割合が最も多く、84.5%を占めている。

図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



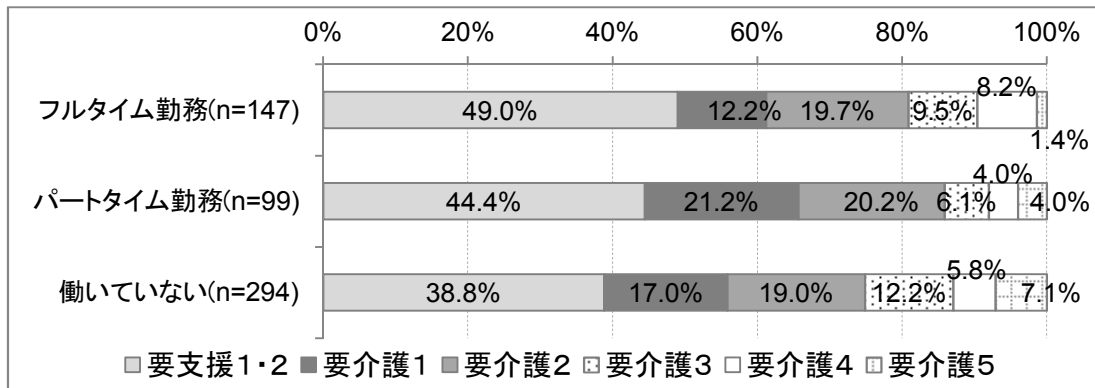
「就労世帯」では「50歳代」が最も多いが、「働いていない」では60歳代以上が多い。

図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



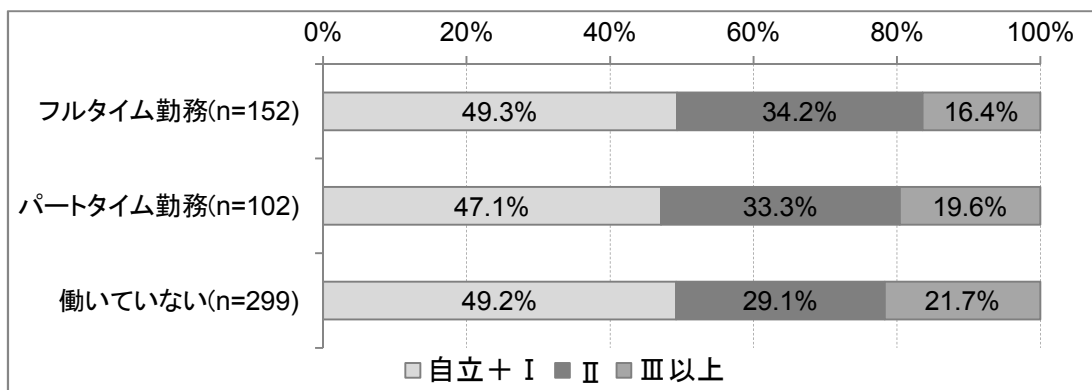
「フルタイム勤務」では男女比の違いは見られないが、「パートタイム勤務」、「働いていない」では女性の割合が多い。

図表 2-5 就労状況別・要介護度



各項目において割合の大きな違いは見られない。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



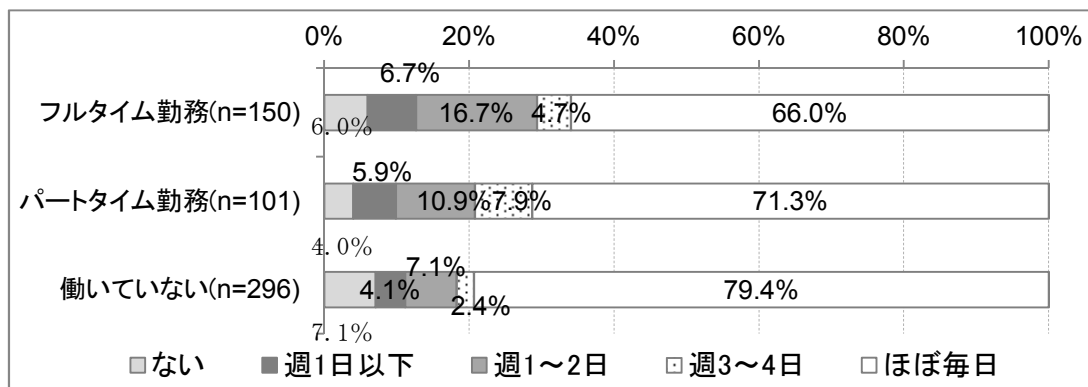
各項目において割合の大きな違いは見られない。

(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【着目すべきポイント】

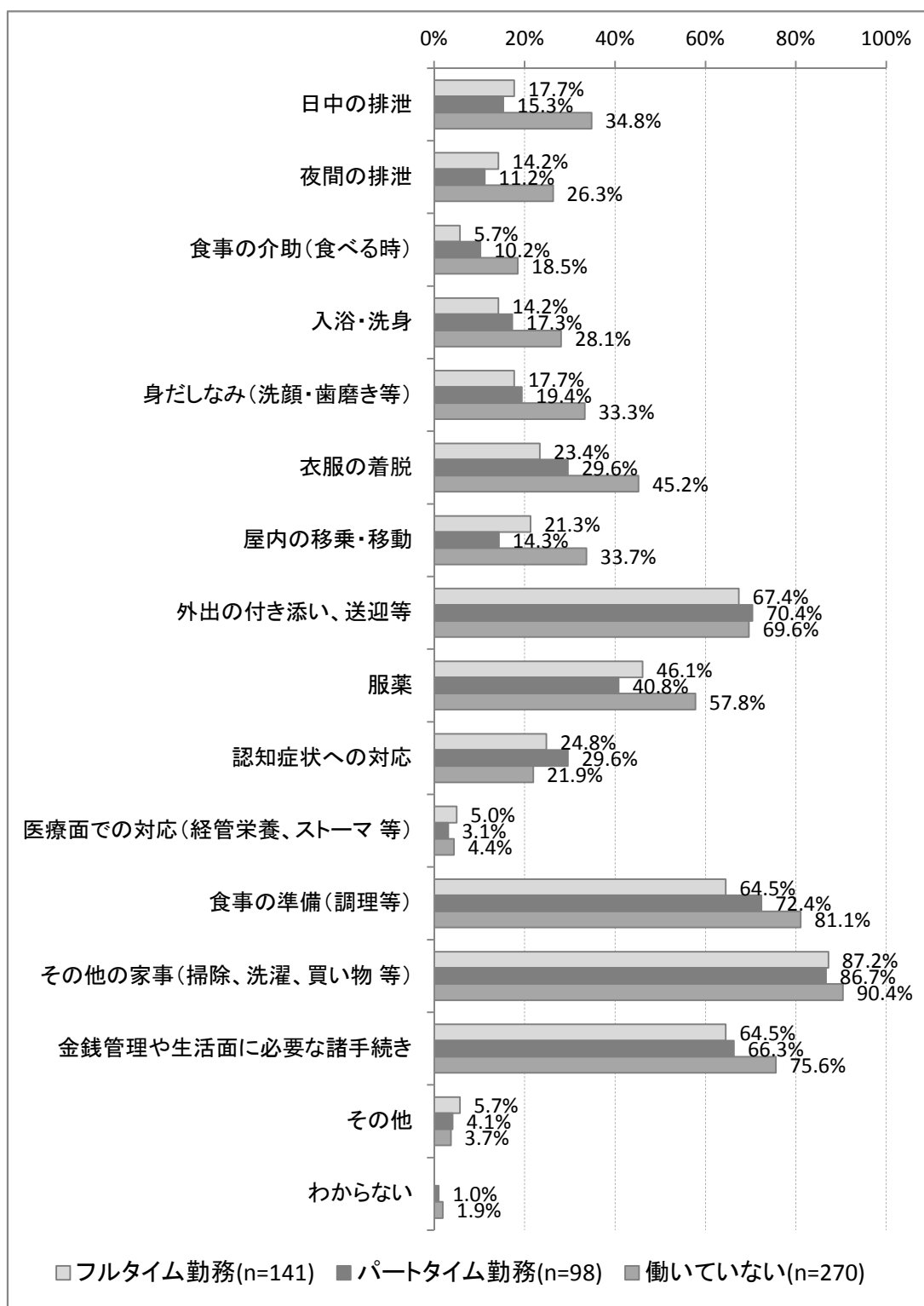
- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



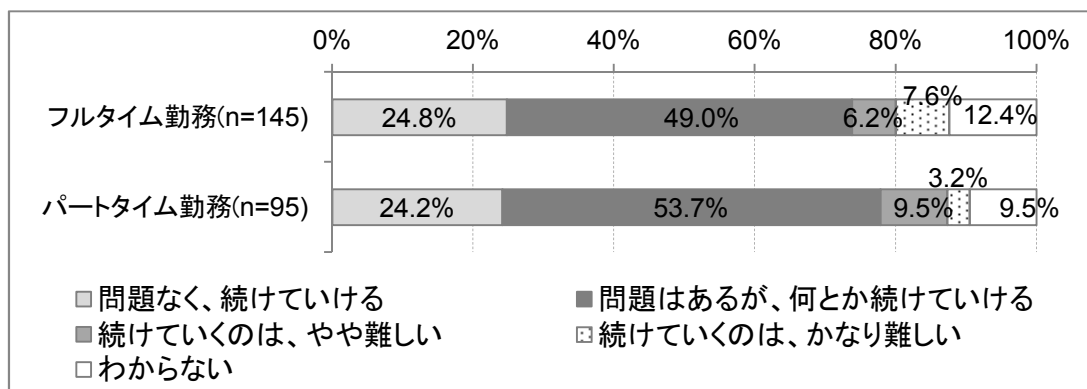
「フルタイム勤務」→「パートタイム勤務」→「働いていない」と勤務日数が少なくなるにつれて、介護にかかる日数が増えている。

2-8 就労状況別・主な介護者が行っている介護



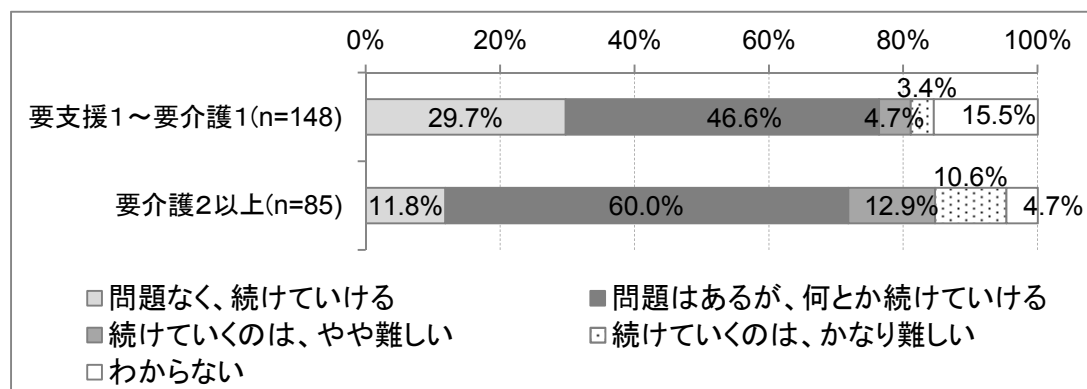
各就労状況で共通して「その他の家事」が最も多く、「フルタイム勤務」では87.2%、「パートタイム勤務」では86.7%、「働いていない」では90.4%であった。

図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



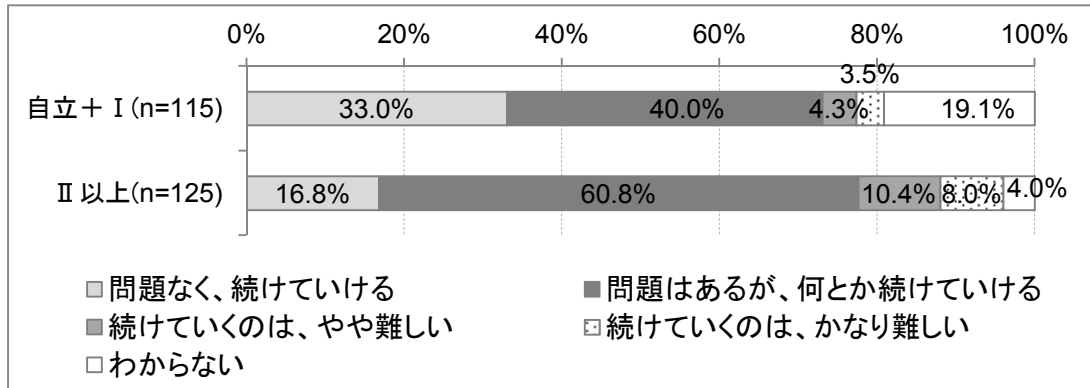
各項目とも「問題はあるが、何とか続けている」が多い。

図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



介護度の重度化に伴い「問題はあるが、何とか続けている」が増えている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



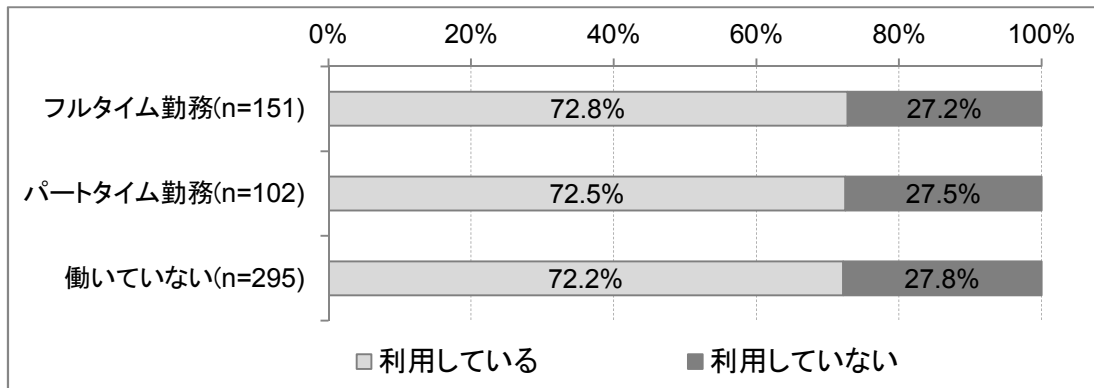
自立度の重度化に伴い「問題はあるが、何とか続けている」が増えている。

(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

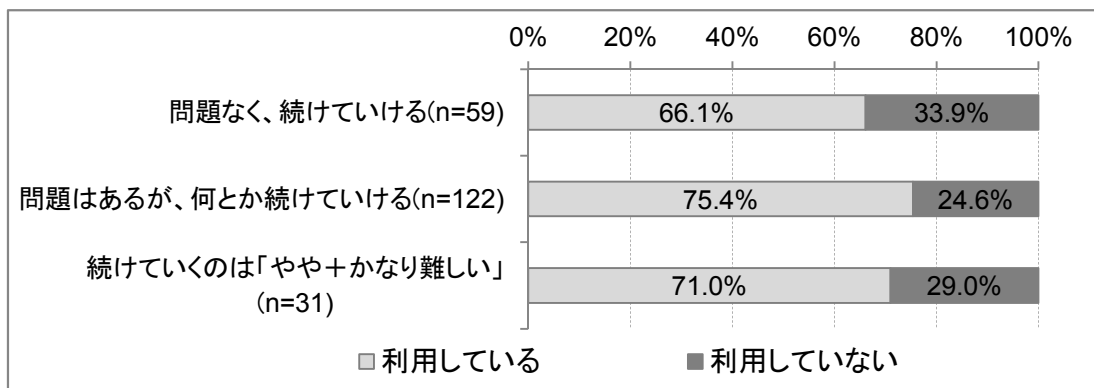
- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています(図表 2-12～図表 2-15)。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります(図表 2-13、図表 2-14)。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

図表 2-12 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



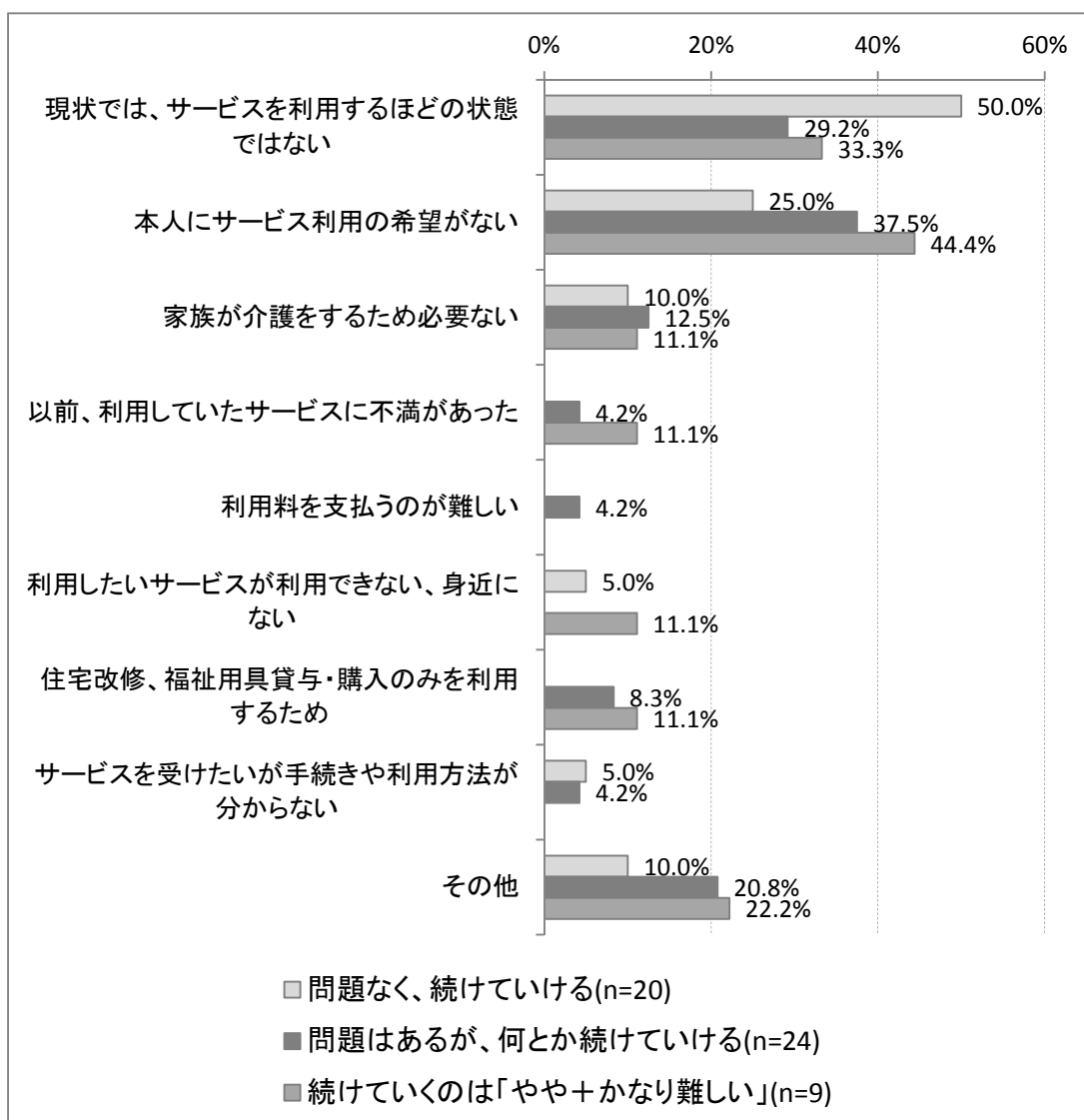
就労状況の区分に共通して「利用している」が約 70%、「利用していない」が約 30%であった。

図表 2-13 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



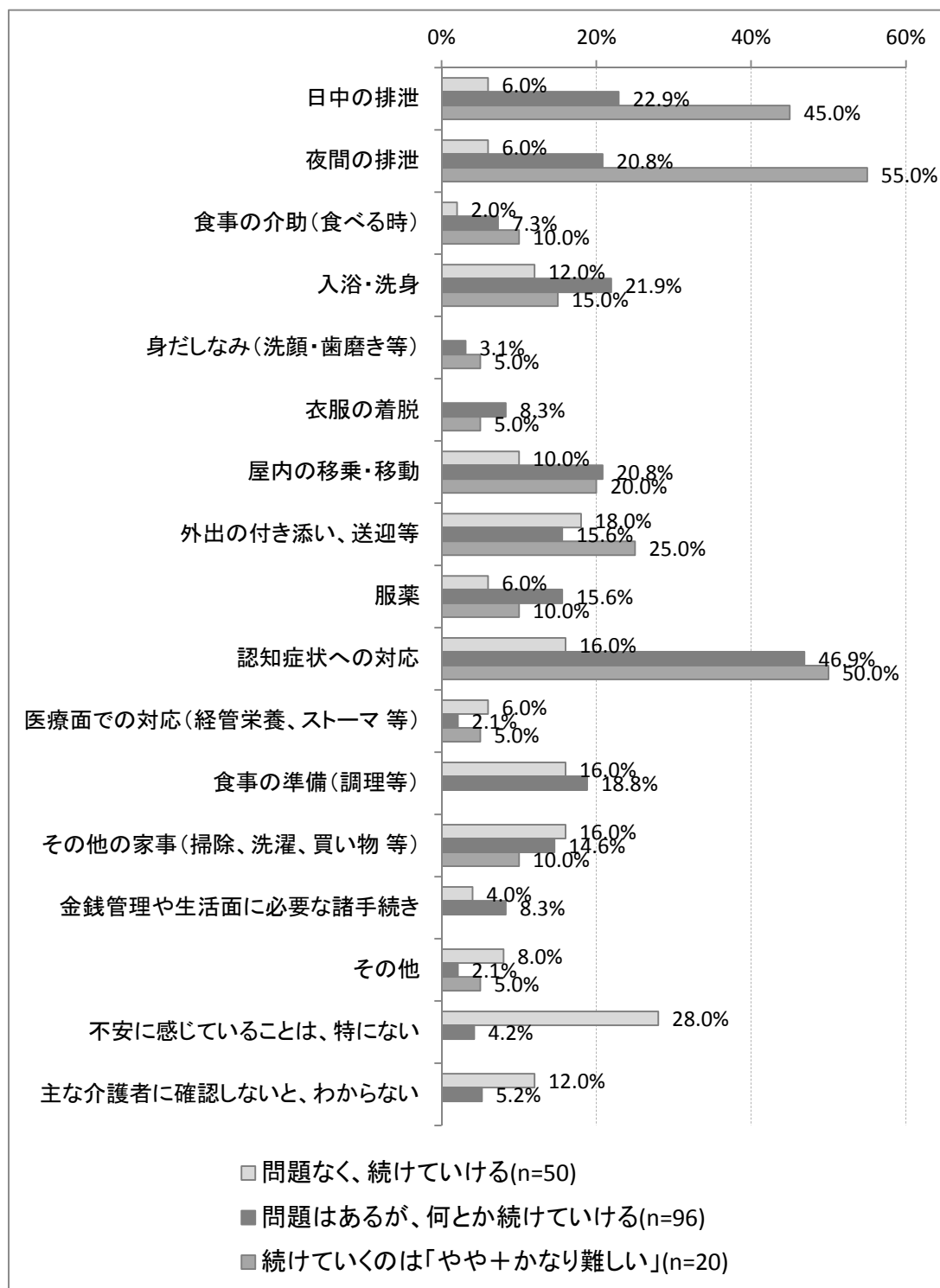
「問題はあるが、何とか続けている」が 75.4%で最も多い。

図表 2-14 就労継続見込み別・サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



「問題なく、続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 50.0%、「問題はあるが、何とか続けていける」では「本人にサービス利用の希望がない」が 37.5%、「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」が 44.4%で最も多い。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



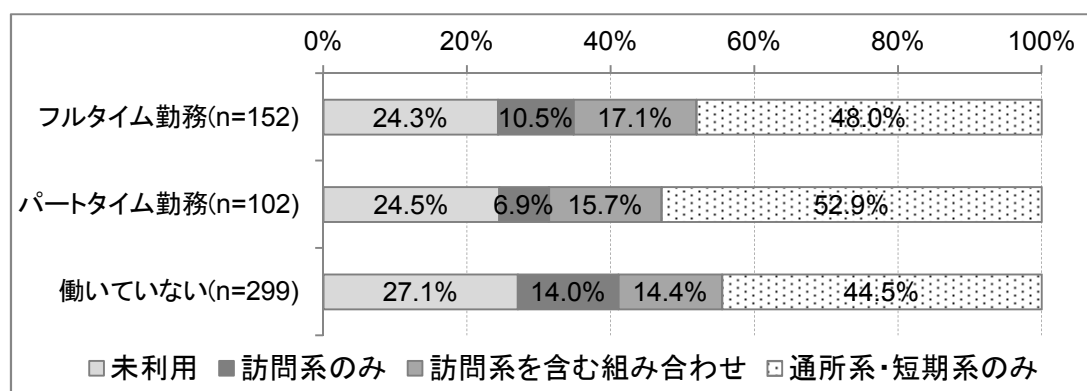
「問題なく、続けていける」では「不安に感じていることは、特にない」が28.0%、「問題はあるが、何とか続けていける」では「認知症状への対応」が46.9%、「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「夜間の排泄」が55.0%で最も多い。

(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

【着目すべきポイント】

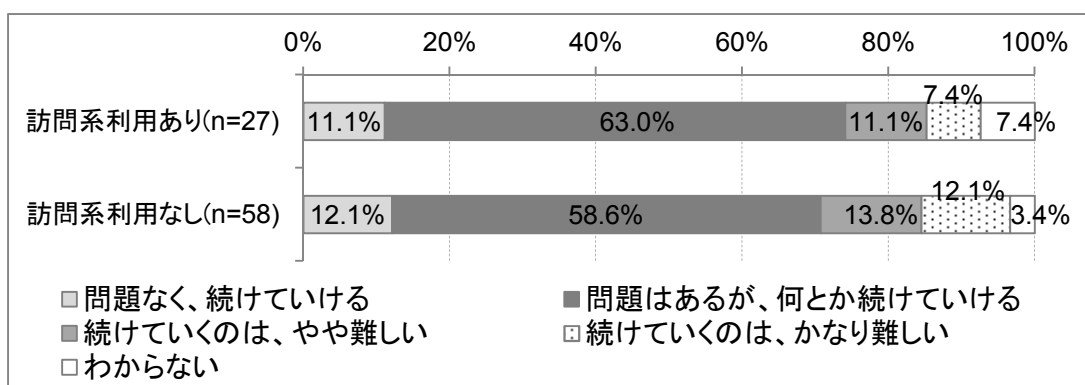
- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表 2-16～図表 2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



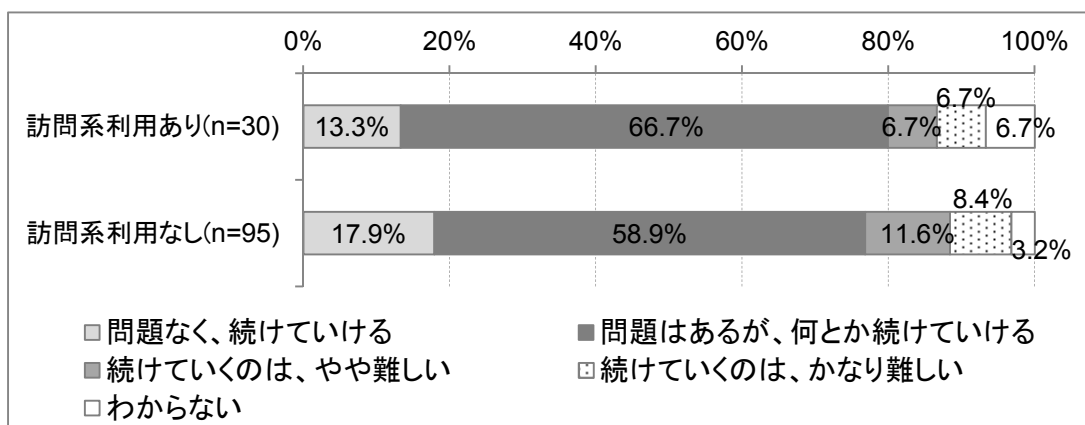
「通所系・短期系のみ」が最も多い。

図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



「問題はあるが、何とか続けていける」が共通して多い。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



「問題はあるが、何とか続けていける」が共通して多い。

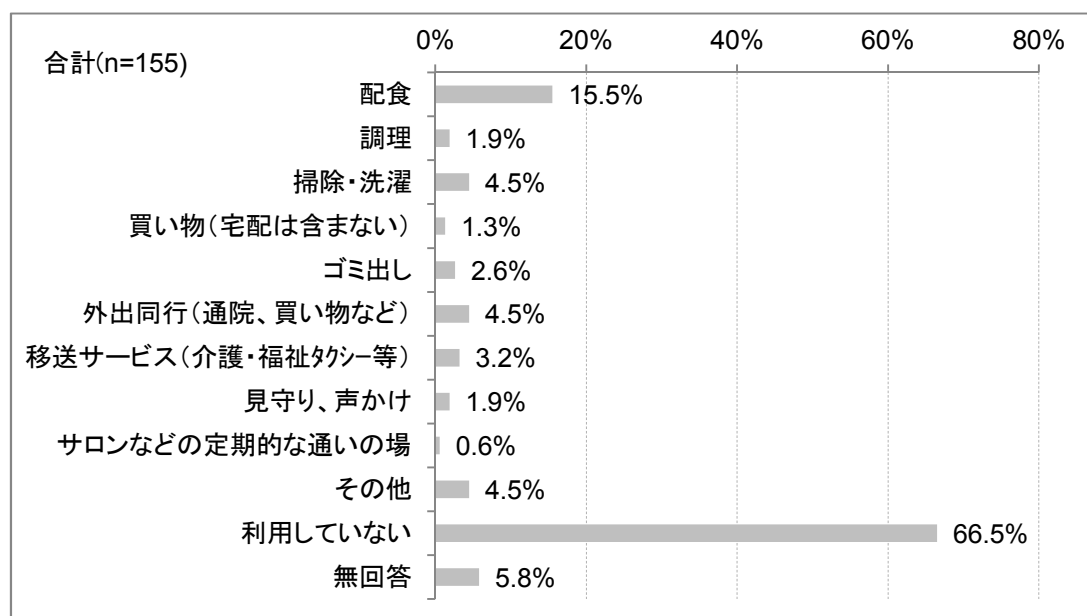
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。

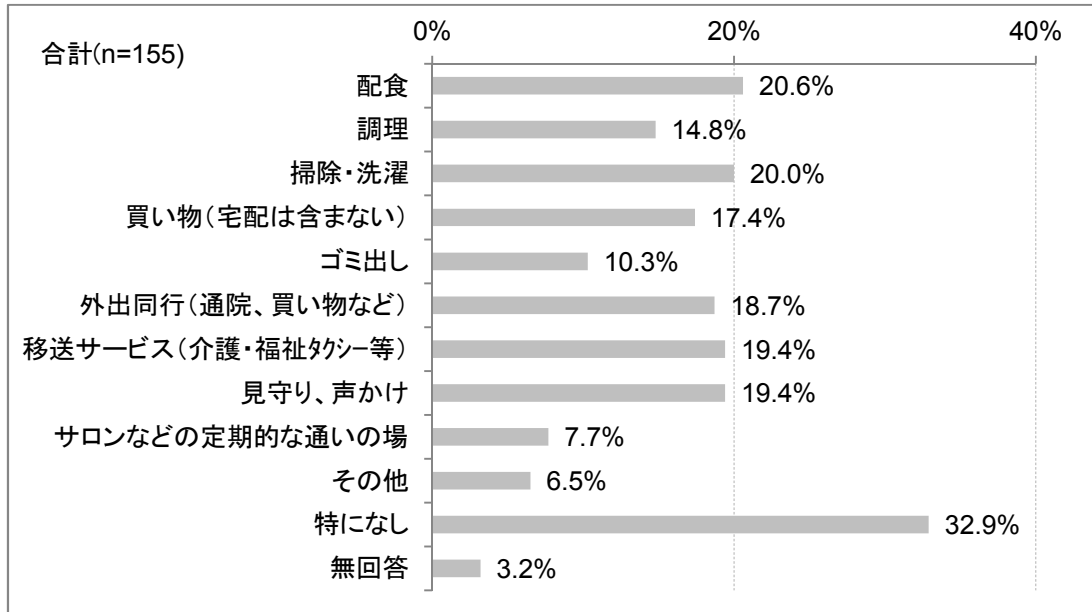
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護2以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性と、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

図表 2-19_1 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



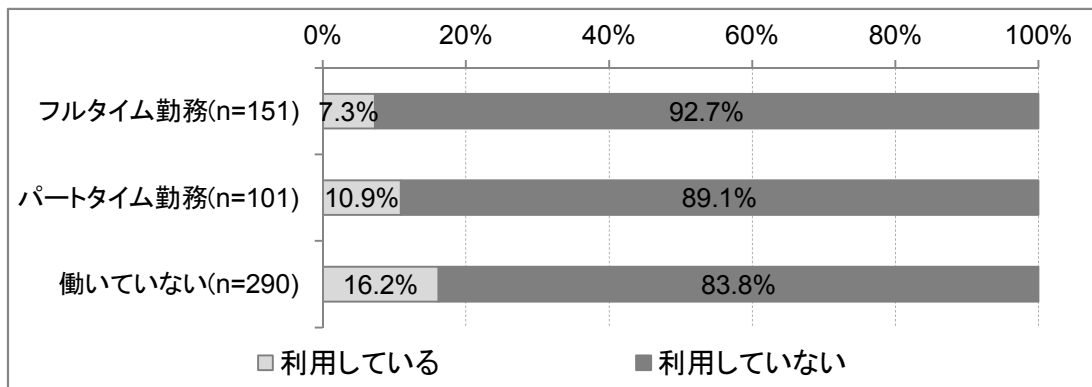
「利用していない」が66.5%で最も多く、次に「配食」が15.5%であった。

図表 2-19_2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



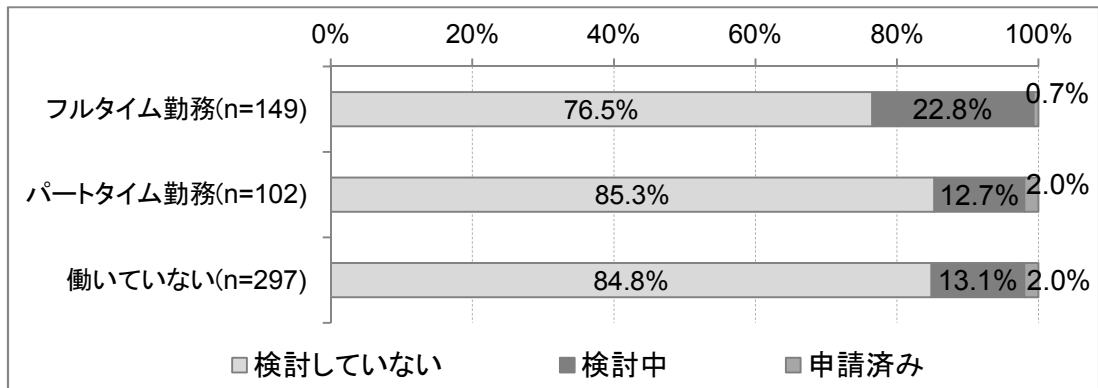
「特になし」が 32.9%で最も多く、「配食」20.6%、「掃除・洗濯」20.0%と続いている。

図表 2-20 就労状況別・訪問診療の利用の有無



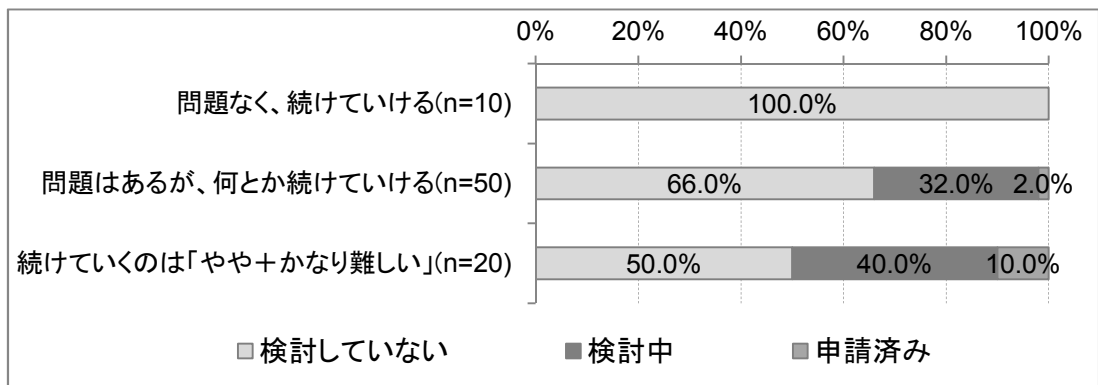
「利用していない」が「フルタイム勤務」で 92.7%と最も多かった。

図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



「フルタイム勤務」では「検討中」が22.8%であった。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



「問題なく、続けていける」では「検討していない」が100%であった。

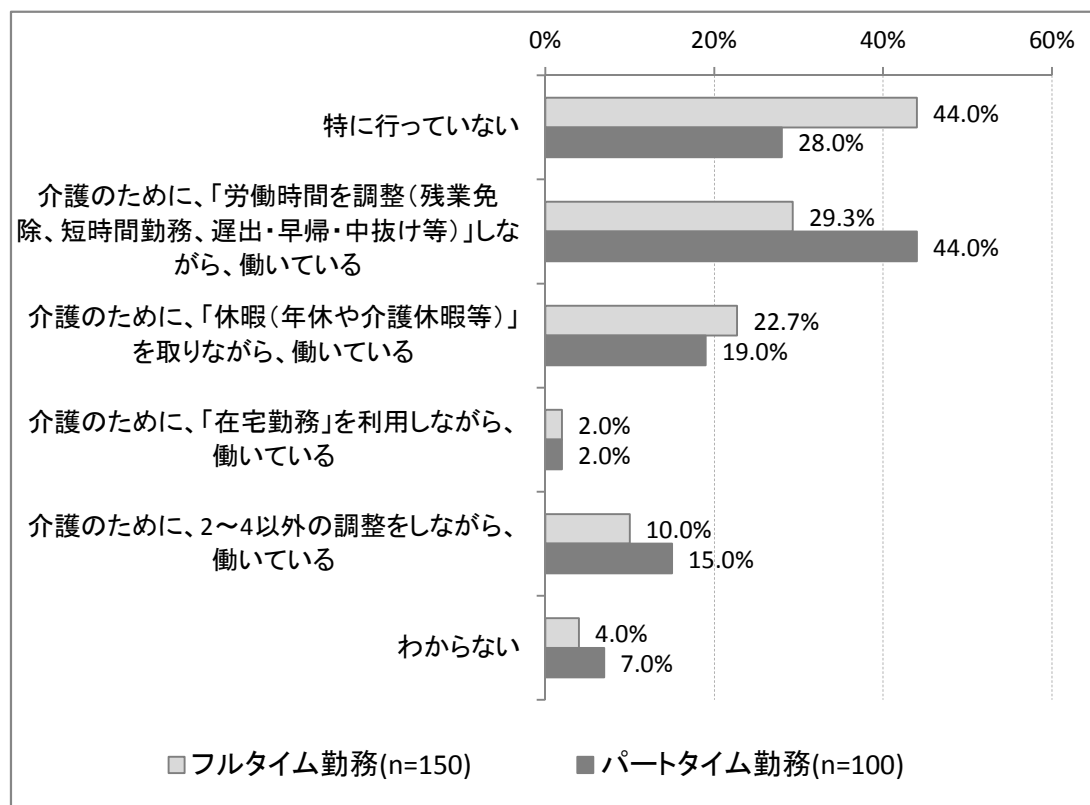
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。

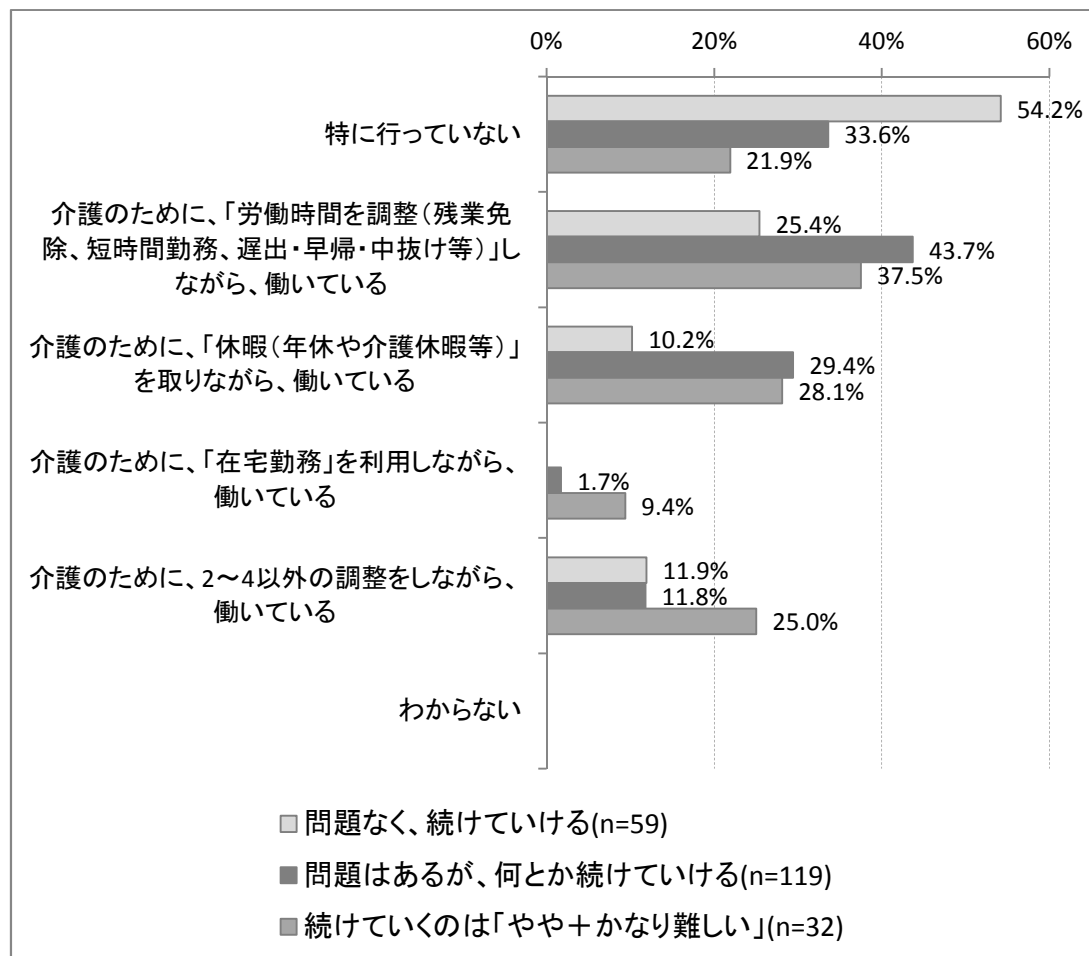
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況にはなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



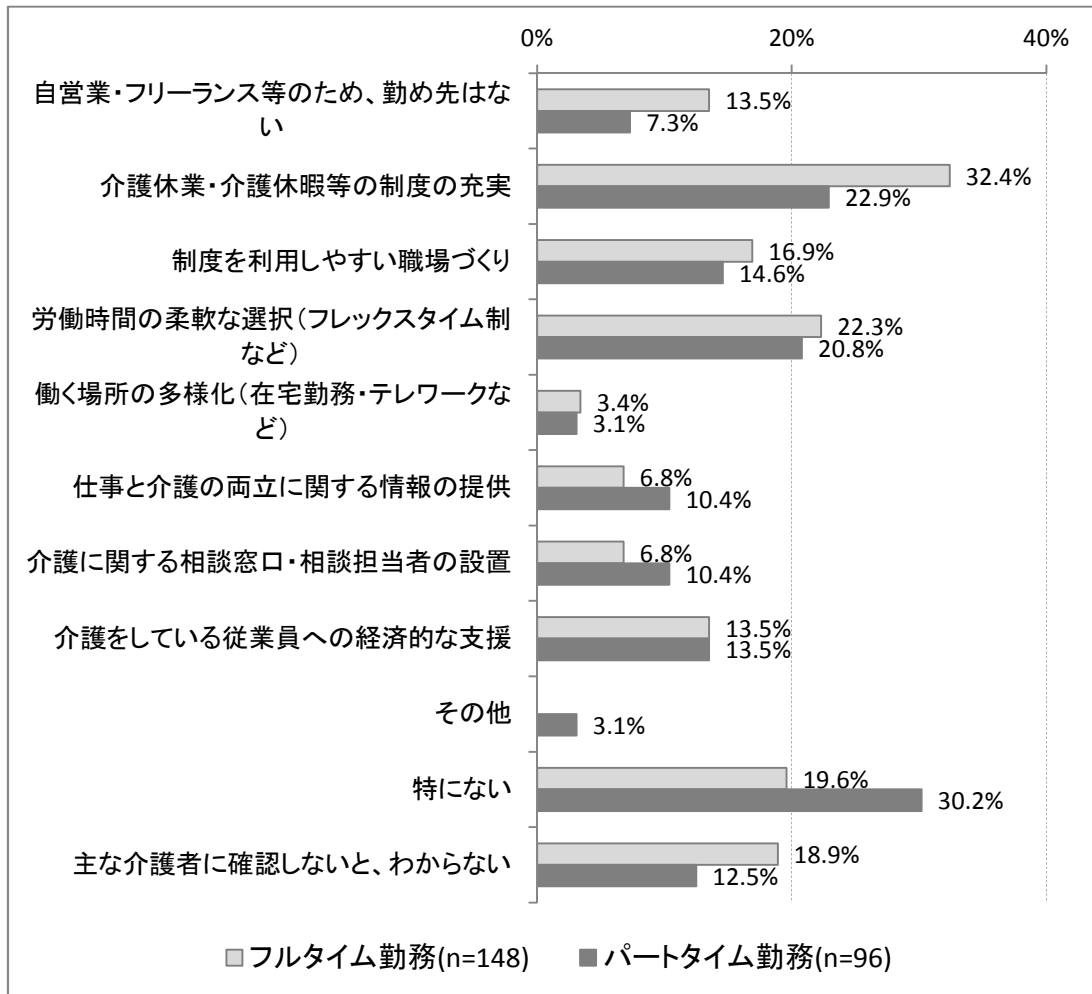
「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が44.0%、「パートタイム勤務」では「労働時間を調整」が44.0%で最も多い。

図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



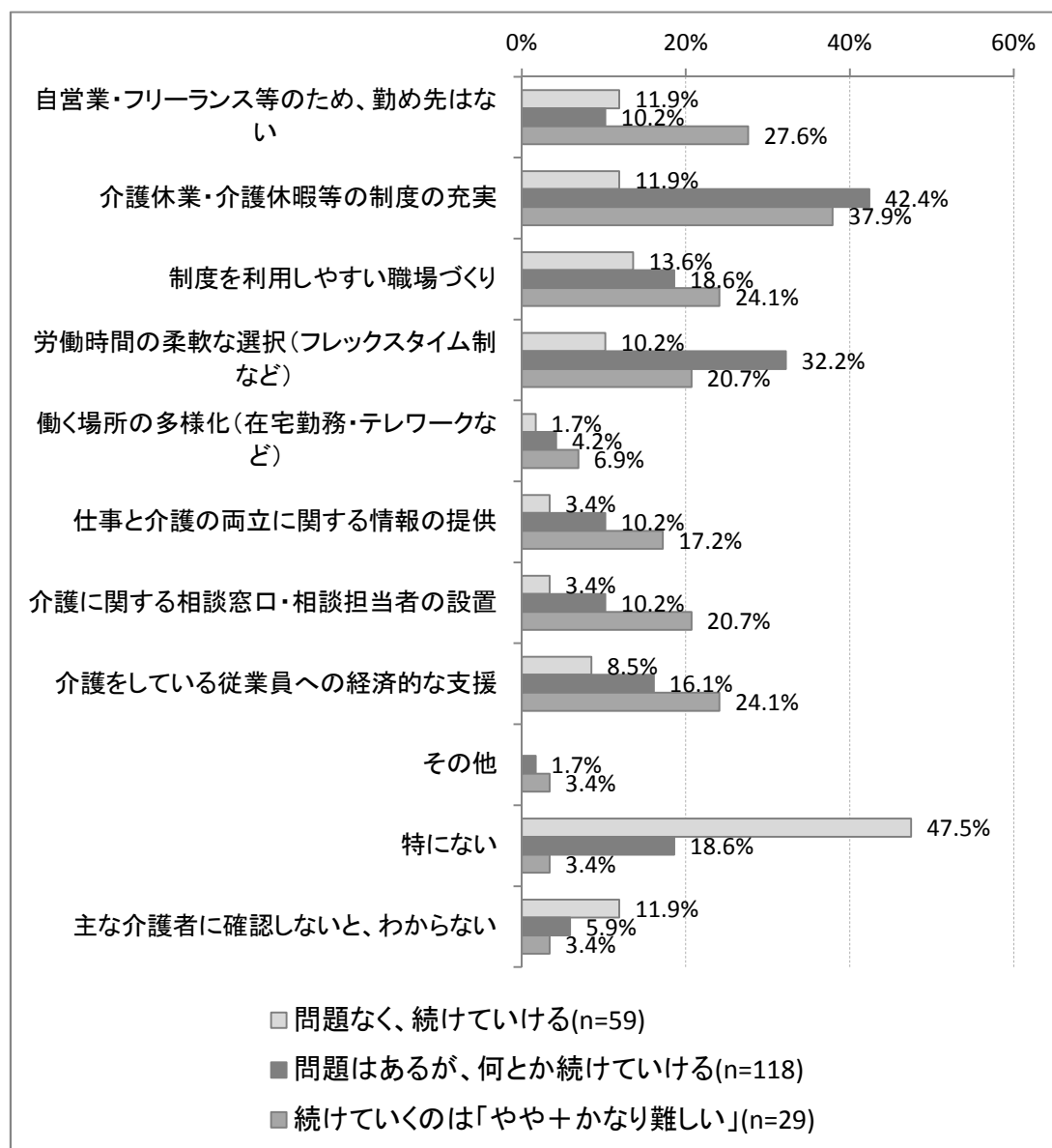
「問題はあるが、何とか続けている」、「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では約40%が「労働時間を調整」、約30%が「休暇」を取り介護を行っている。

図表 2-25 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



勤め先より「介護休業・介護休暇制度」や「労働時間の柔軟な選択」を活用し介護を行っている反面、支援が「特にない」が「フルタイム勤務」で19.6%、「パートタイム勤務」で30.2%であった。

図表 2-26 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



「問題なく、続けていける」では「特にない」が47.5%で最も多いが、「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が42.4%、「続けていくのは「やや+かなり難しい」」が37.9%で最も多い。

3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

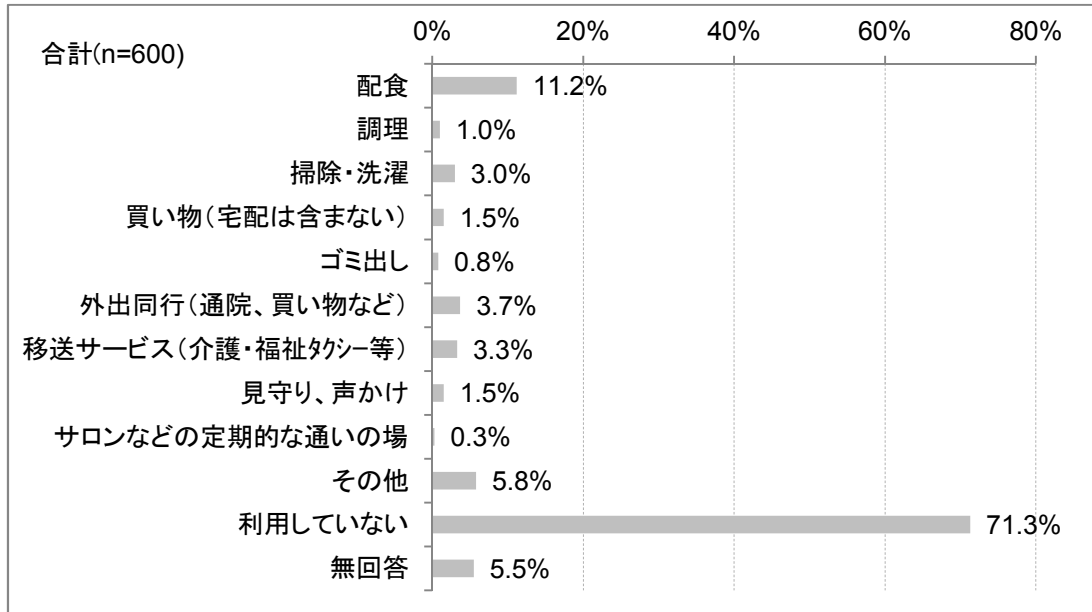
3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

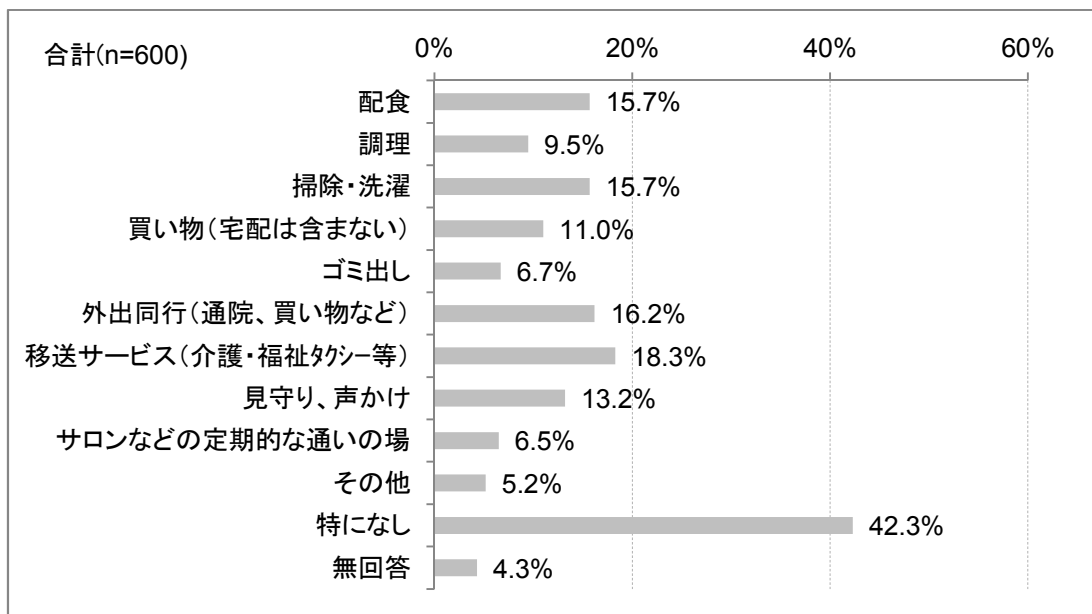
- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

図表 3-1 保険外の支援・サービスの利用状況



「利用していない」が71.3%で最も多い。

図表 3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



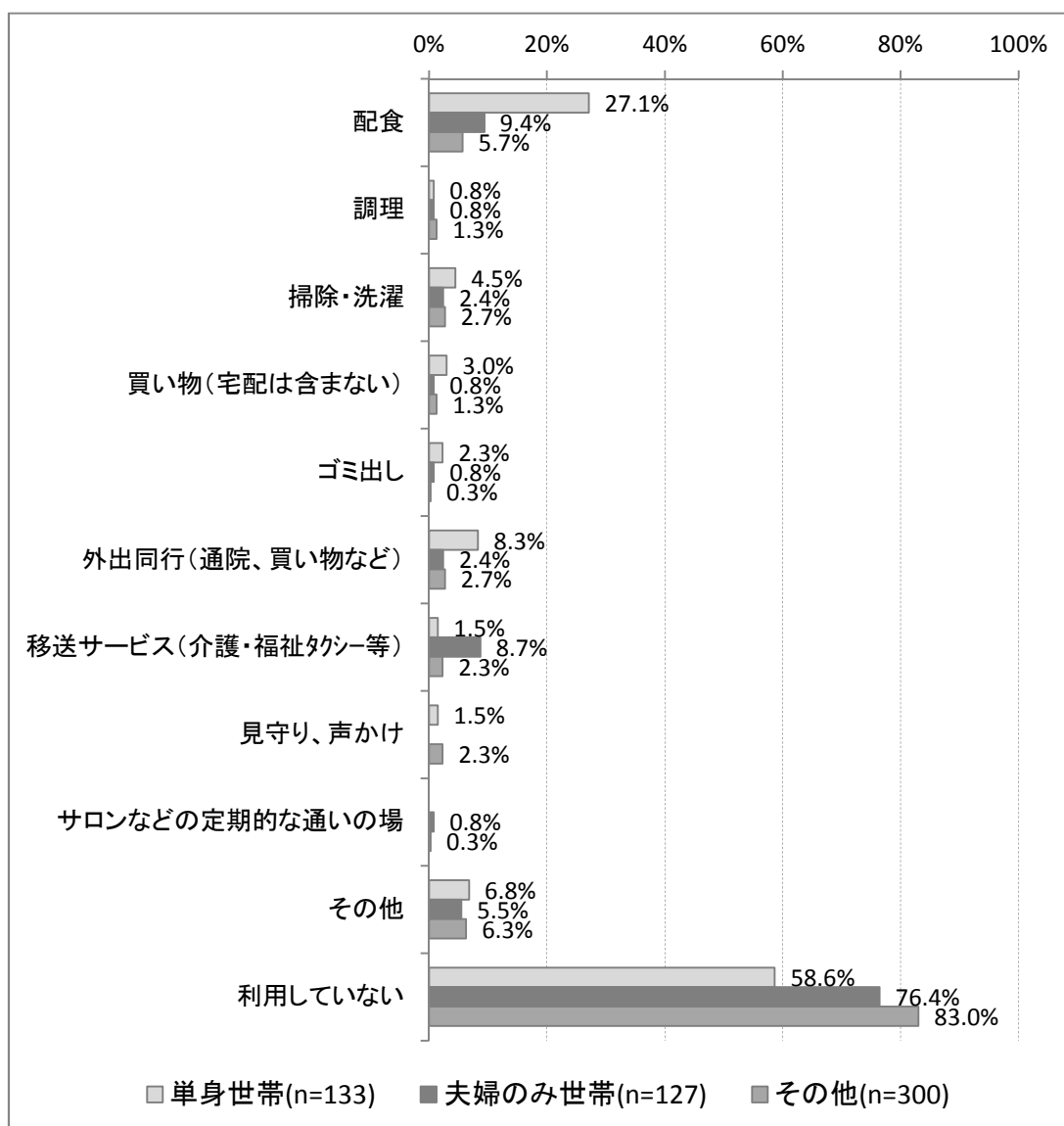
「特になし」が42.3%で最も多く、「移送サービス」18.3%、「外出同行」16.2%となっている。

(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

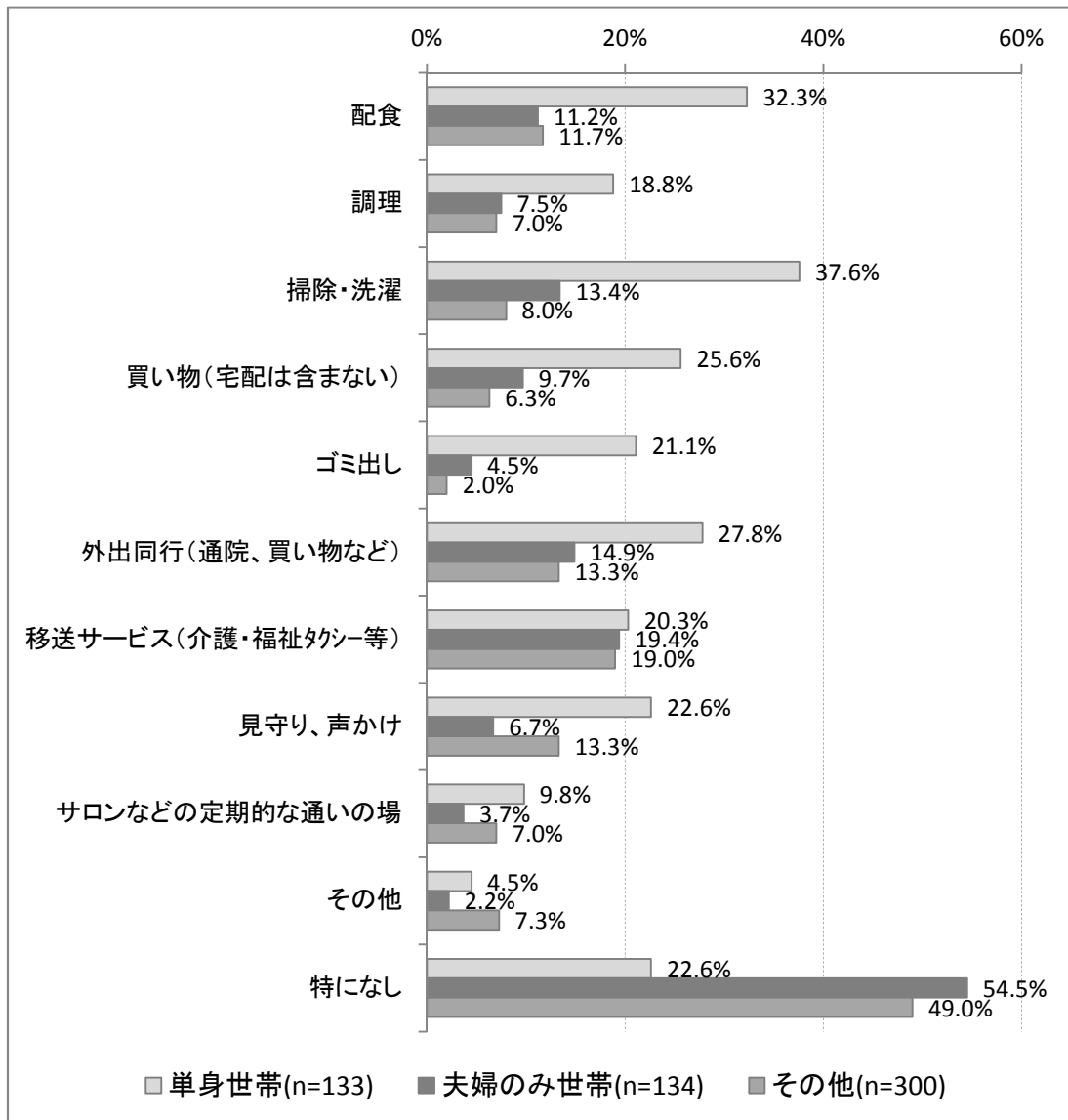
- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

図表 3-3 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



各世帯共に「利用していない」が最も多い。

図表 3-4 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



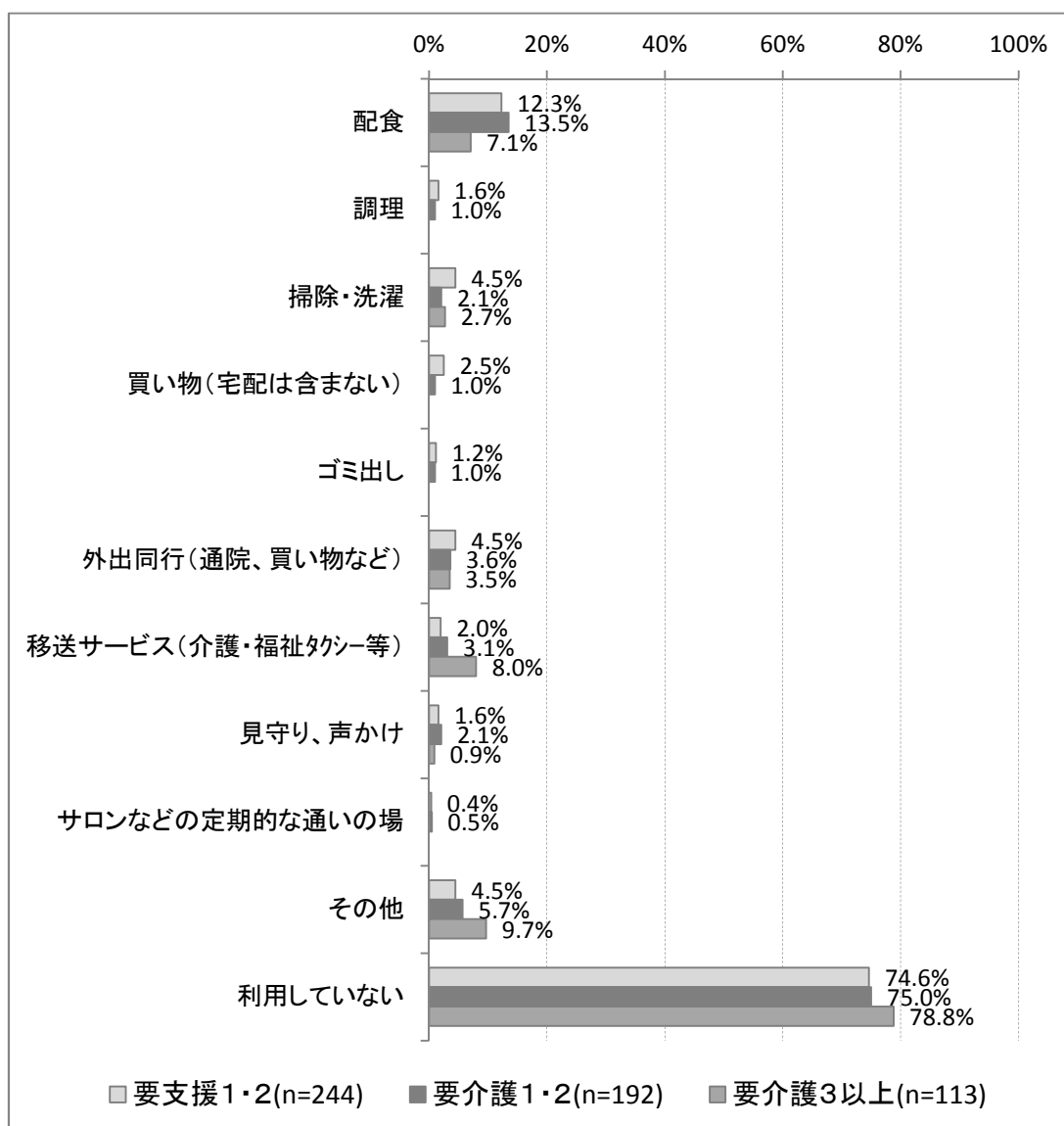
「単身世帯」では「掃除・洗濯」が37.6%で最も多いが、「夫婦のみ世帯」および「その他」では特になしが最も多い。

(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

【着目すべきポイント】

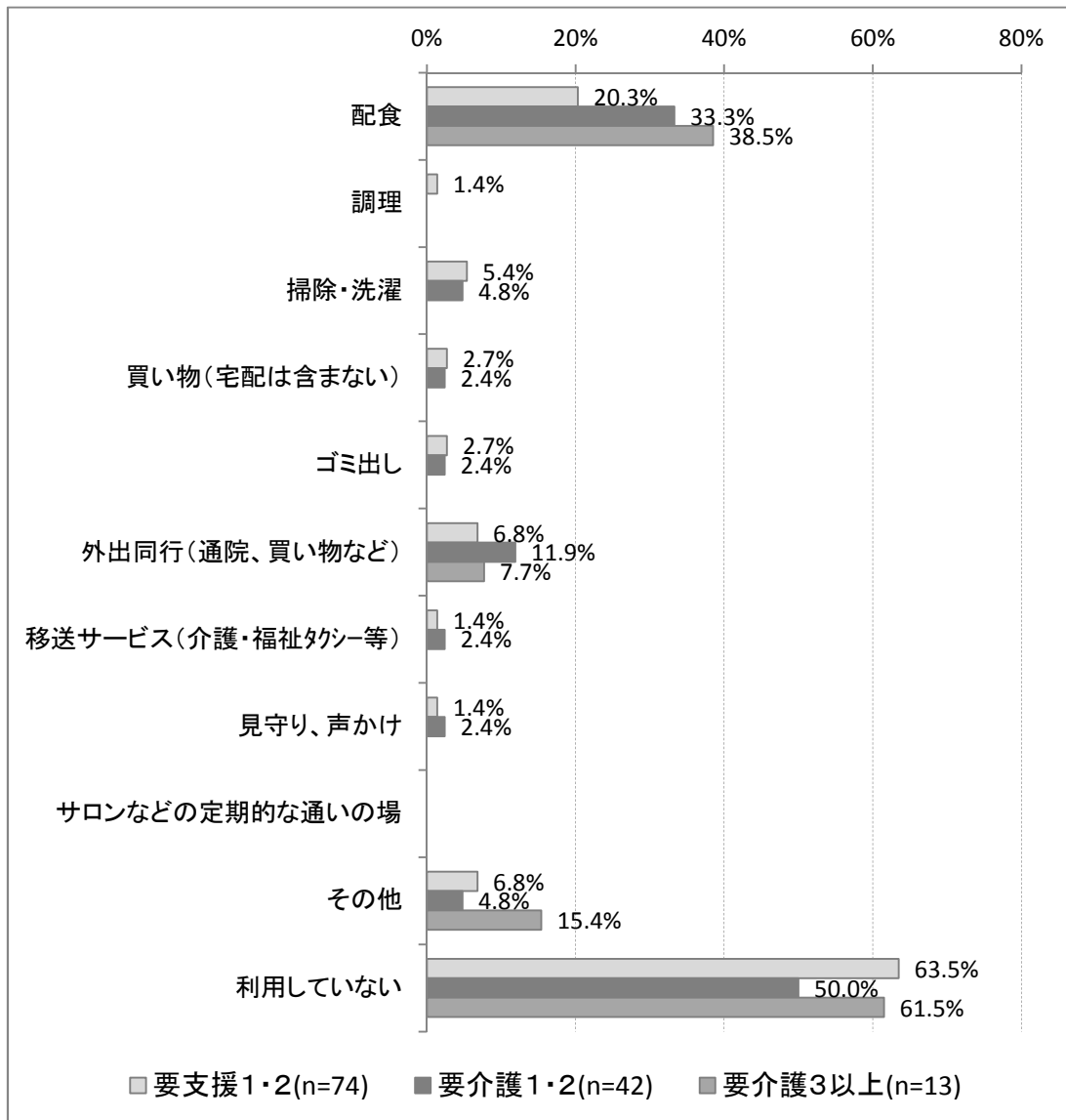
- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

図表 3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



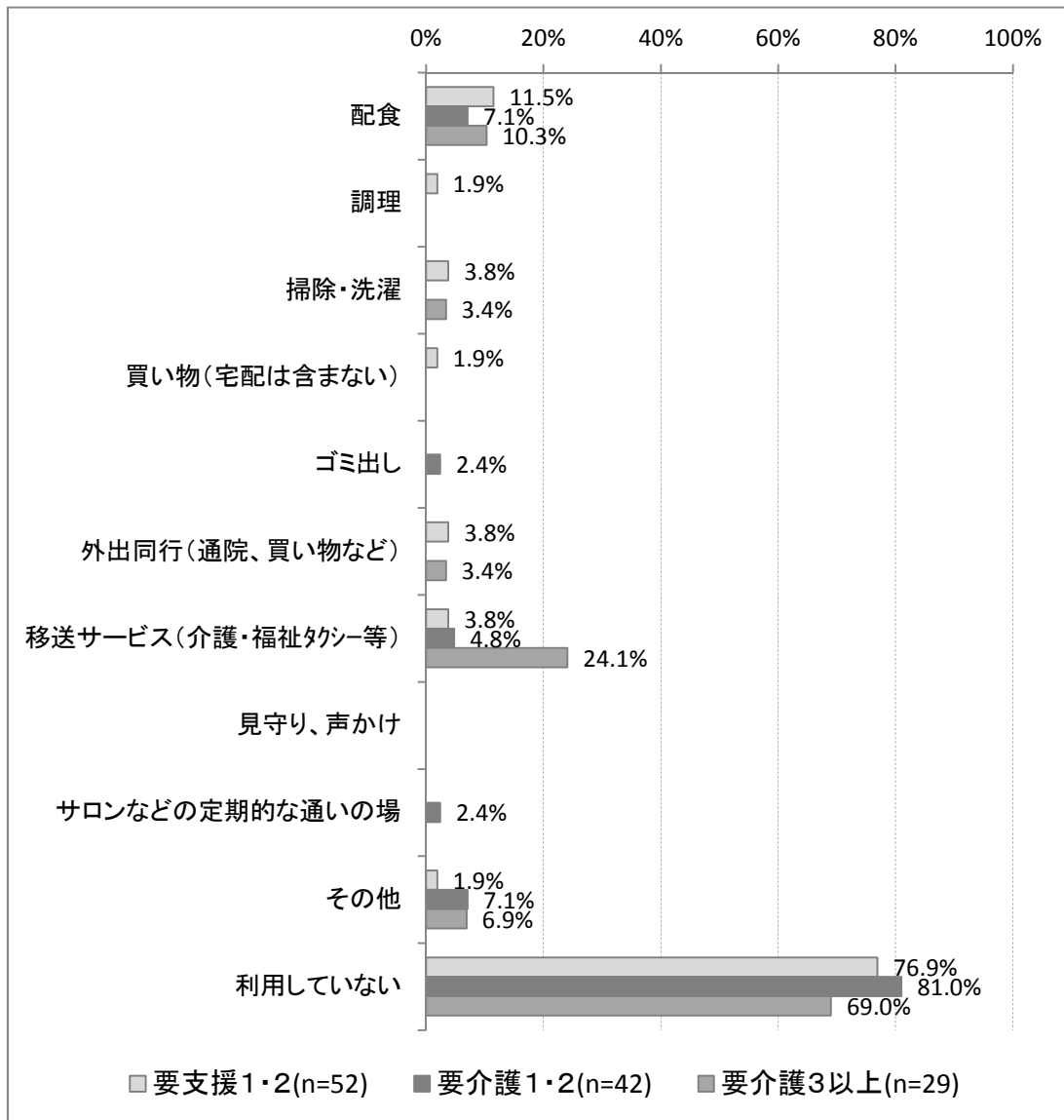
各介護度共通して「利用していない」が最も多い。

図表 3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



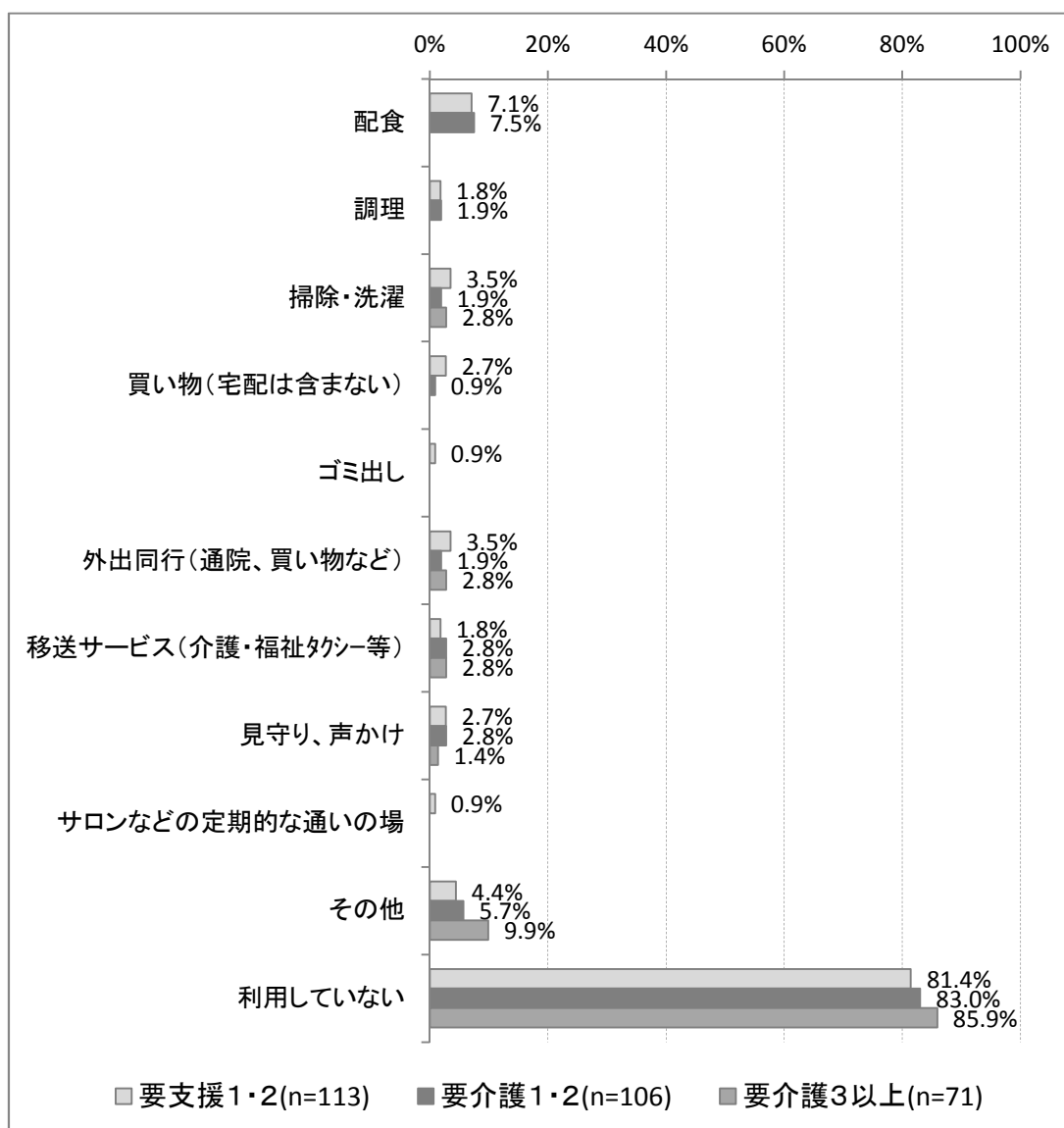
各介護度共通して「利用していない」が最も多いが、「配食」が「要支援1・2」で20.3%、「要介護1・2」で33.3%、「要介護3以上」で38.5%であった。

図表 3-7 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



各介護度共通して「利用していない」が最も多い。

図表 3-8 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）



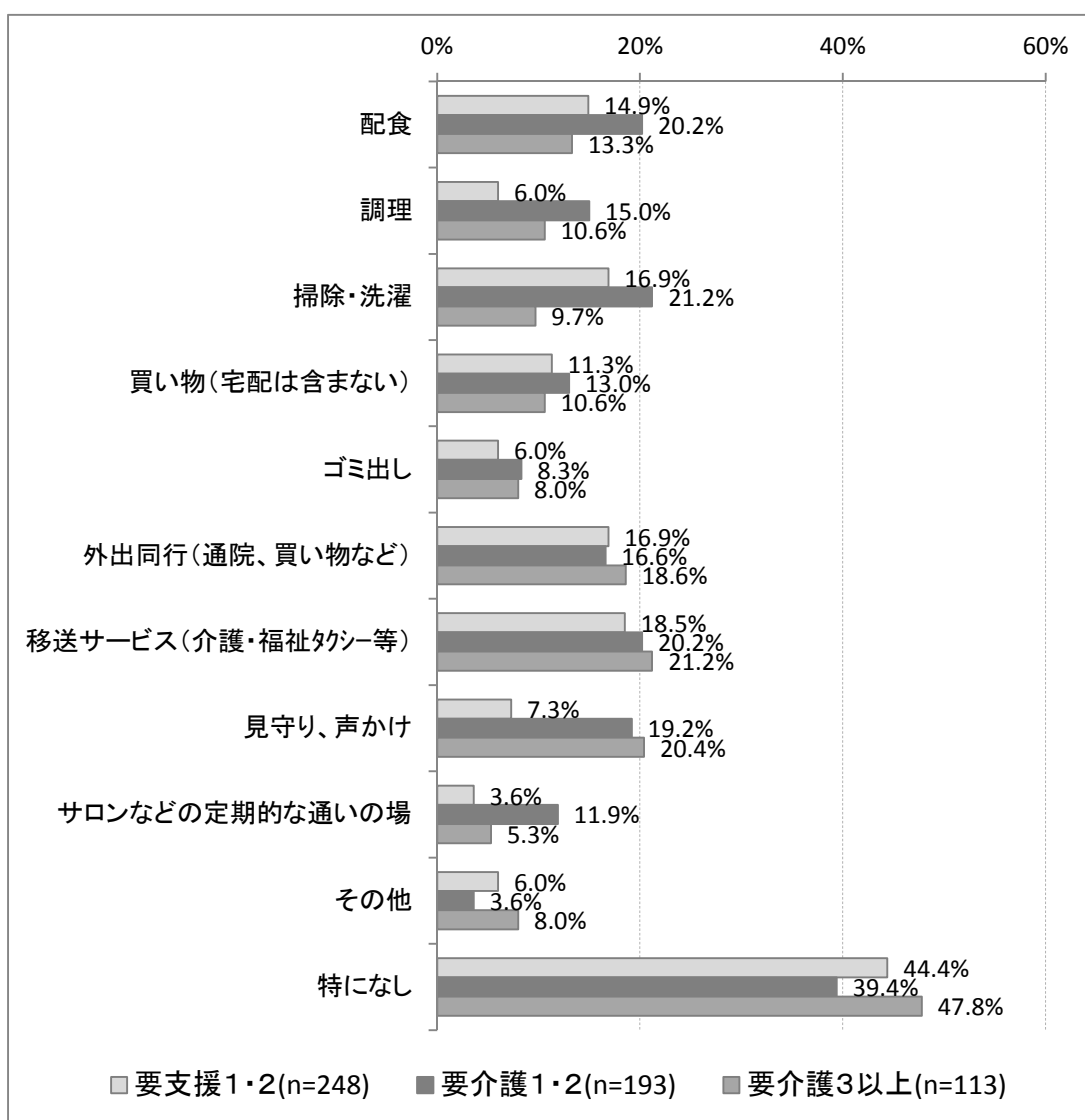
各介護度共通して「利用していない」が最も多い。

(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

【着目すべきポイント】

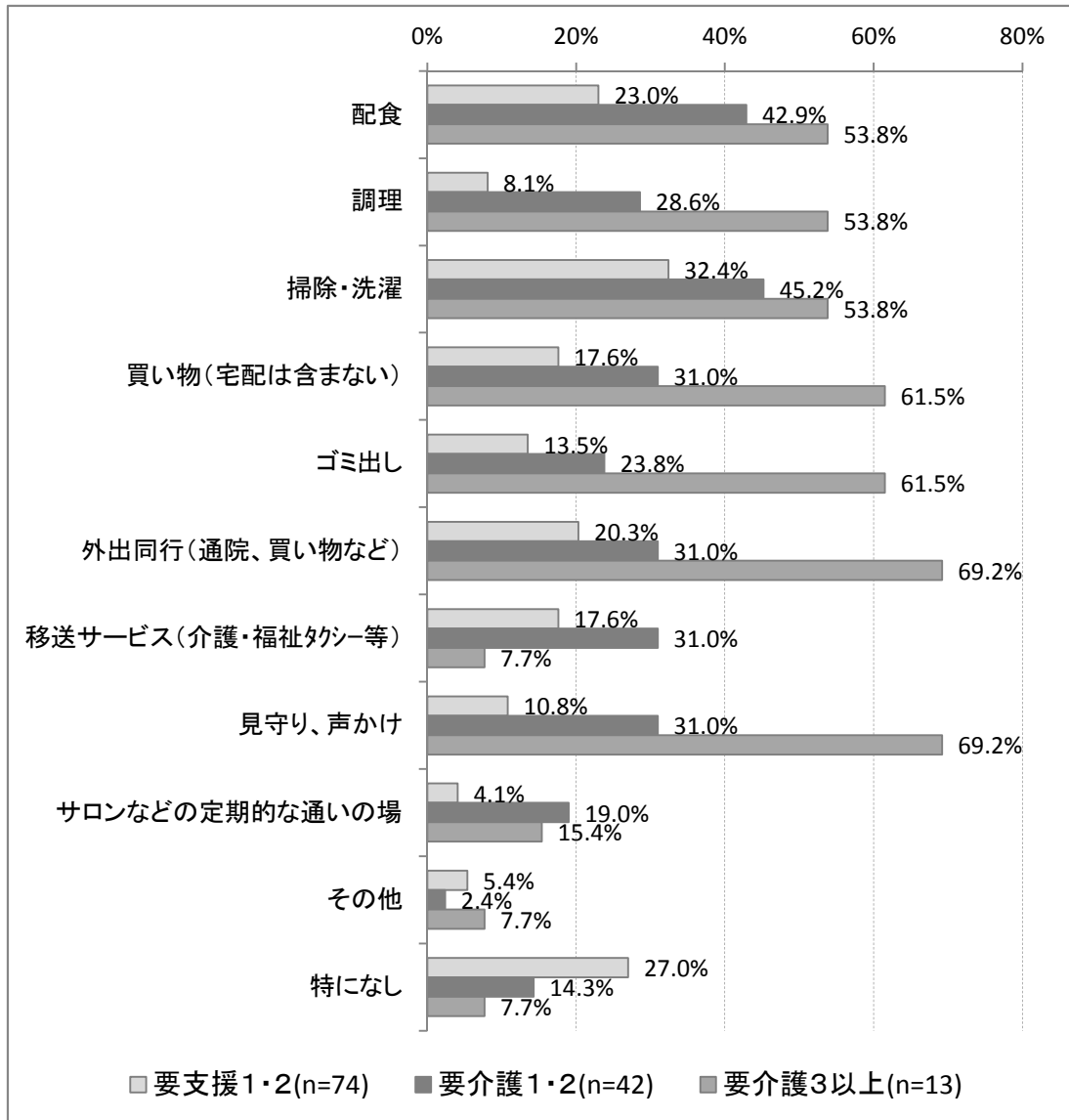
- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



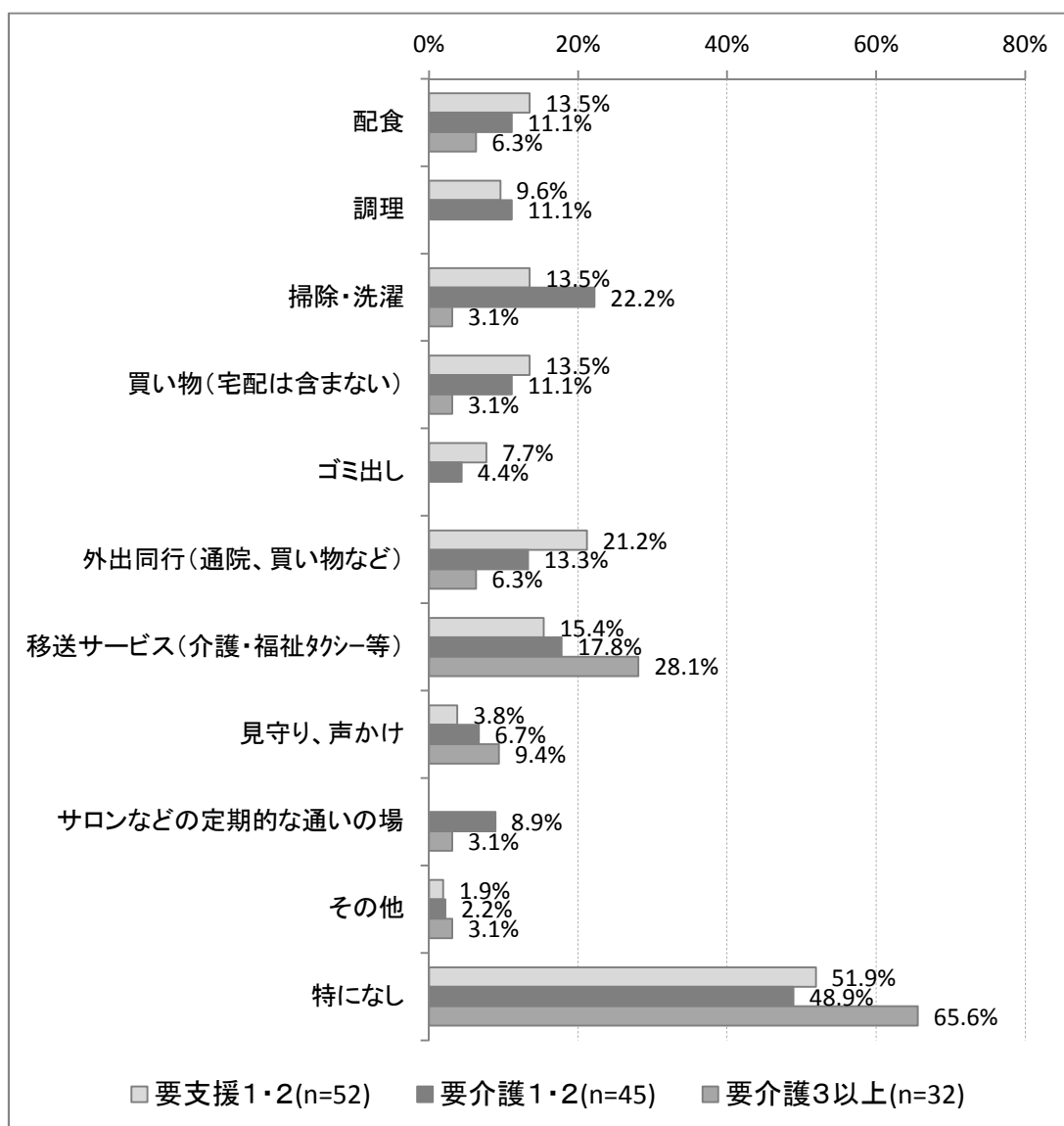
各介護度共通して「特になし」が最も多いが、「移送サービス」、「外出同行」が約 20%であった。

図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



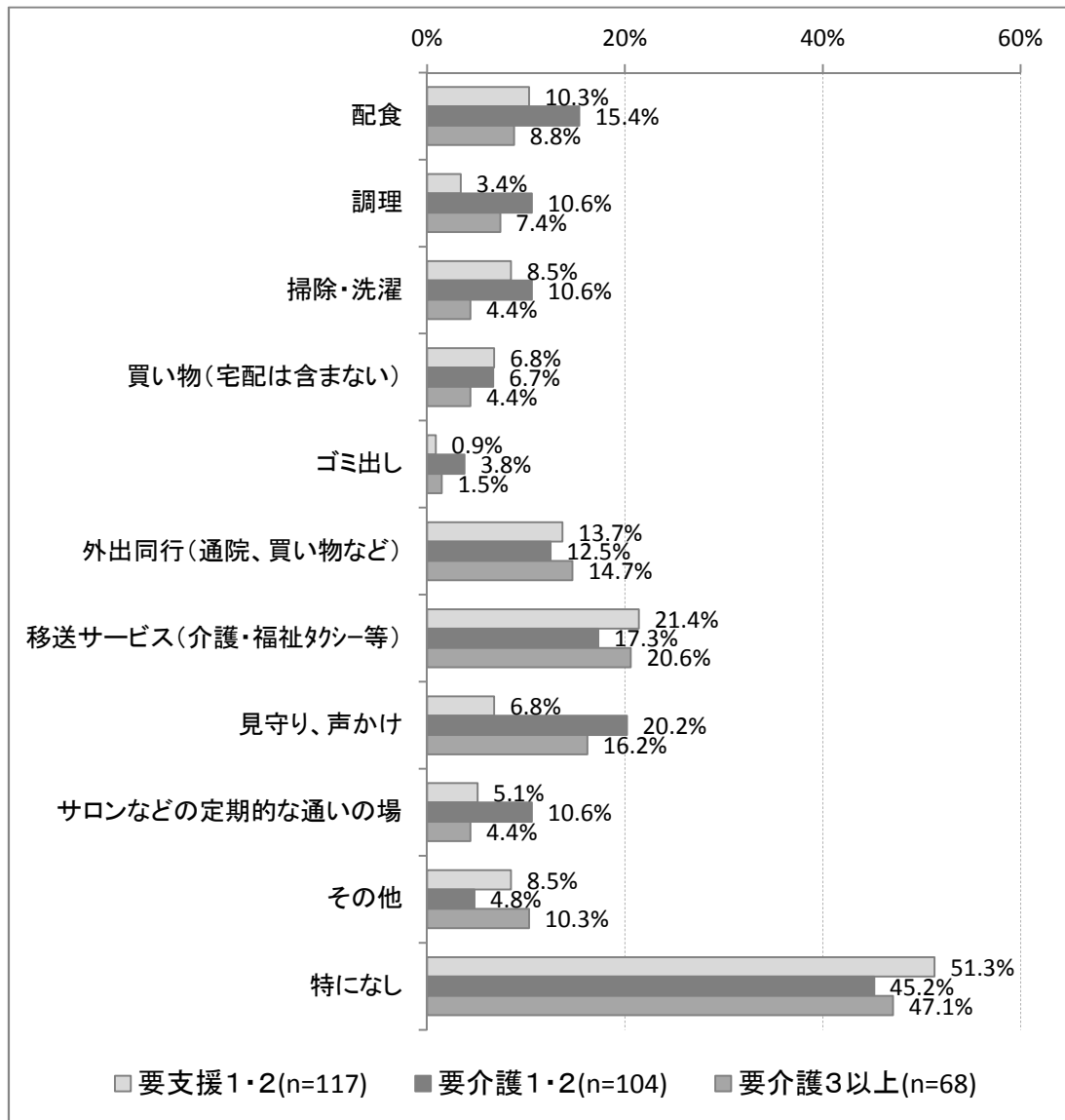
介護度の重度化に伴い必要と感じるサービス項目が増えている。

図表 3-11 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



各介護度共通して「利用していない」が最も多いが、「要介護3以上」で「移送サービス」が28.1%であった。

図表 3-12 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



各介護度共通して「利用していない」が最も多く、「要支援1」で「移送サービス」が21.4%、「要介護1・2」で「見守り、声かけ」が20.2%、「要介護3以上」で「移送サービス」が20.6%であった。

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

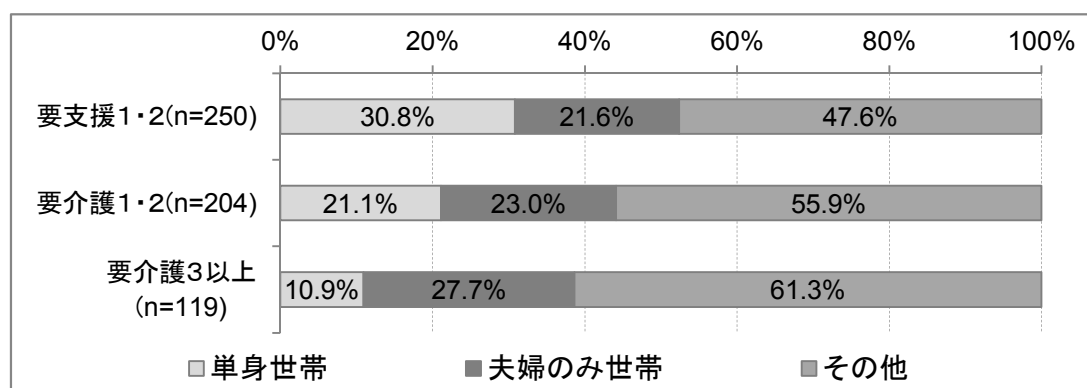
- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

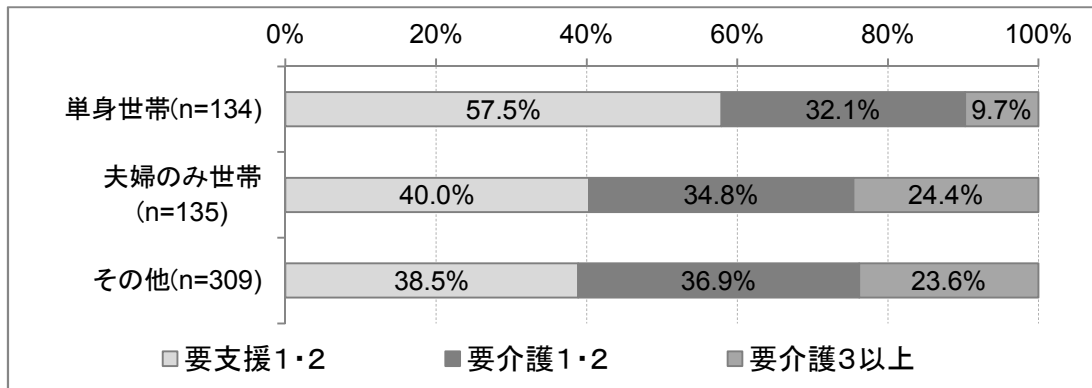
- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

図表 4-1 要介護度別・世帯類型



「その他世帯」が介護度の重度化に伴い多くなっており、「要介護3以上」で61.3%であった。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度



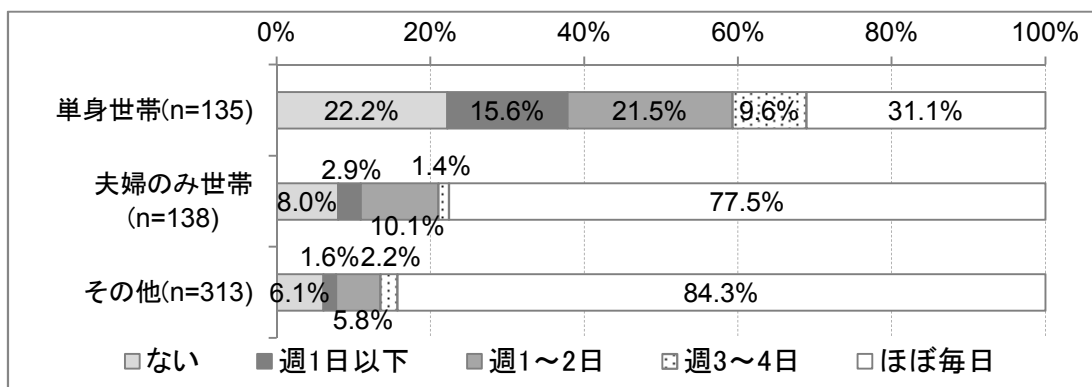
「単身世帯」で「要支援1・2」が57.5%であった。

(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

【着目すべきポイント】

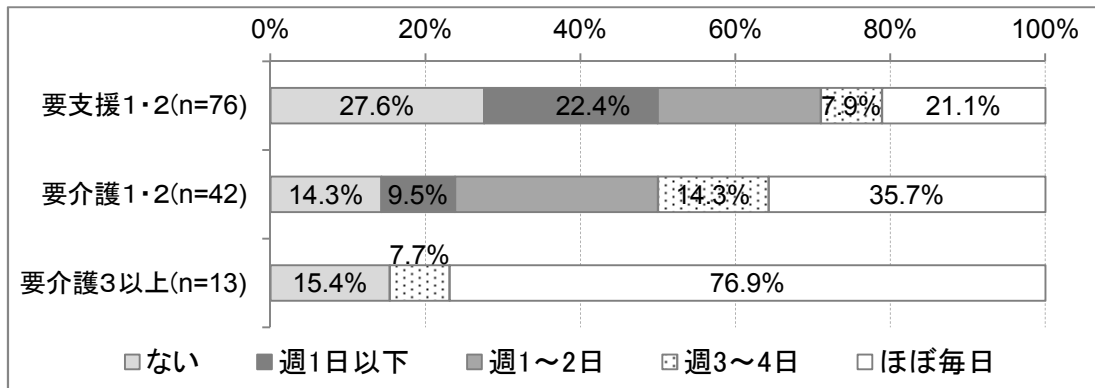
- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



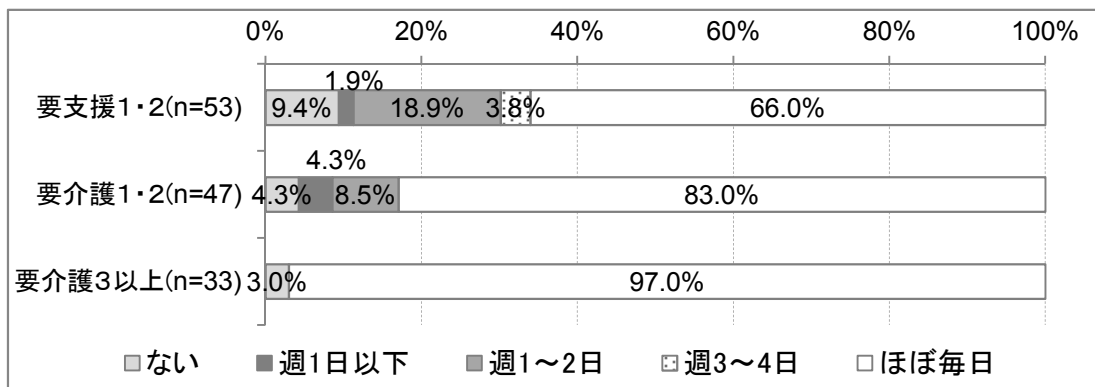
「ほぼ毎日」が「夫婦のみ世帯」で77.5%、「その他」で84.3%であった。

図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



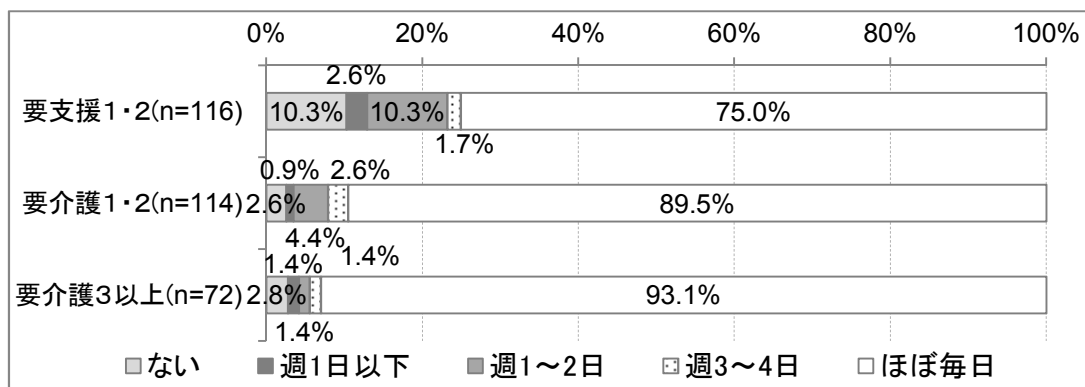
「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が76.9%と他の介護度より割合が多い。

図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



介護度の重度化に伴い、介護の頻度が多くなり、「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が97.0%であった。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



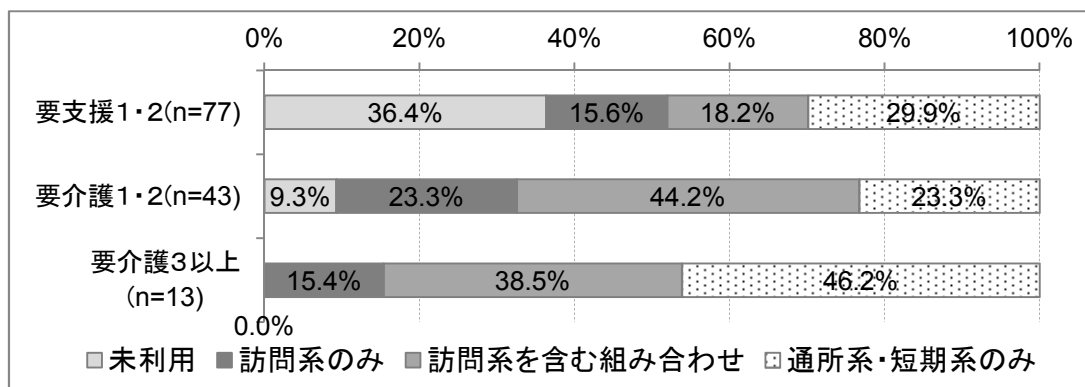
介護度の重度化に伴い、介護の頻度が多くなり、「要介護3以上」では「ほぼ毎日」が93.1%であった。

(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

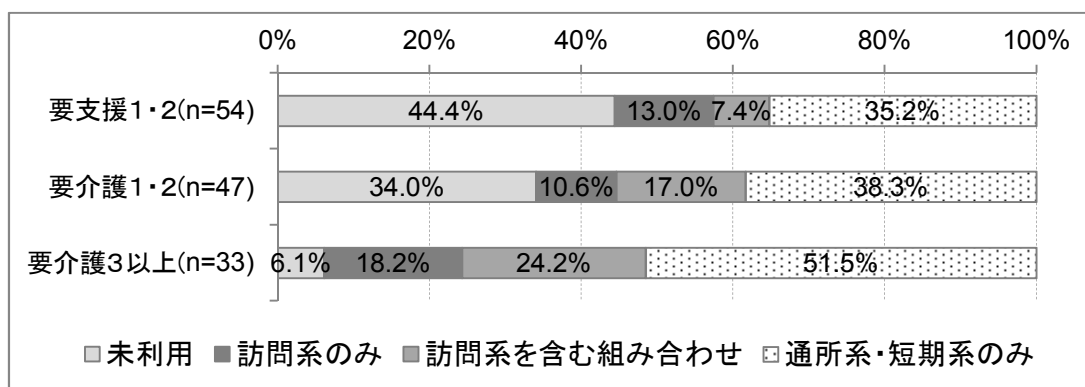
- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



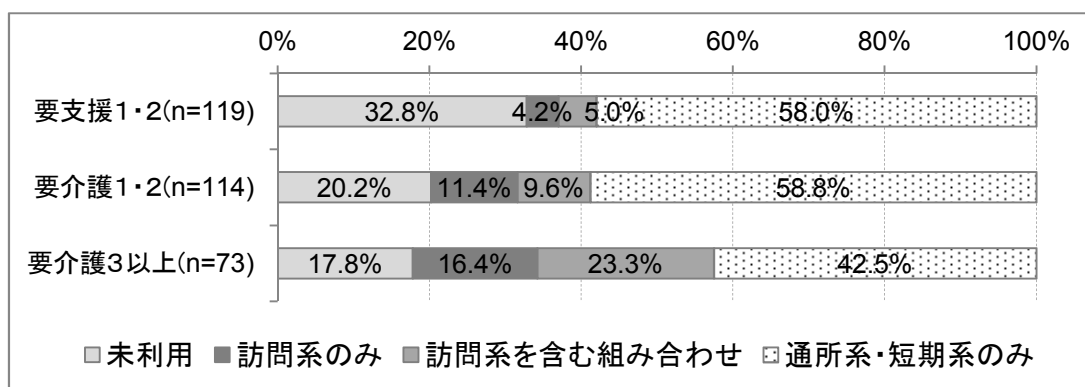
「要支援1・2」では未利用が36.4%であったが、「要介護3以上」では未利用が0となり、「訪問系のみ」が15.4%、「訪問系を含む組み合わせ」が38.5%、「通所系・短期系のみ」が46.2%であった。

図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



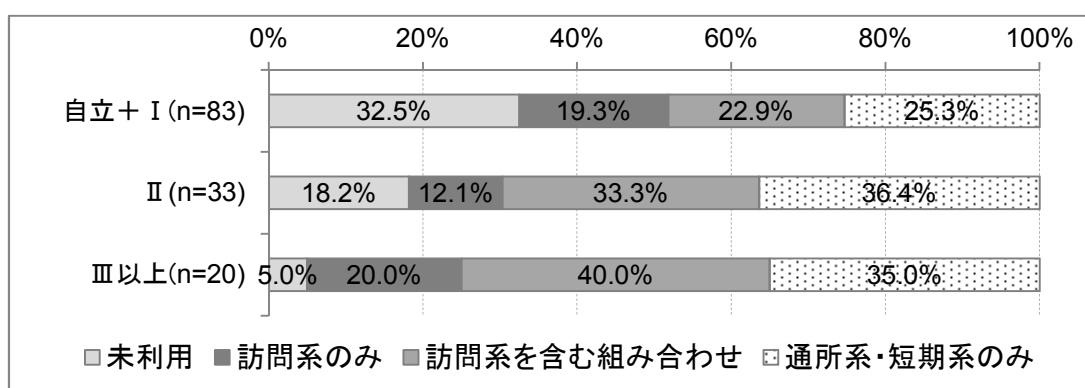
「要支援1・2」では未利用が44.4%であったが、「要介護3以上」では未利用が6.1%となり、「訪問系のみ」が18.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が24.2%、「通所系・短期系のみ」が51.5%であった。

図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



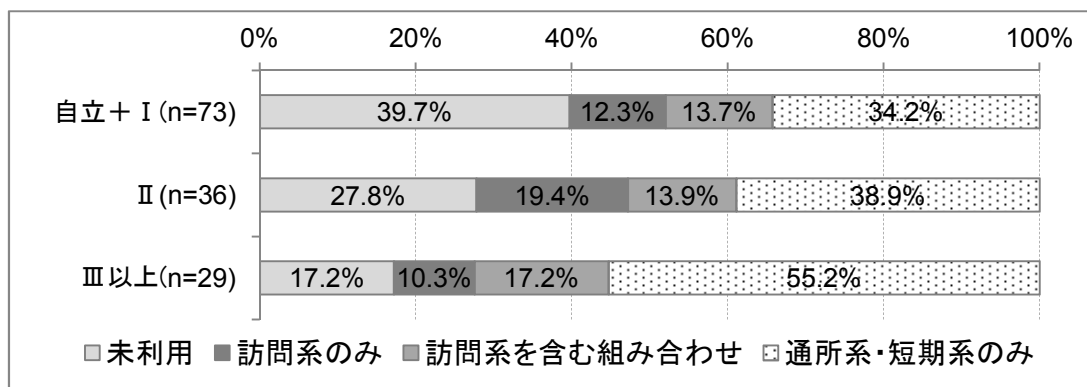
各介護度に共通して「通所系・短期系のみ」が最も多く、「要支援1・2」で58.0%、「要介護1・2」で58.8%、「要介護3以上」で42.5%であった。

図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



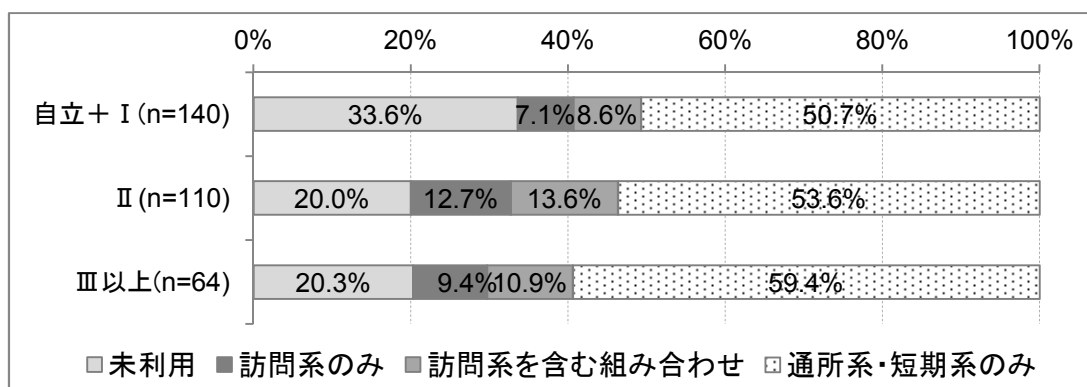
自立度の重度化に伴い「訪問系を含む組み合わせ」が多くなり、「III以上」では40.0%であった。

図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



自立度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」が多くなり、「Ⅲ以上」では55.2%であった。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



自立度の重度化に伴い「通所系・短期系のみ」が多くなり、「Ⅲ以上」では59.4%であった。

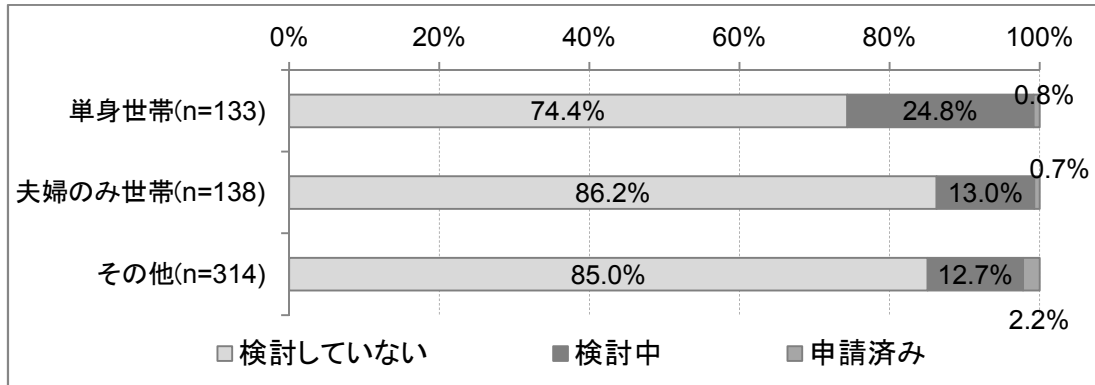
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。

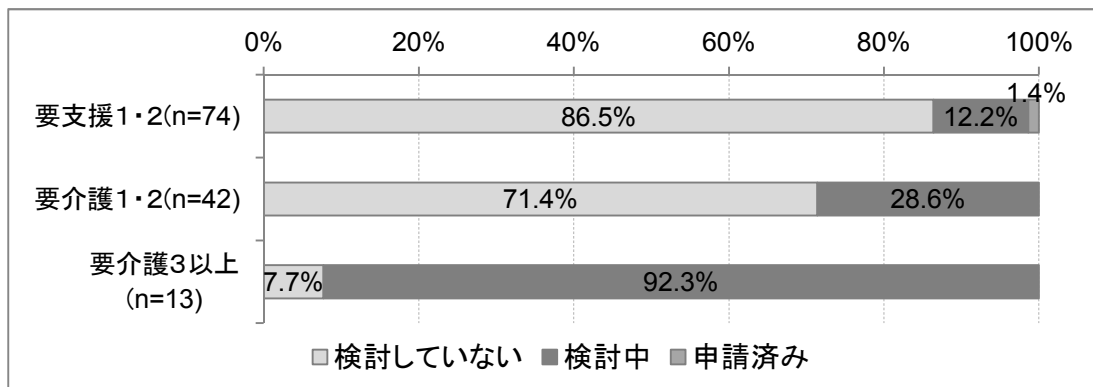
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることを想定しています。

図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



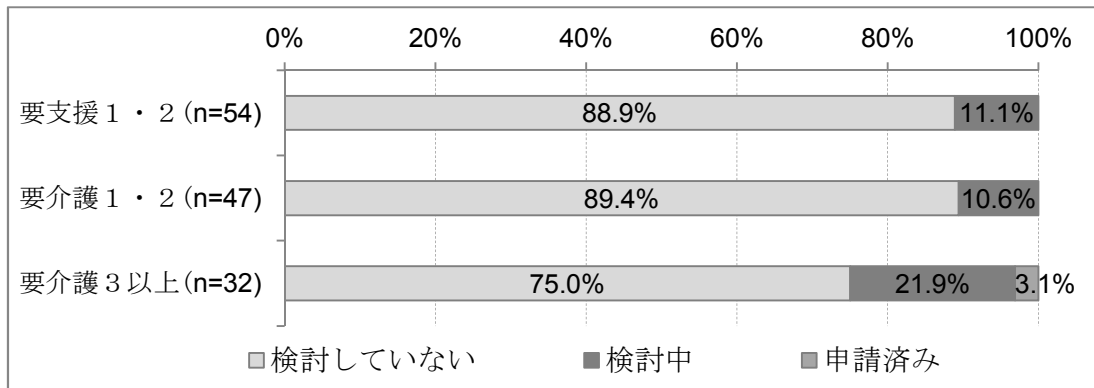
各世帯共通して「検討していない」が最も多い。

図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



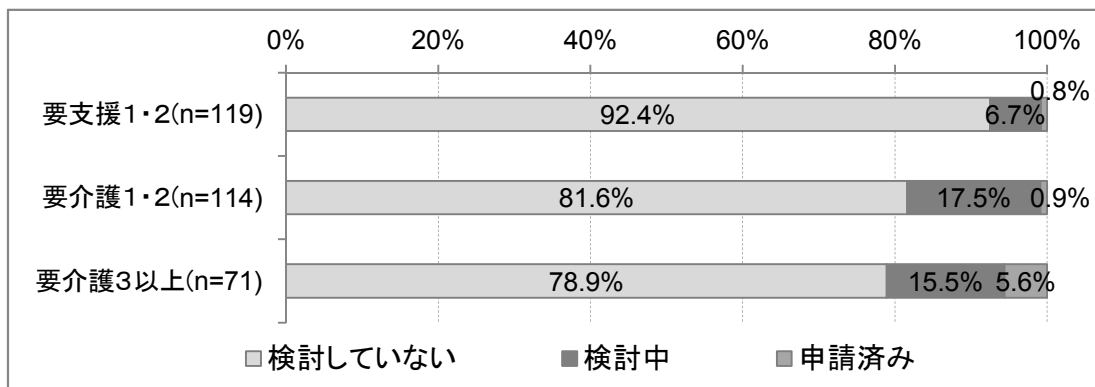
「要支援1・2」、「要介護1・2」で「検討していない」が多いが、「要介護3以上」では「検討中」が92.3%と大きく増えている。

図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



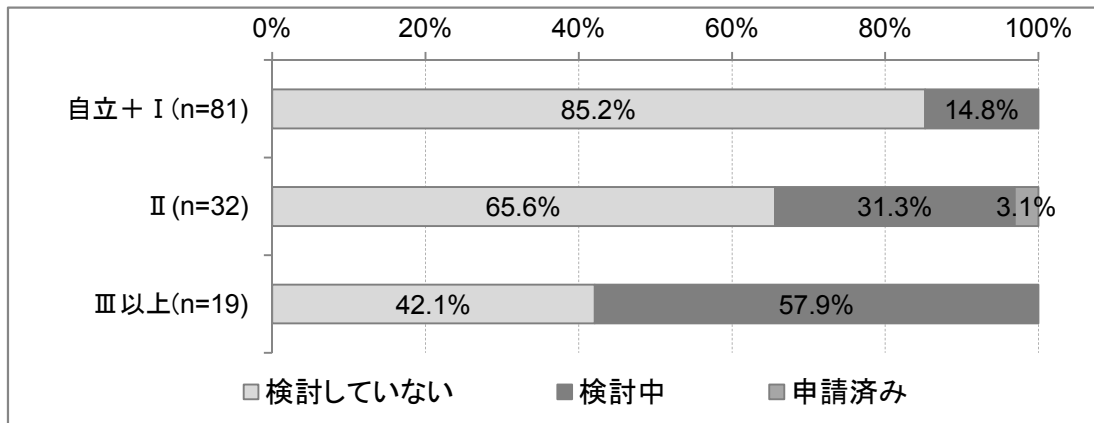
各介護度共通して「検討していない」が最も多い。

図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



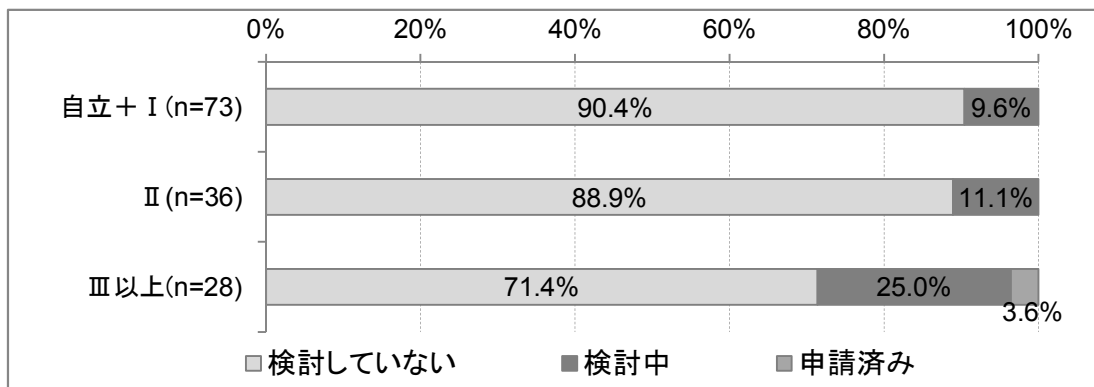
各介護度共通して「検討していない」が最も多い。

図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



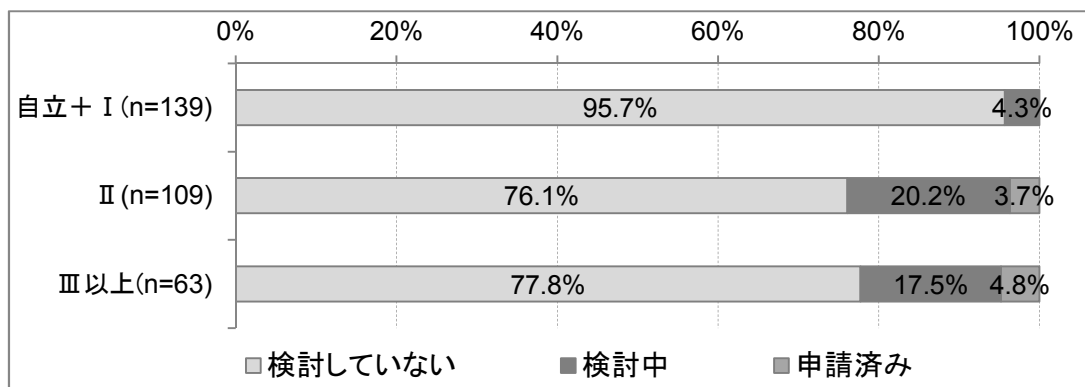
自立度の重度化に伴い「検討中」が多くなり、「Ⅲ以上」では57.9%となっている。

図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



各介護度共通して「検討していない」が最も多いが、「Ⅲ以上」では「検討中」が25.0%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



各介護度共通して「検討していない」が最も多いが、「検討中」が「II」では20.2%、「III以上」では17.5%となっている。

5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

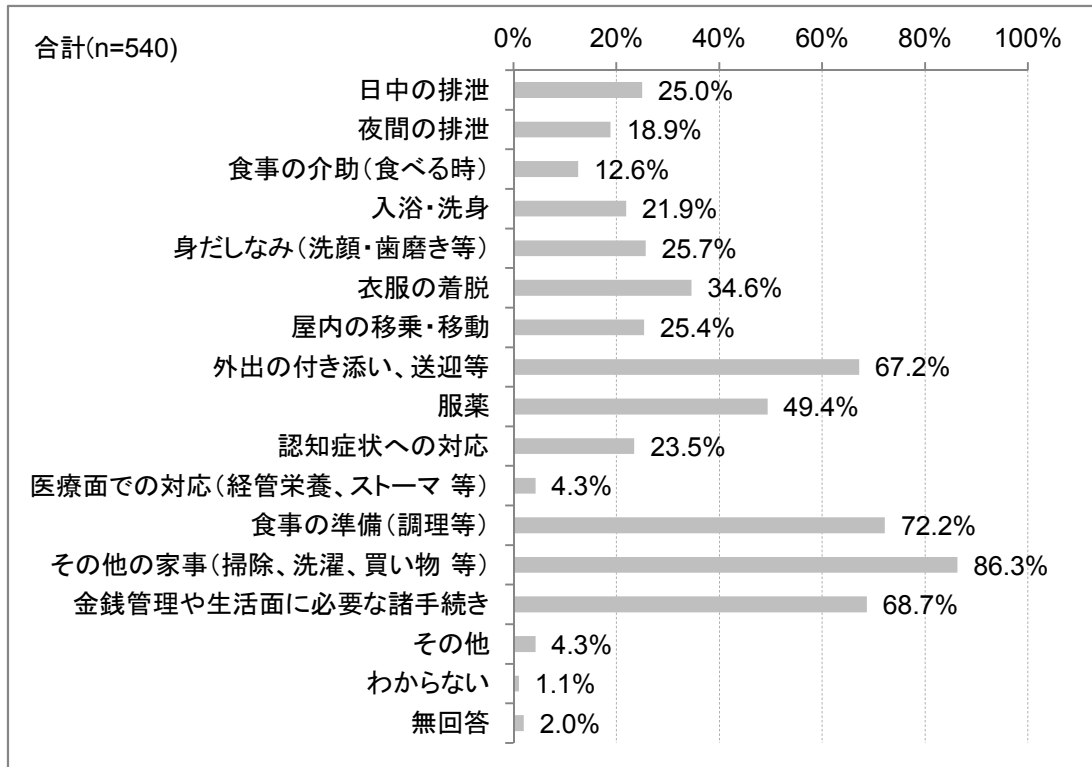
- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

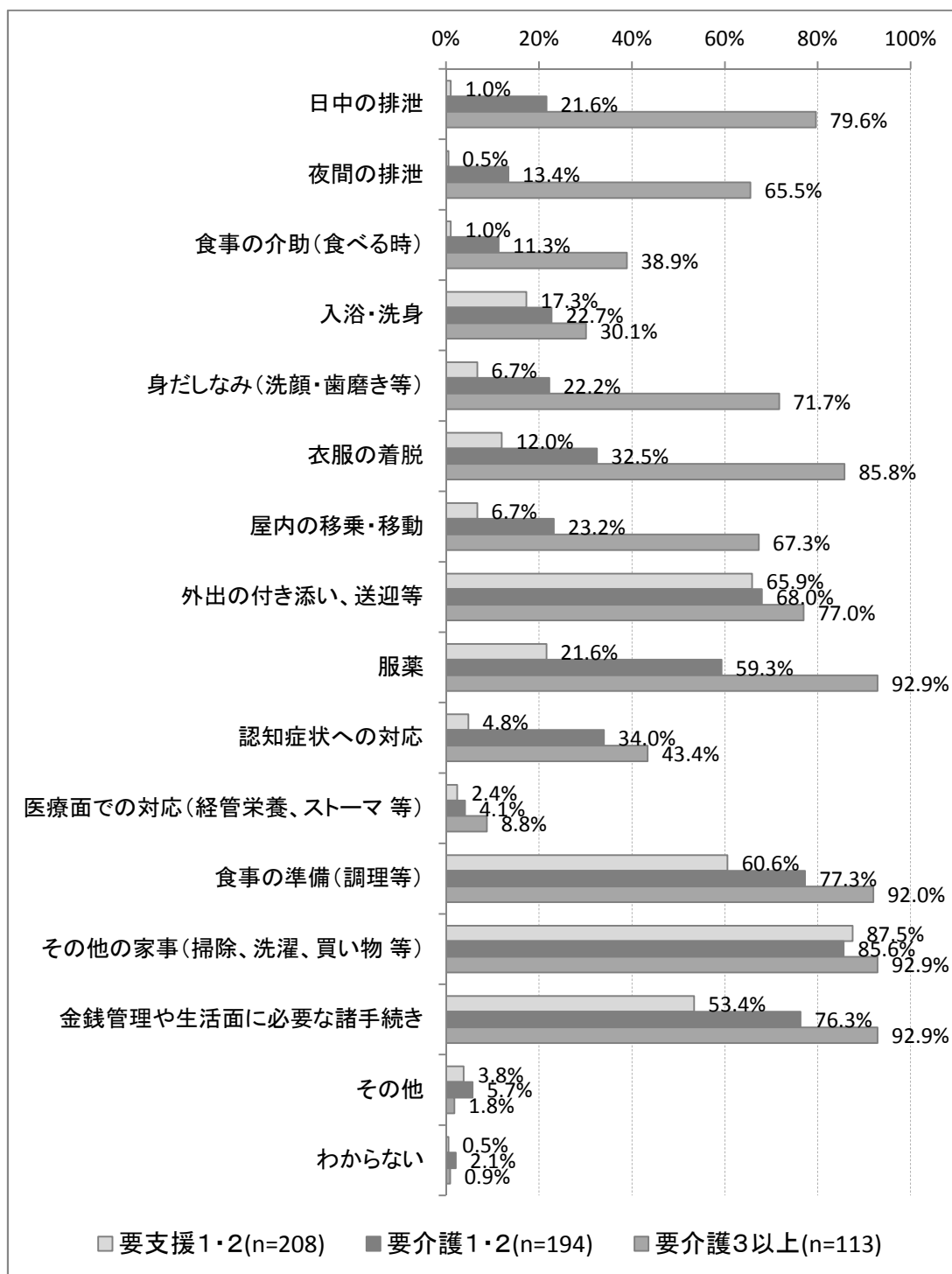
- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行います（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

図表 5-1 主な介護者が行っている介護



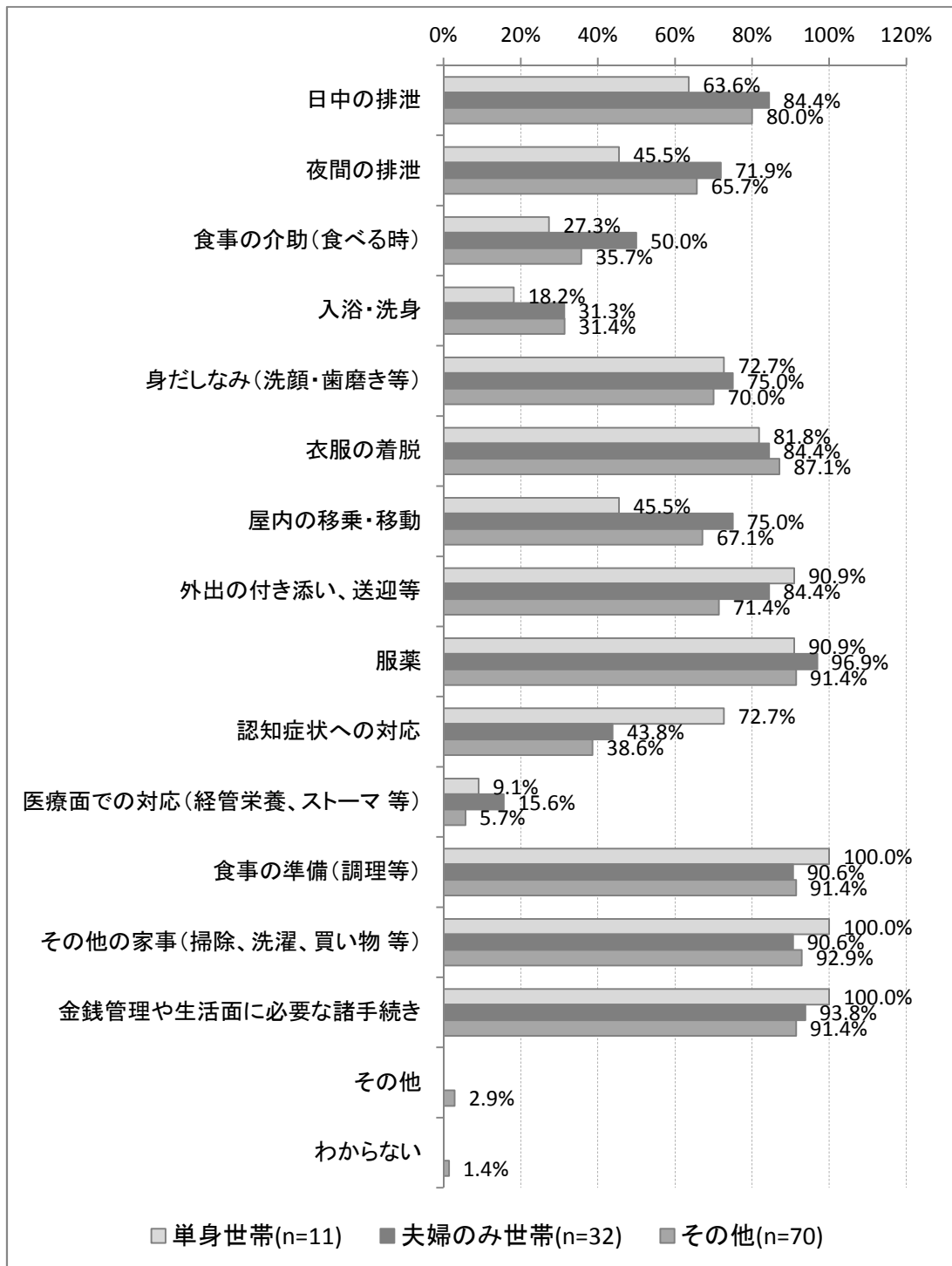
「その他の家事」が 86.3%で最も多く、「食事の準備」が 72.2%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 68.7%、「外出の付き添い、送迎等」が 67.2%となっている。

図表 5-2 要介護度別・主な介護者が行っている介護



介護度の重度化に伴い行われている介護の項目が増えている。

図表 5-3 世帯類型別・主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



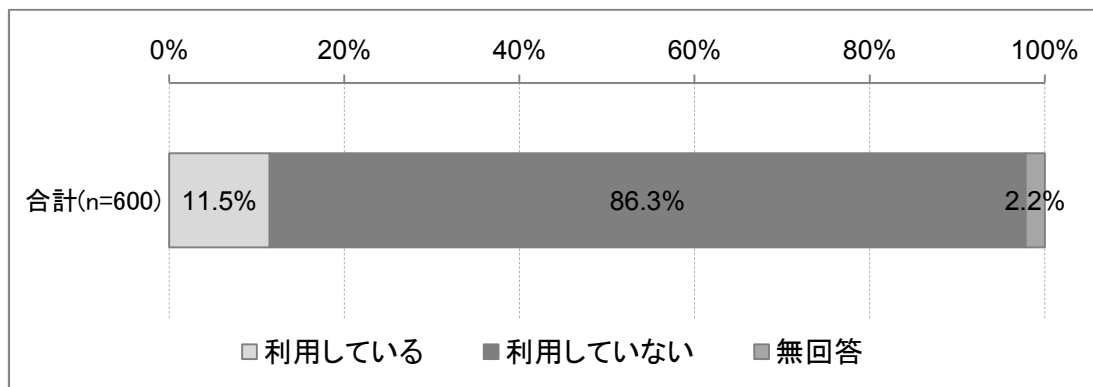
世帯に共通して「服薬」、「食事の準備」、「その他の家事」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が90%以上となっている。

(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

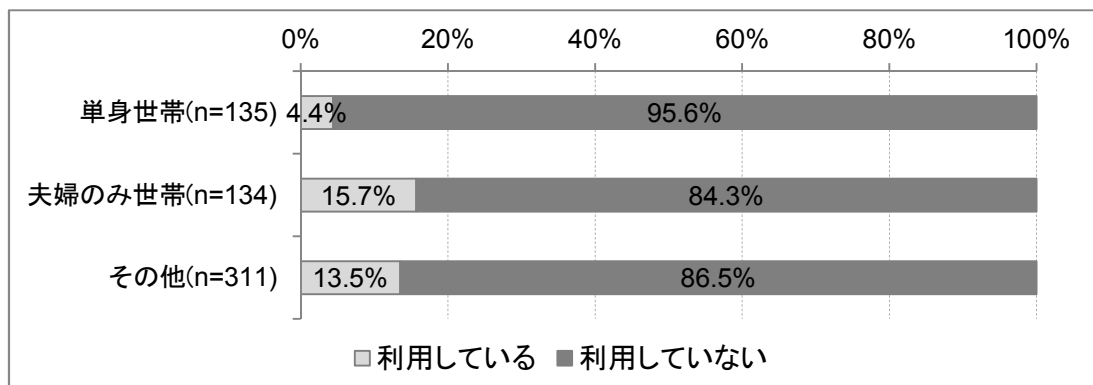
- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乗じることで、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

図表 5-4 訪問診療の利用の有無



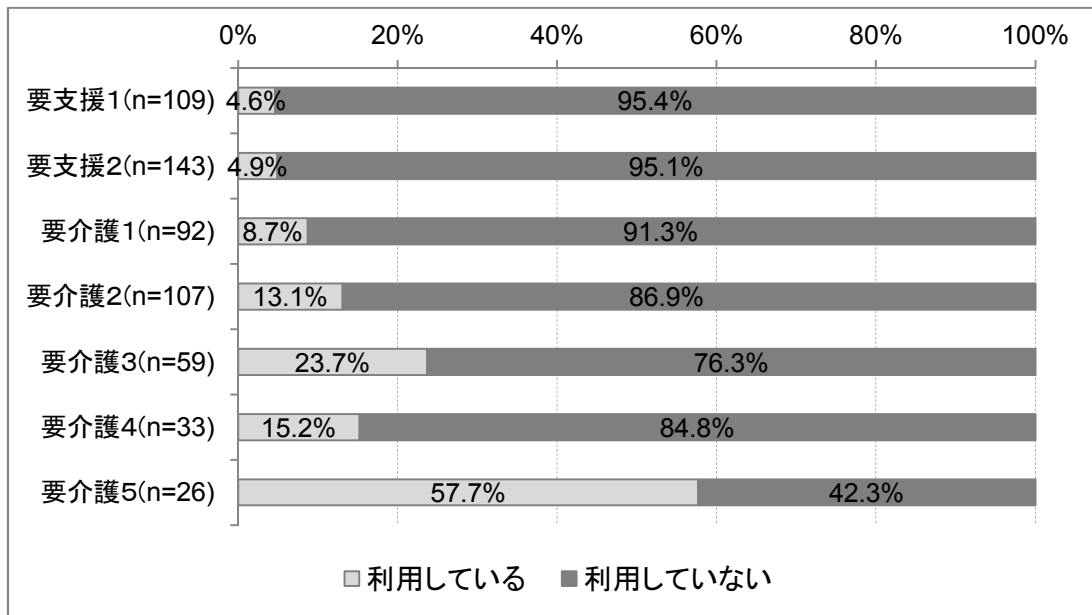
「利用していない」が 86.3%と最も多い。

図表 5-5 世帯類型別・訪問診療の利用割合



世帯に共通して「利用していない」が最も多い。

図表 5-6 要介護度別・訪問診療の利用割合



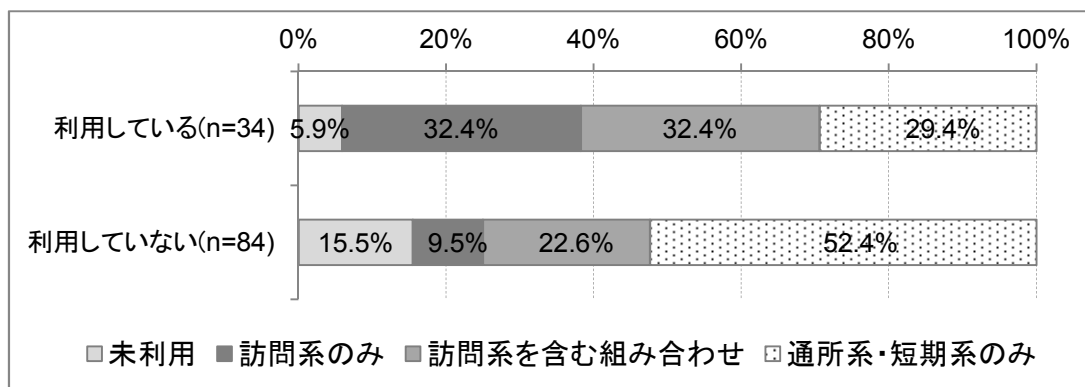
「要支援1」から「要介護4」までは利用していないが最も多いが、「要介護5」では「利用している」が57.7%となっている。

(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

図表 5-7 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



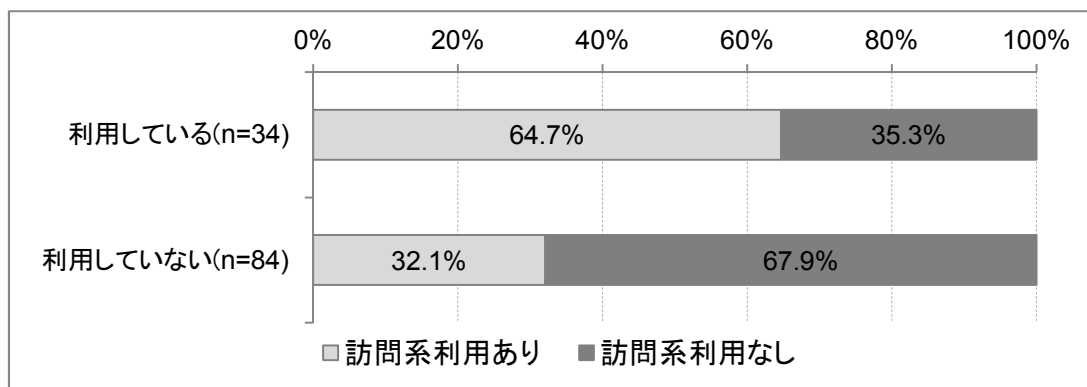
「利用している」では「訪問系」・「訪問系を含む組み合わせ」が32.4%と最も多いが、「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が52.4%と最も多い。

(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

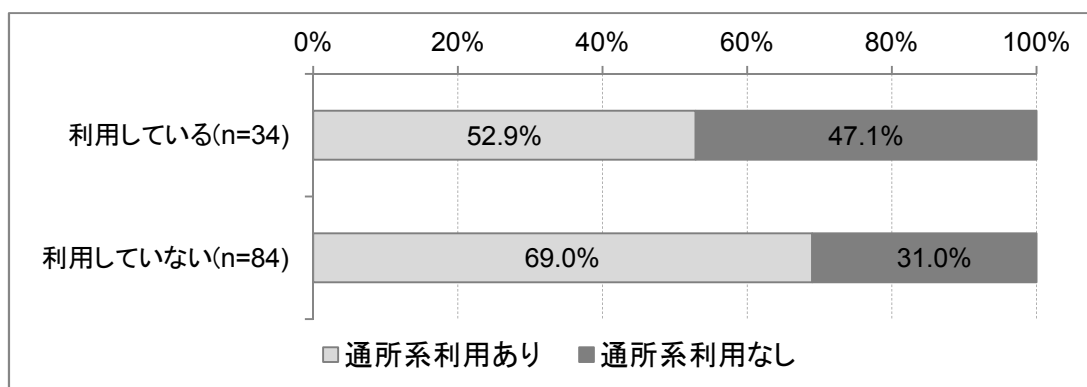
- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表5-8～図表5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

図表 5-8 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



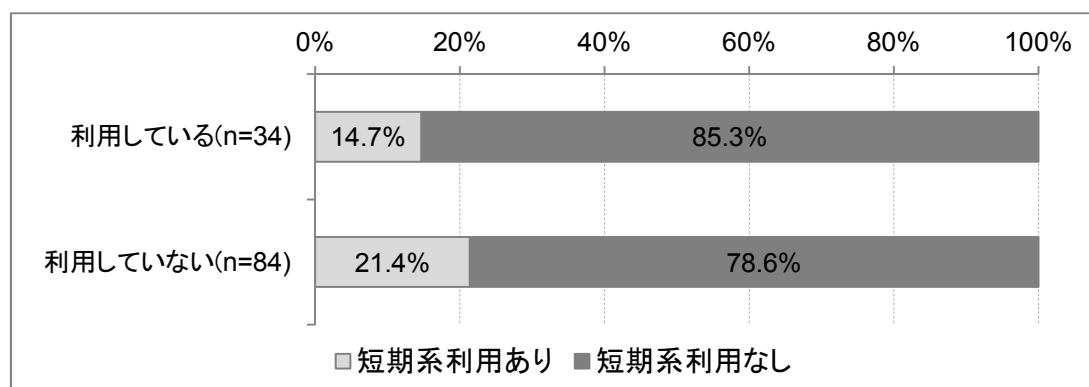
「利用している」では「訪問系利用あり」が64.7%となっているが、「利用していない」では「訪問系利用なし」が67.9%となっている。

図表 5-9 訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



「利用している」では「通所系利用あり」が52.9%であるが、「利用していない」では「通所系利用あり」が69.0%となっている。

図表 5-10 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



「利用している」では「短期系利用なし」が85.3%、「利用していない」では「短期系利用なし」が78.6%となっている。

6 サービス未利用の理由など

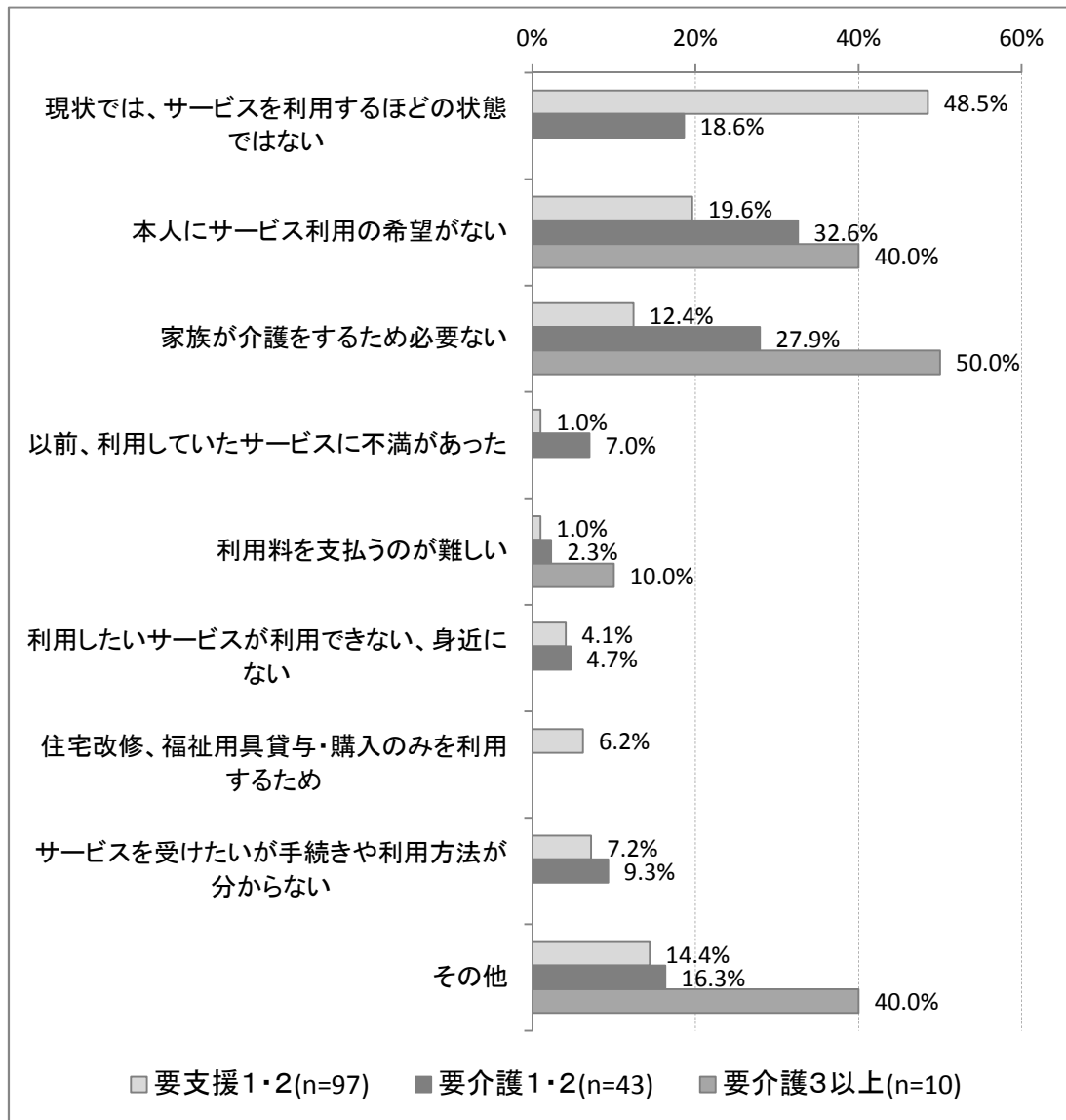
6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

6.2 集計結果（参考）

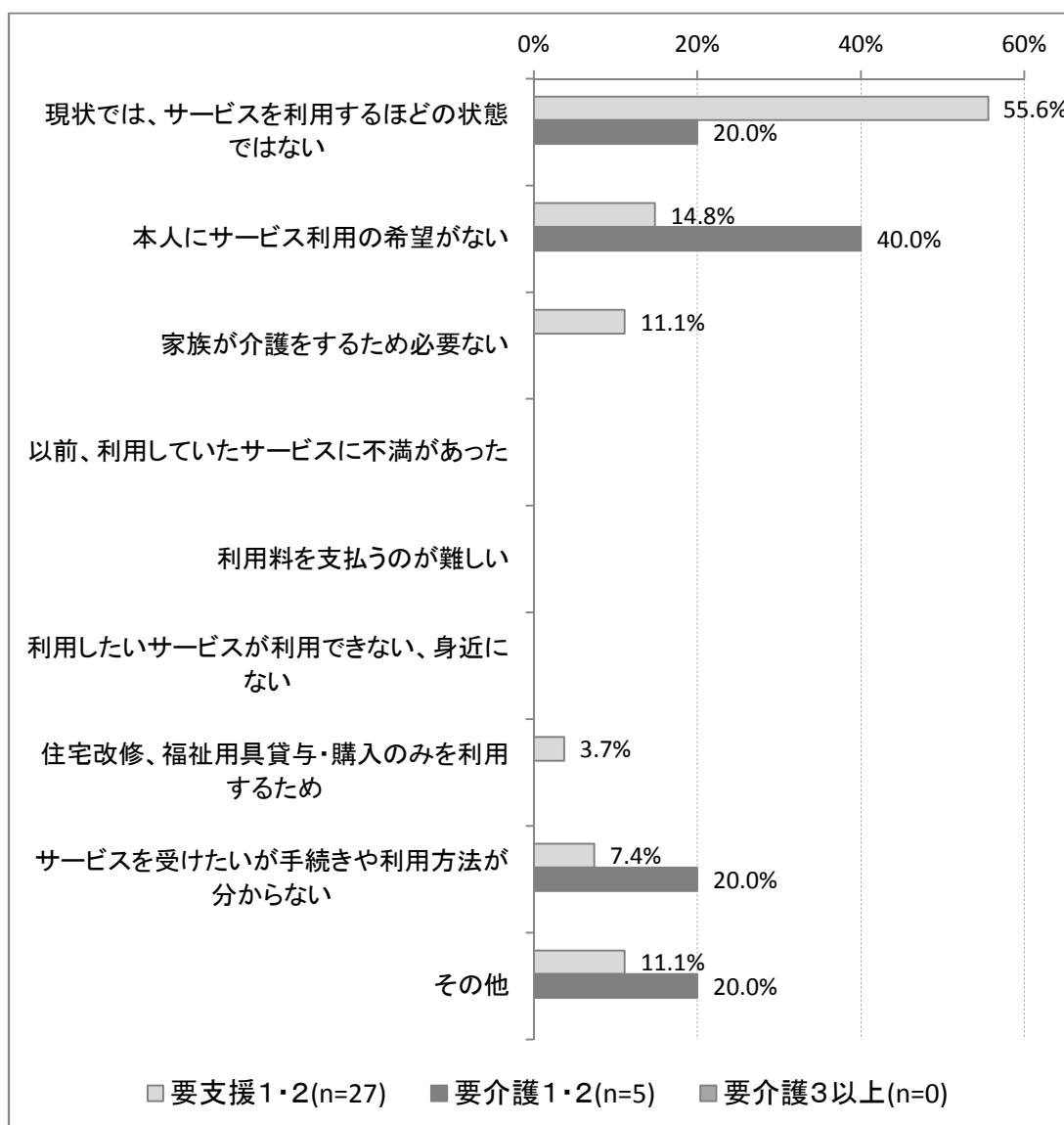
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

図表 6-1 要介護度別のサービス未利用の理由



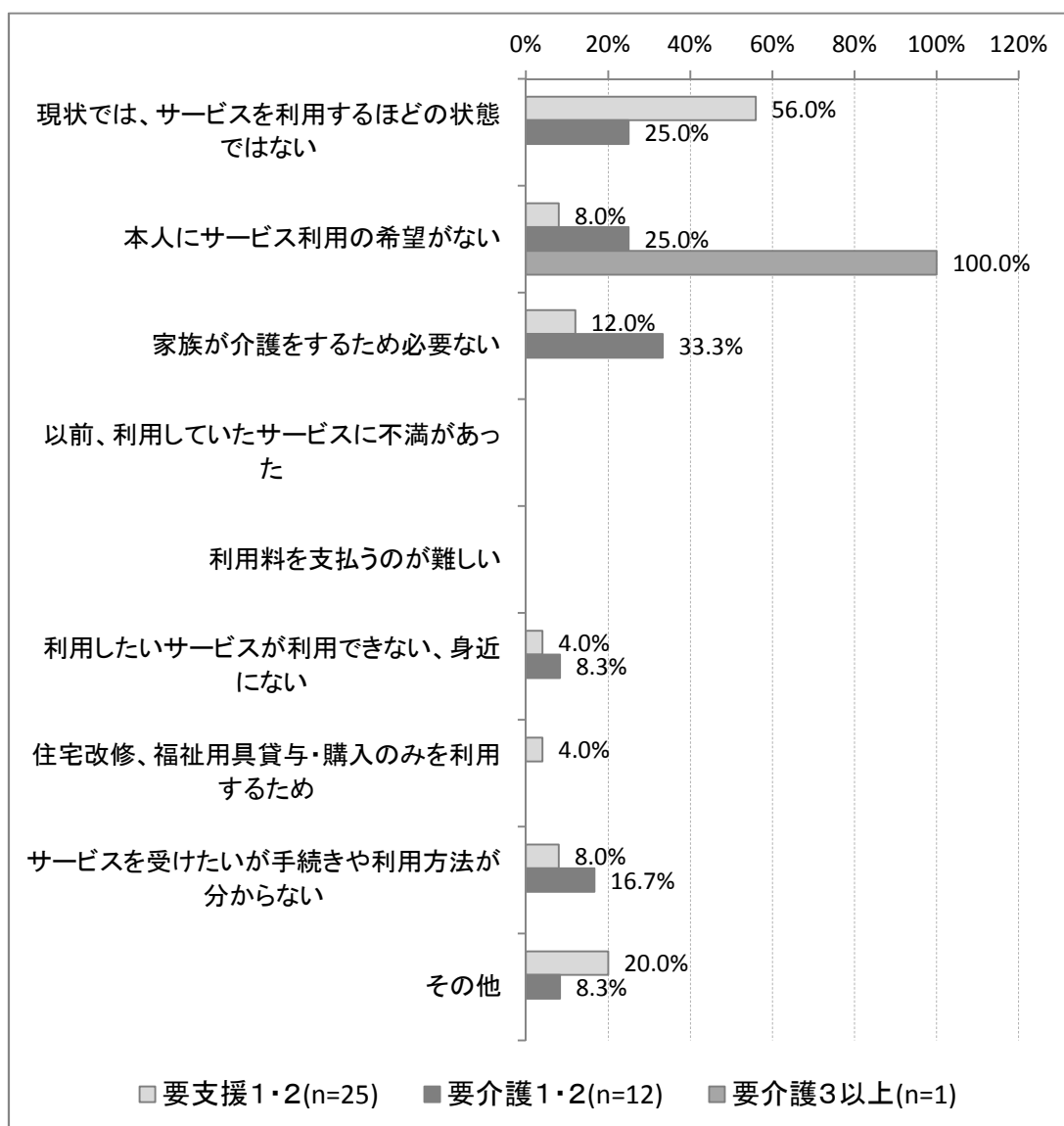
「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.5%、「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が32.6%、「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が50.0%で最も多い。

図表 6-2 要介護度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



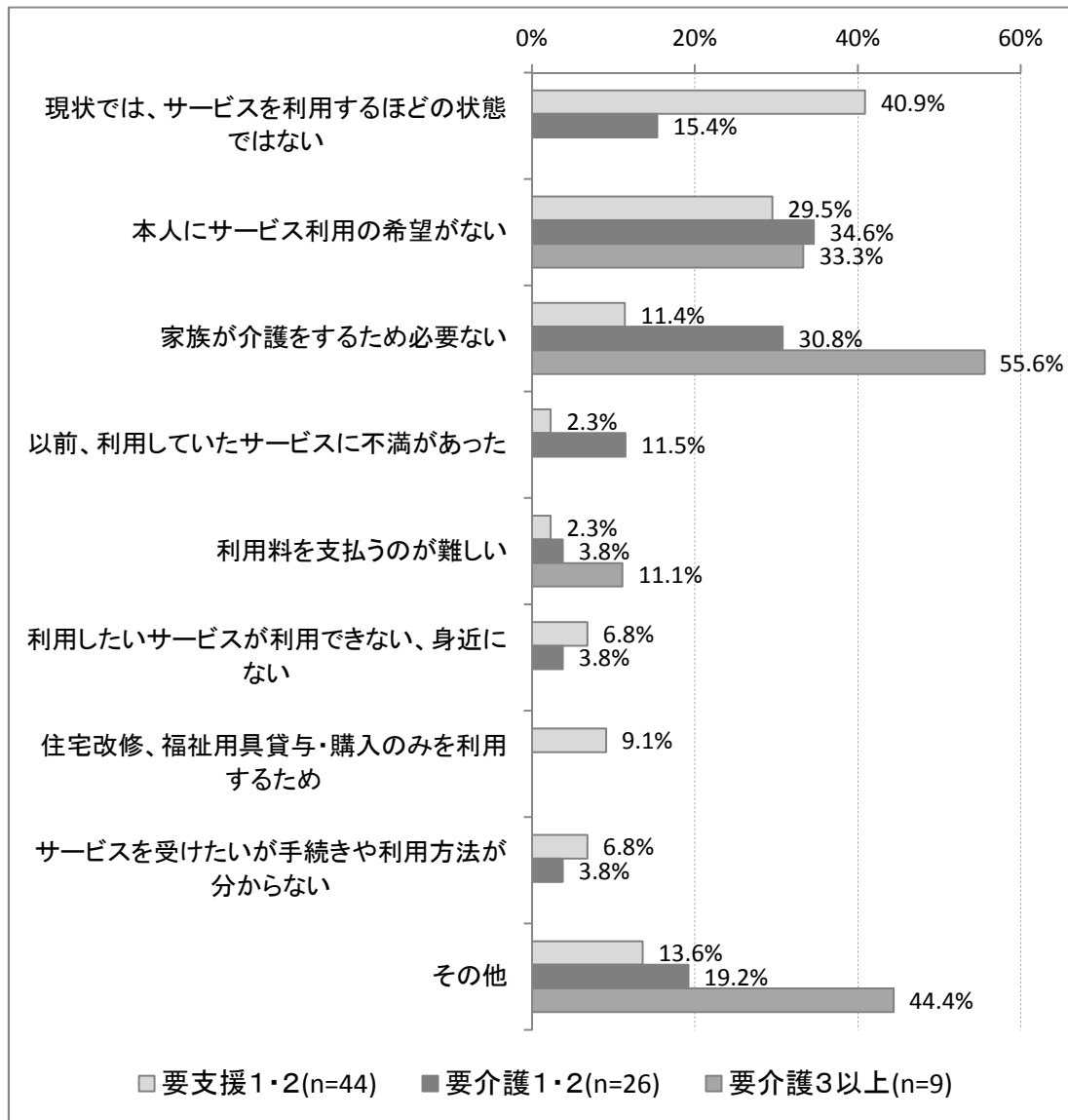
「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が55.6%、「要介護1.2」では「本人にサービス利用の希望がない」が40.0%で最も多い。また、「要介護3以上」では「サービス未利用」は0であった。

図表 6-3 要介護度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



介護度によって差はあるが、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が多い。

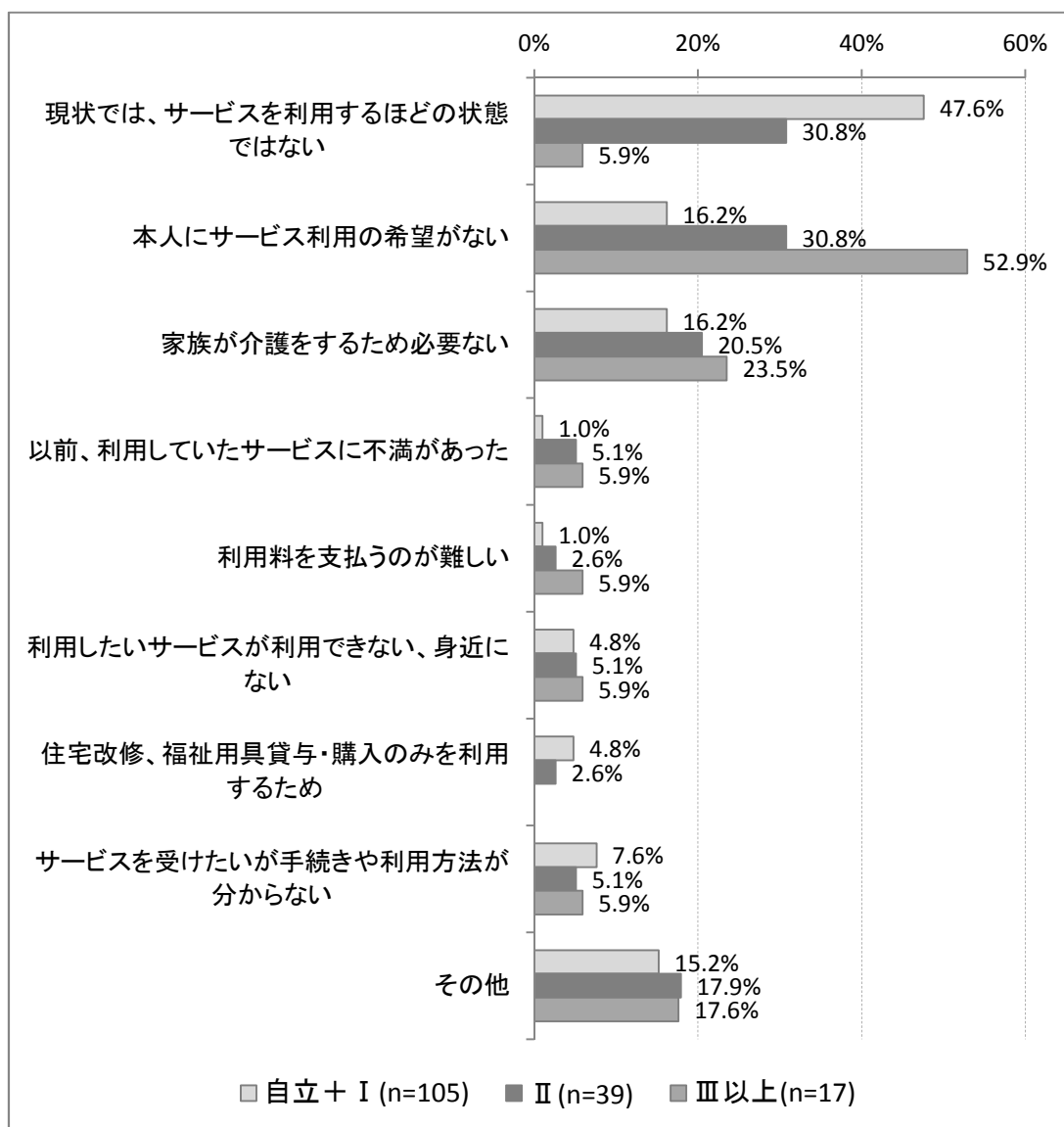
図表 6-4 要介護度別のサービス未利用の理由（その他世帯）



「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.9%、「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が34.6%、「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が55.6%で最も多い。

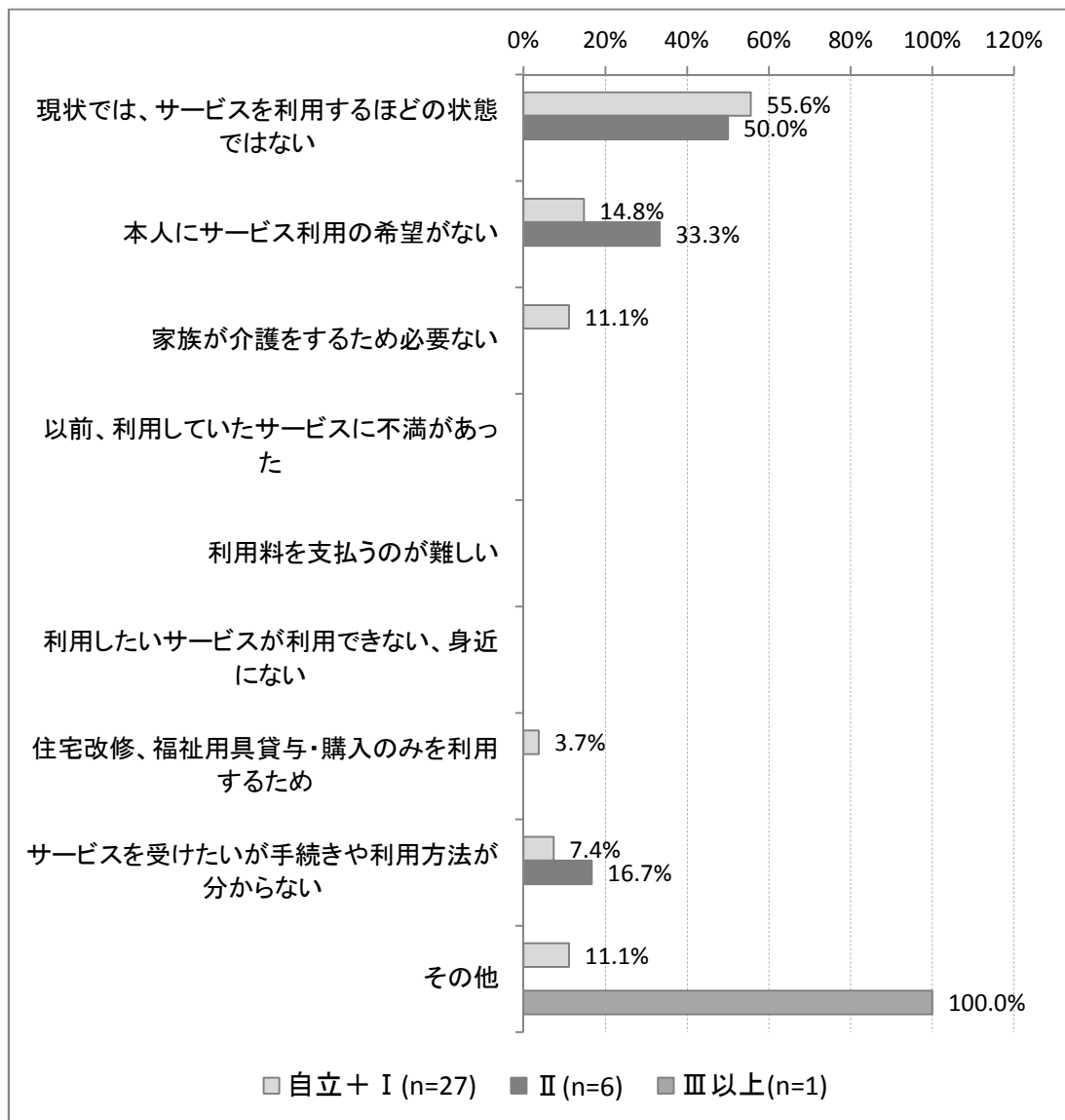
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

図表 6-5 認知症自立度別のサービス未利用の理由



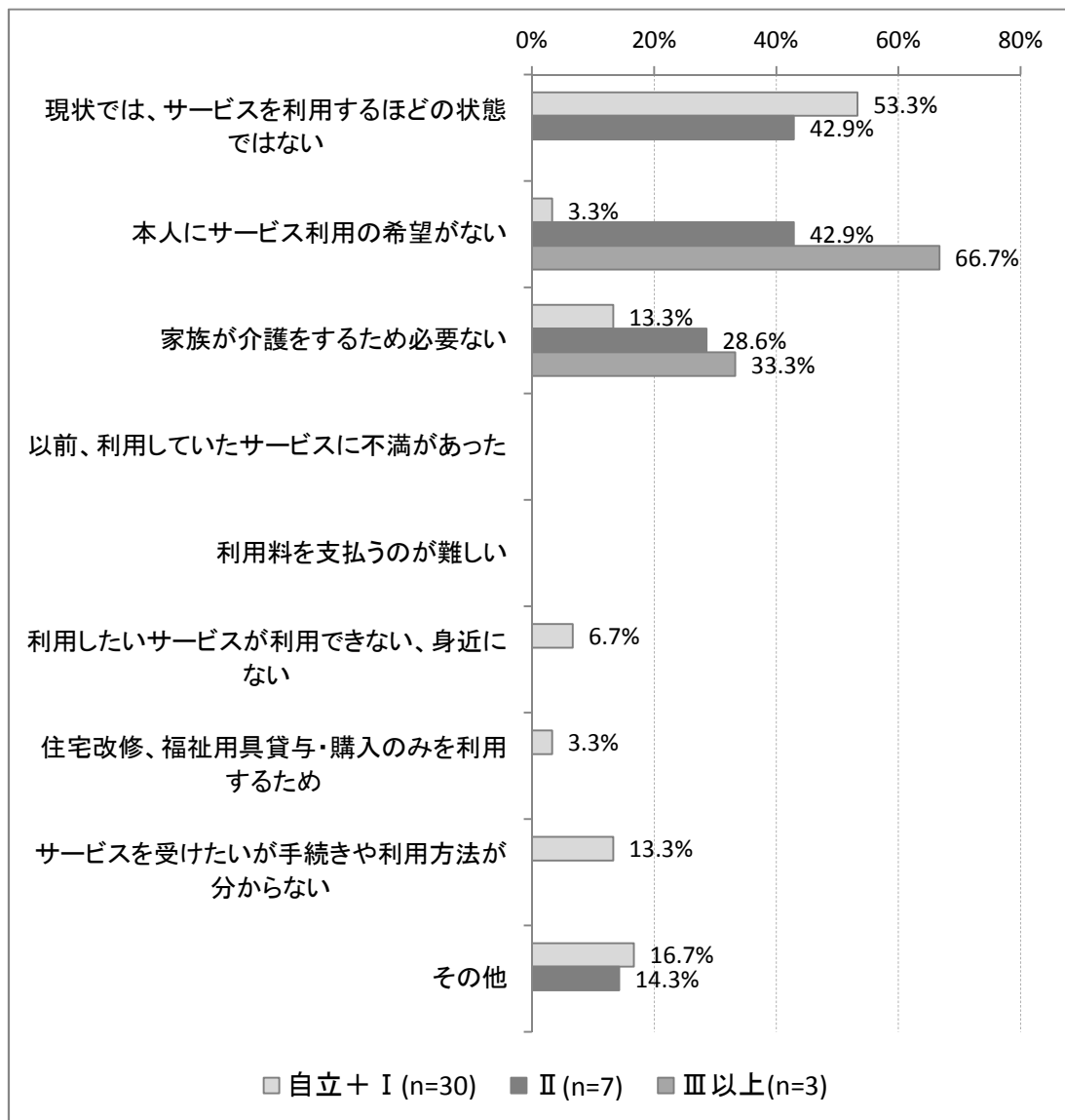
「自立+I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が47.6%、「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が30.8%、「III以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が23.5%で最も多い。

図表 6-6 認知症自立度別のサービス未利用の理由（単身世帯）



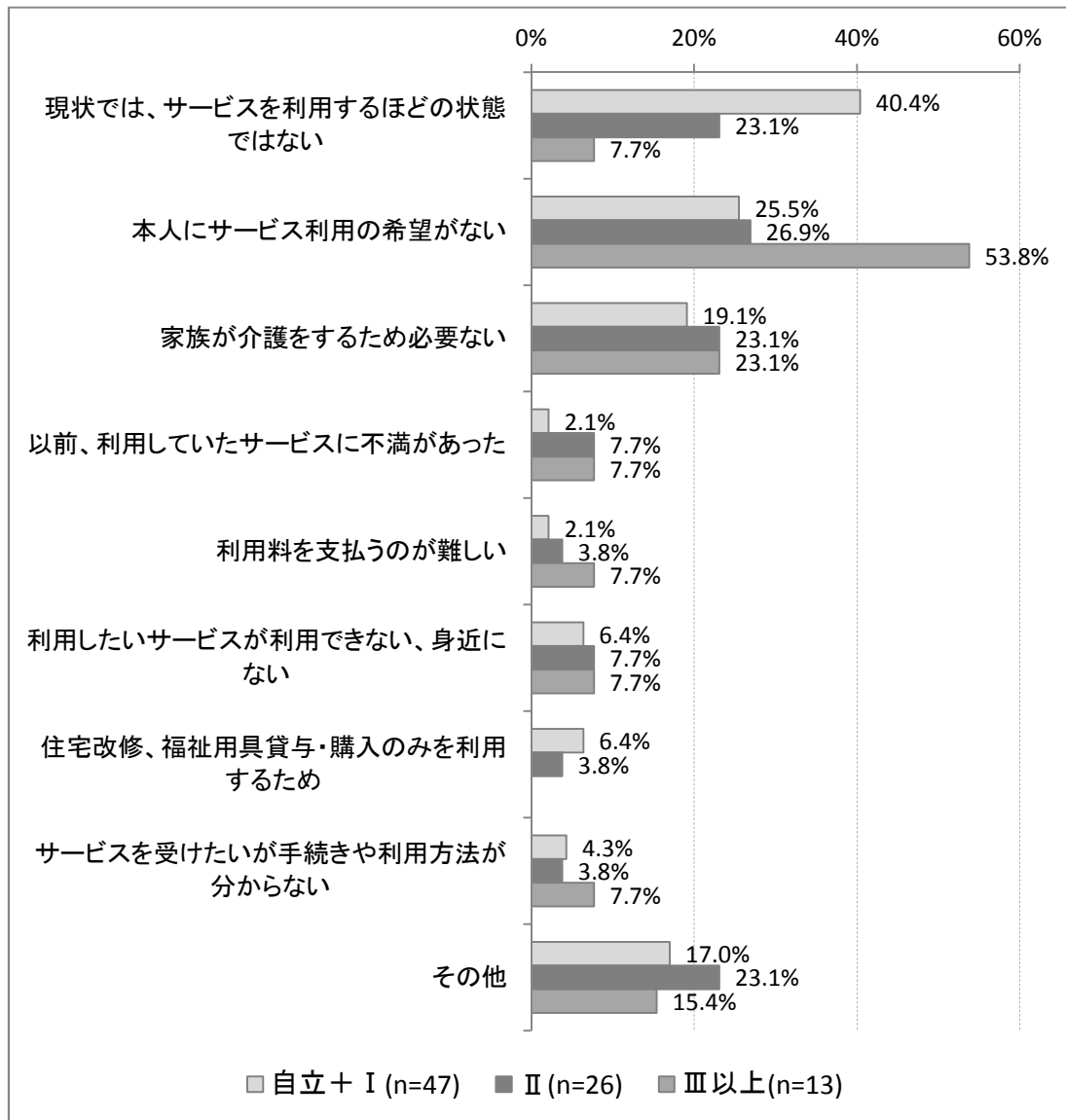
「自立+I」・「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も多い。

図表 6-7 認知症自立度別のサービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



「自立+I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が53.3%、「II」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が42.9%、「III以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%で最も多い。

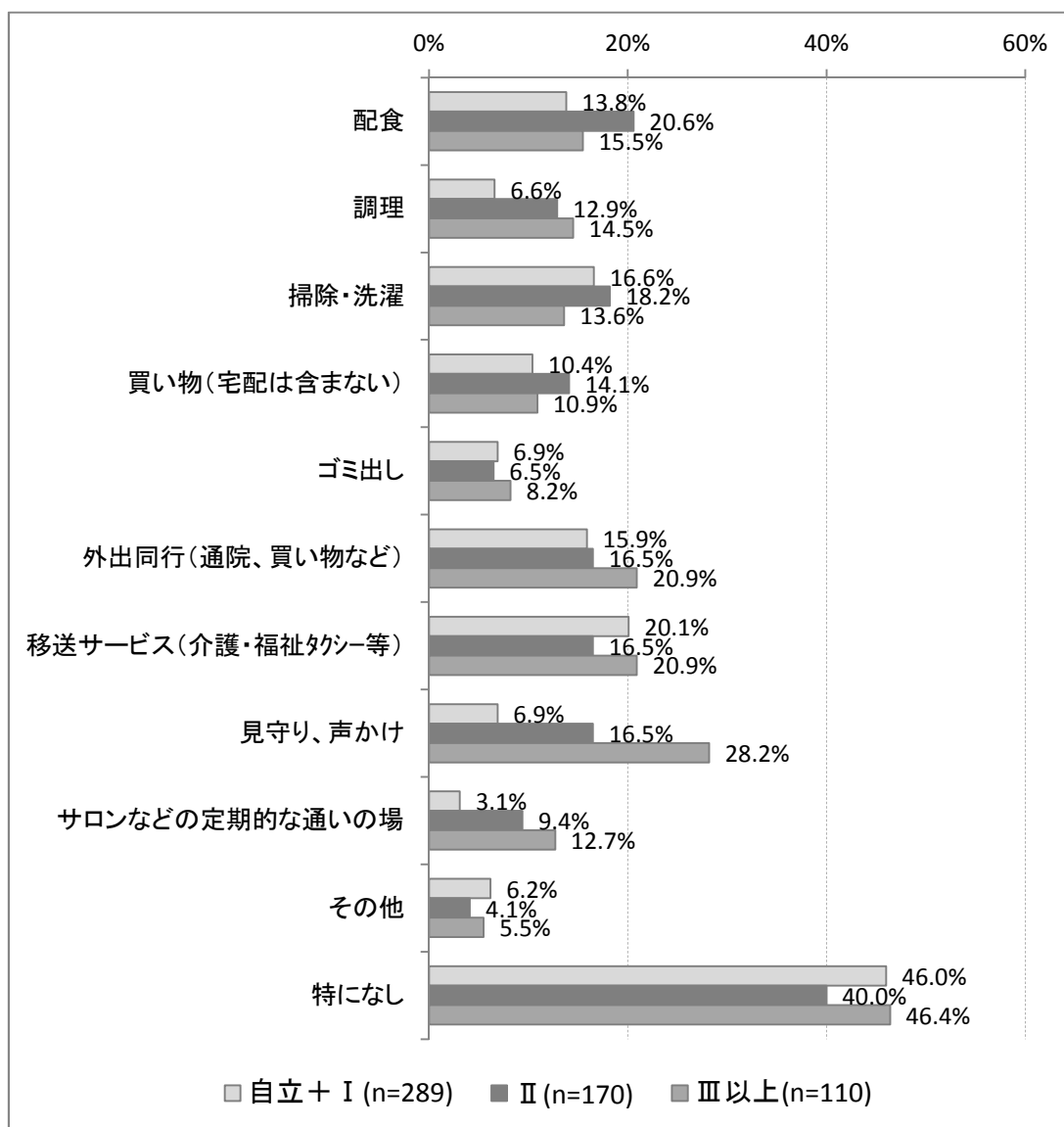
図表 6-8 認知症自立度別のサービス未利用の理由（その他世帯）



「自立+I」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%、「II」では「本人にサービス利用の希望がない」が26.9%、「III以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が53.8%で最も多い。

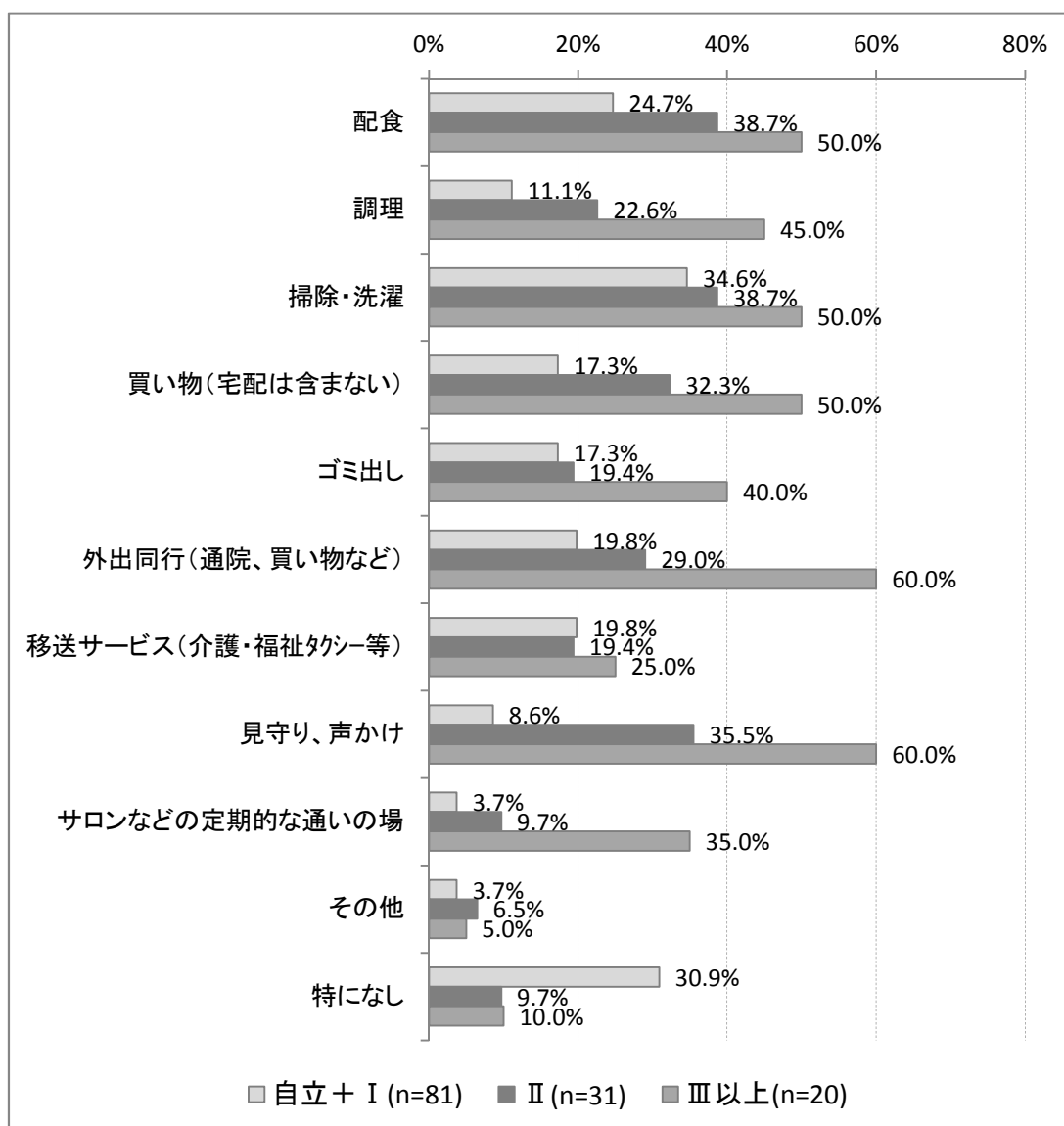
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要なと感じる支援・サービス

図表 6-9 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要なと感じる支援・サービス



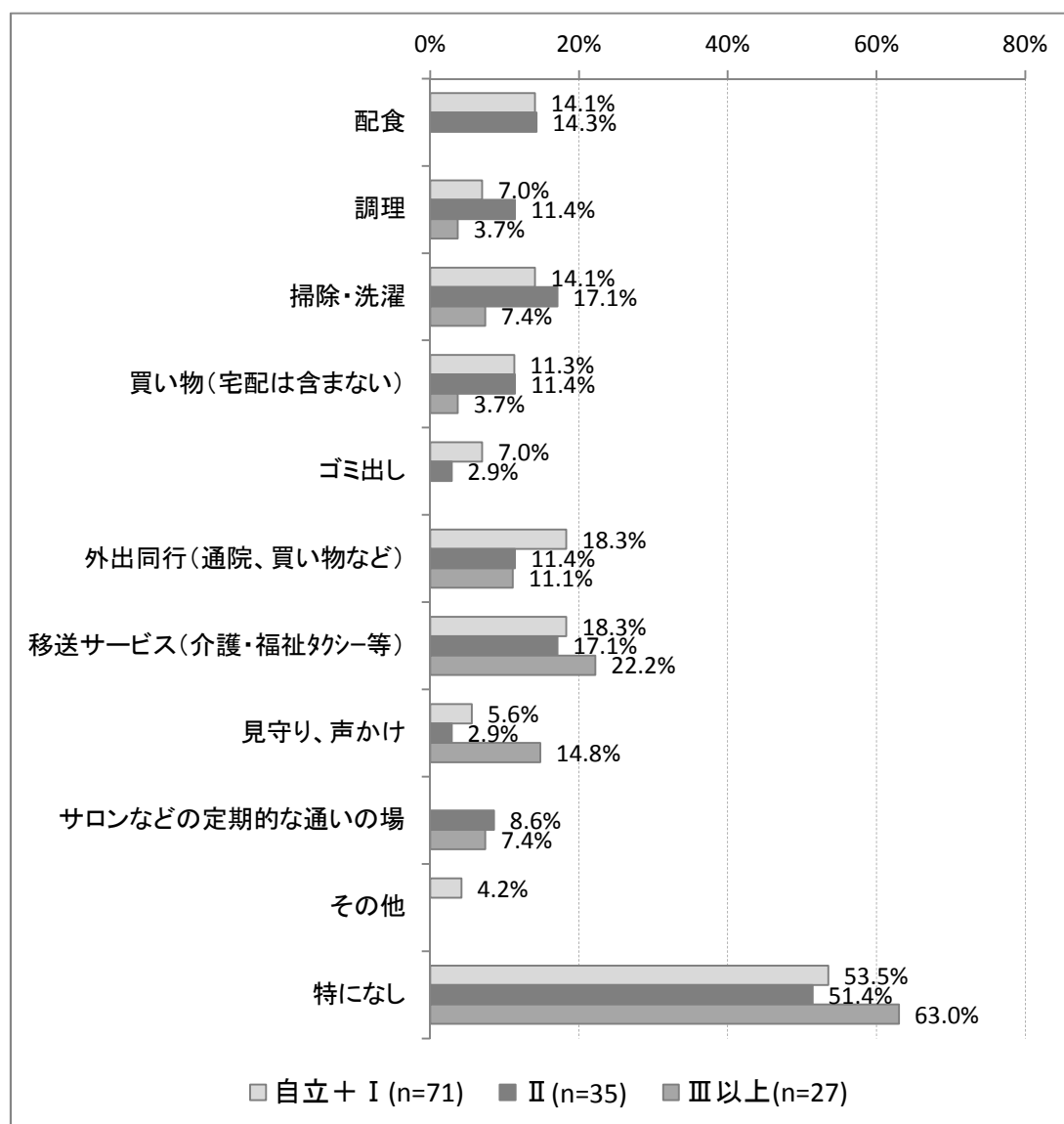
各自立度共通して、「特になし」が最も多い。

図表 6-10 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



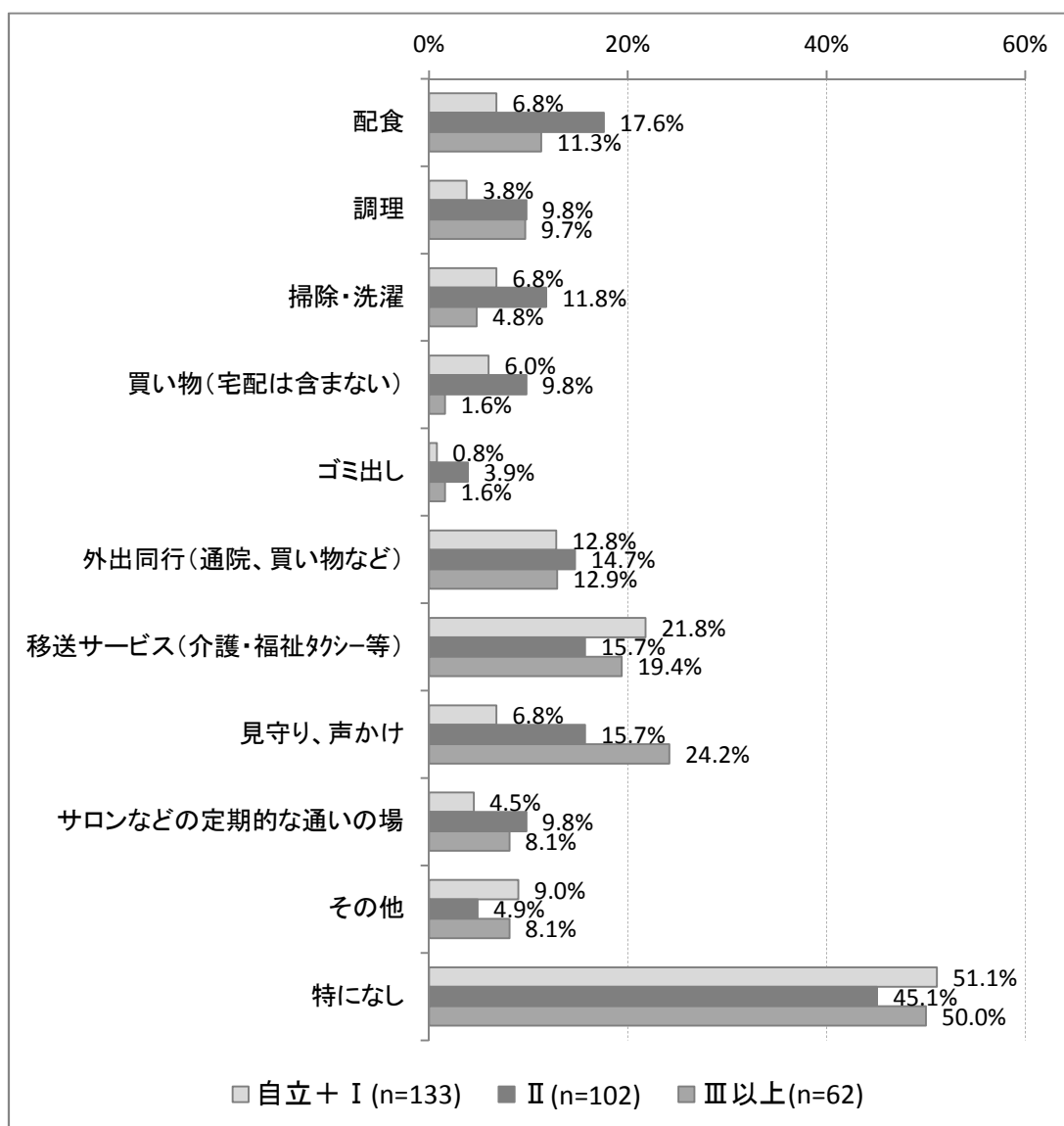
「自立+I」では「掃除・洗濯」が34.6%、「II」では「配食」・「掃除・洗濯」が38.7%、「III以上」では「外出同行」・「見守り、声かけ」が60.0%で最も多い。

図表 6-11 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



各自立度共通して、「特になし」が最も多い。

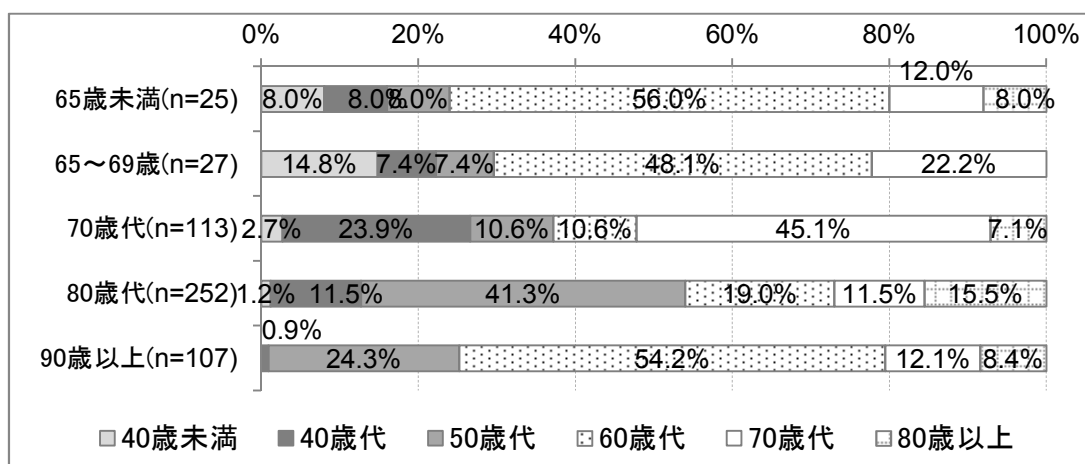
図表 6-12 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



各自立度共通して、「特になし」が最も多い。

(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

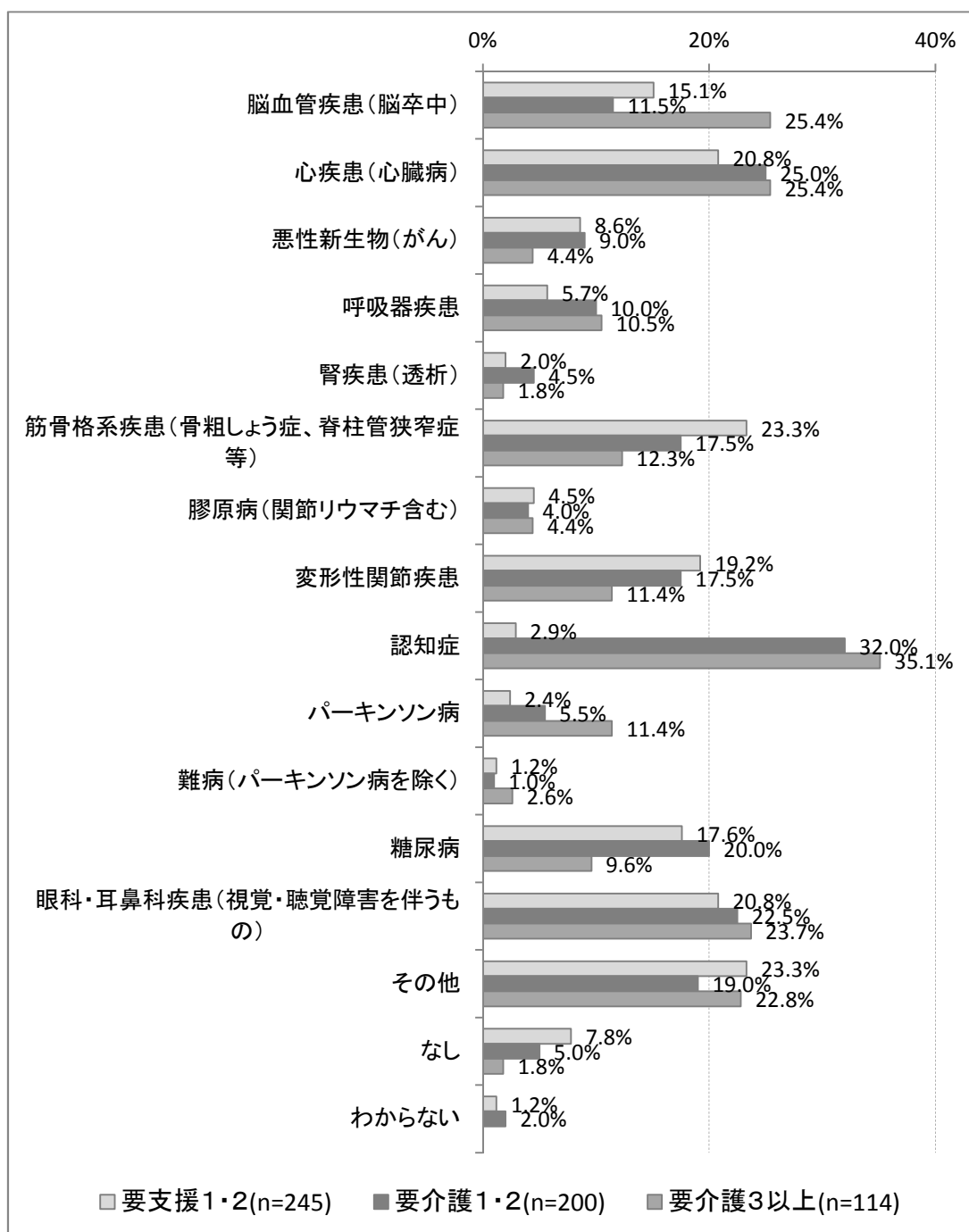
図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢



「65歳未満」では「60歳代」が56.0%、「65～69歳」では「60歳代」が48.1%、「70歳代」では「70歳代」が45.1%、「80歳代」では「40歳代」が41.3%、「90歳以上」では「60歳代」が54.2%で最も多い。

(5) 要介護度別の抱えている傷病

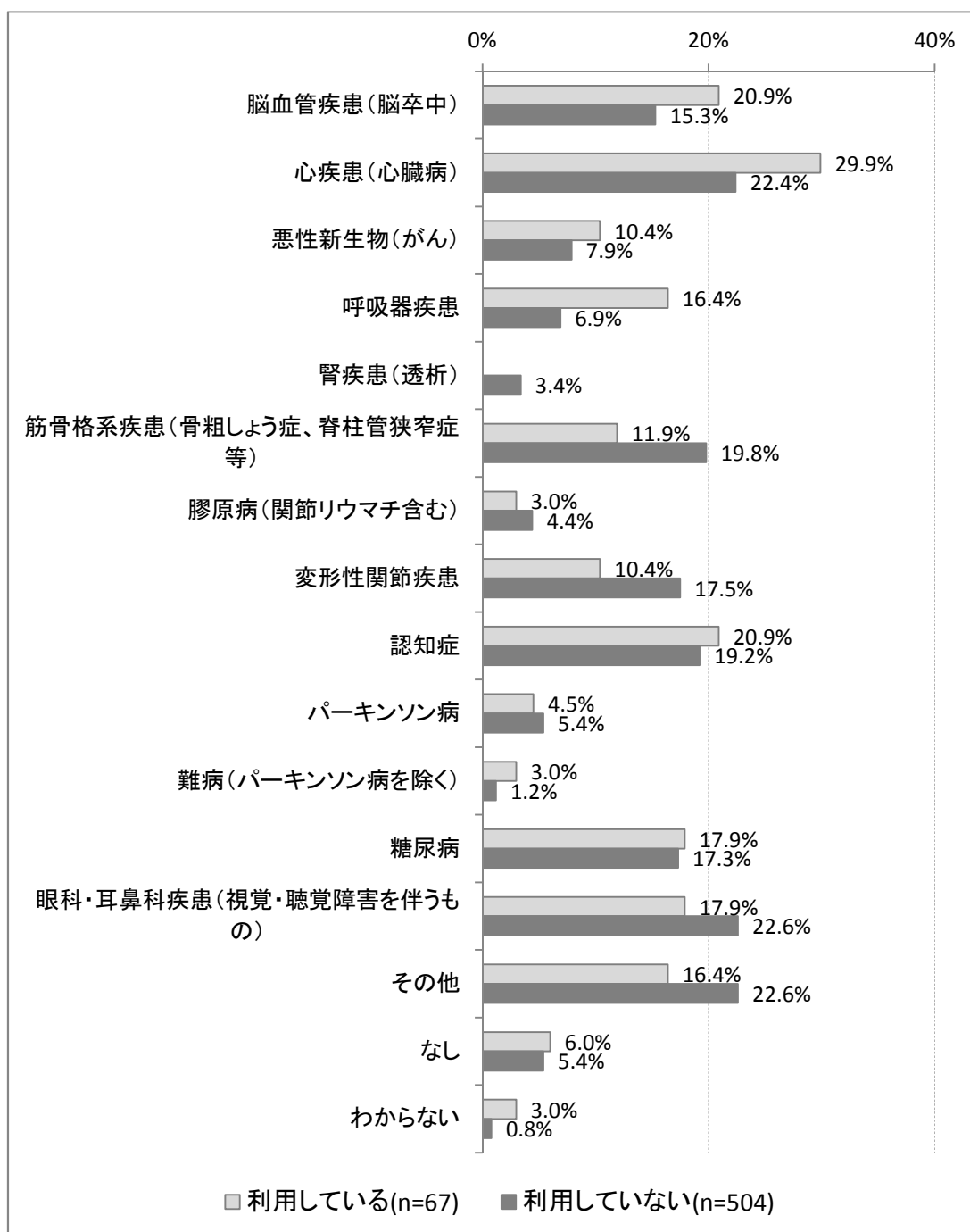
図表 6-14 要介護度別・抱えている傷病



「要支援1・2」では「筋骨格系疾患」・「その他」が23.3%、「要介護1・2」では「認知症」が32.0%、「要介護3以上」では「認知症」が35.1%で最も多い。

(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

図表 6-15 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



「利用している」では「心疾患」が29.9%、「利用していない」では「眼科・耳鼻科疾患」・「その他」が22.6%で最も多い。

参考資料

青梅市在宅介護実態調査 調査票

青梅市 在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号[_____]

【A 票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】（複数選択可）

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他

A 票 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない
2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
3. 週に1～2日ある
4. 週に3～4日ある
5. ほぼ毎日ある

問8(裏面)へ

問3～問13へ

問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他

問4 主な介護者の方の性別について、ご回答ください(1つを選択)

1. 男性
2. 女性

問5 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください(1つを選択)

1. 20歳未満
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代
7. 70代
8. 80歳以上
9. わからない

問6 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください(複数選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、スーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|---------|-----------|
| 15. その他 | 16. わからない |
|---------|-----------|

問7 ご家族やご親族の中で、ご本人(認定調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)(複数選択可)

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く) | 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く) |
| 3. 主な介護者が転職した | 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない | 6. わからない |

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

● ここから再び、全員に調査してください。

問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他 | 11.利用していない | |

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

- | | | |
|-------------------------|--------------------|-----------------------|
| 1. 配食 | 2. 調理 | 3. 掃除・洗濯 |
| 4. 買い物(宅配は含まない)
物など) | 5. ゴミ出し | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ
通いの場 | 9. サロンなどの定期的な
通いの場 |
| 10. その他 | 11. 特になし | |

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

問 10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

- | | |
|----------------------|-----------------|
| 1. 入所・入居は検討していない | 2. 入所・入居を検討している |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている | |

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

問 11 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中) | 2. 心疾患(心臓病) |
| 3. 悪性新生物(がん) | 4. 呼吸器疾患 |
| 5. 腎疾患(透析) | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む) | 8. 変形性関節疾患 |
| 9. 認知症 | 10. パーキンソン病 |
| 11. 難病(パーキンソン病を除く) | 12. 糖尿病 |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの) | 14. その他 |
| 15. なし | 16. わからない |

問 12 ご本人(認定調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか(1つを選択)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

問 13 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用していますか(1つを選択)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない |
|-----------|------------|

● 問 13 で「2.」を回答した場合は、問 14 も調査してください。

問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか(複数選択可)

1. 現状では、サービスを利用するほどの状態ではない
2. 本人にサービス利用の希望がない
3. 家族が介護をするため必要ない
4. 以前、利用していたサービスに不満があった
5. 利用料を支払うのが難しい
6. 利用したいサービスが利用できない、身近にない
7. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため
8. サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない
9. その他

- 問2で「2. 」～「5. 」を回答し、さらに「主な介護者」が調査に同席している場合は、「主な介護者」の方に B 票へのご回答・ご記入をお願いしてください。
- 「主な介護者」の方が同席されていない場合は、ご本人(調査対象者の方)にご回答・ご記入をお願いしてください(ご本人にご回答・ご記入をお願いすることが困難な場合は、無回答で結構です)。

主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入頂 く項目

※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

- | | | |
|-----------------------|---|---------|
| 1. フルタイムで働いている | } | 問2～問5へ |
| 2. パートタイムで働いている | | |
| 3. 働いていない | } | 問5(裏面)へ |
| 4. 主な介護者に確認しないと、わからない | | |

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない | 2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実 |
| 3. 制度を利用しやすい職場づくり | 4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタ
イム制など) |
| 5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど) | 6. 仕事と介護の両立に関する情報の提
供 |
| 7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置 | 8. 介護をしている従業員への経済的な
支援 |
| 9. その他 | 10. 特にない |
| 11. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 問題なく、続けていける | 2. 問題はあるが、何とか続けていける |
| 3. 続けていくのは、やや難しい | 4. 続けていくのは、かなり難しい |
| 5. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

⇒ 皆様、裏面へお進みください

● **ここから再び、全員の方にお伺いします。**

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄 | 2. 夜間の排泄 |
| 3. 食事の介助(食べる時) | 4. 入浴・洗身 |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等) | 6. 衣服の着脱 |
| 7. 屋内の移乗・移動 | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬 | 10. 認知症状への対応 |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) | |

〔生活援助〕

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等) | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き | |

〔その他〕

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他 | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない | |

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

青梅市在宅介護実態調査報告書

平成29年4月発行

【発行】青梅市 健康福祉部 高齢介護課

〒198-8701 青梅市東青梅1-11-1

電話：0428(22)1111（代表）
